

人と環境にやさしい神戸・瀬戸内クルーズの
あり方に関する調査研究報告書

平成21年3月

財団法人 関西交通経済研究センター

人と環境にやさしい神戸・瀬戸内クルーズのあり方に関する調査研究

委員会 委員名簿

(順不同・敬称略)

委員長	前田弘	阪南大学 国際コミュニケーション学部 教授
副委員長	池田良穂	大阪府立大学大学院 工学研究科 教授
委員	森田潔	社団法人 神戸港振興協会 振興部長
〃	神野博一	クルーズマスター/エムオーツーリスト株式会社 大阪支店
〃	南部真知子	株式会社 神戸クルーザー・コンチェルト 代表取締役社長
〃	清水稔	三菱重工業株式会社 神戸造船所 総務部 総務課長
〃	斎藤邦雄	兵庫県産業労働部 観光・国際局 観光交流課長
〃	花木章	神戸市みなと総局 参事
〃	杉中洋一	近畿地方整備局 港湾空港部 地域港湾空港調整官
〃	伊藤政美	神戸運輸監理部 総務企画部 企画課長
〃	石定洋子	神戸運輸監理部 海事振興部 旅客課長
顧問	田中護史	神戸運輸監理部長
〃	植村武雄	社団法人 神戸経済同友会 顧問

(事務局)

財団法人 関西交通経済研究センター
神戸運輸監理部
社団法人 神戸経済同友会

人と環境にやさしい神戸・瀬戸内クルーズのあり方に関する調査研究

ワーキンググループ 委員名簿

(順不同・敬称略)

座長	池田良穂	大阪府立大学大学院 工学研究科 教授
委員	小林幹弘	OFFICE MKS (海事代理事務所) 代表者
〃	神野博一	クルーズマスター/エムオーツーリスト株式会社 大阪支店

報告書編集委員会 委員名簿

(順不同・敬称略)

委員長	前田弘	阪南大学 国際コミュニケーション学部 教授
副委員長	池田良穂	大阪府立大学大学院 工学研究科 教授
委員	植村武雄	社団法人 神戸経済同友会 顧問
〃	神野博一	クルーズマスター/エムオーツーリスト株式会社 大阪支店
〃	伊藤政美	神戸運輸監理部 総務企画部 企画課長
〃	石定洋子	神戸運輸監理部 海事振興部 旅客課長

報告書・目次

第 章 調査概要

1．調査の背景と目的	1
2．国内クルーズ事業を取り巻く環境	1
3．調査体制	3

第 章 せとうち・感動体験クルーズ参加者・関係者調査結果

1．せとうち・感動体験クルーズ実施概要	7
2．せとうち・感動体験クルーズ参加者インタビュー調査	7
3．せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査	10
4．神戸・瀬戸内クルーズ関係者ヒアリング調査	24

第 章 神戸港および瀬戸内海周辺地域における港湾施設・交通アクセス・観光振興の現状

1．神戸港および瀬戸内海周辺地域における港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状	29
2．神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセス状況と改善方策	36
3．瀬戸内海周辺地域において展開される観光振興の取り組み	42

第 章 人と環境にやさしいクルーズ客船のコンセプトデザイン

1．クルーズ客船のコンセプトデザイン	45
2．経済性評価	52

第 章 神戸・瀬戸内クルーズ振興の方向性

1．各調査結果より明らかになったこと	55
2．神戸・瀬戸内クルーズ振興にかかる論点	57
3．神戸・瀬戸内クルーズの今後のあり方	60

参 考 資 料

第 章 調査概要

1. 調査の背景と目的

四方を海に囲まれた我が国において海は身近な存在である。海は我が国の産業、文化の形成・発展を支えてきた。平成19年4月に海洋基本法が成立、平成20年4月に海洋基本計画が策定され、「新たな海洋立国日本の実現」を目指して、海事産業全体の更なる振興及びその国際競争力の更なる強化や海洋に関する国民の理解の増進を図る取り組みが行われている。

また、平成20年10月、国土交通省に観光庁が設置され、「観光立国の実現」に向けた体制が整い、全国で観光の取り組みが活発化している。観光庁では平成21年1月、「アクションプラン」を策定し、クルーズ振興について、寄港を促すための関係者間の連携強化・受け入れ体制整備、ビジット・ジャパン・キャンペーンと連携した客船誘致プロモーションの実施を施策として掲げた。

本調査は、みなとまちとして栄えた西の玄関口である神戸の海事クラスター構築を通じた「神戸港再生」を、神戸港発着の瀬戸内海クルーズで実現しようと、(社)神戸経済同友会が企画主催し、官民あげて取り組んだ「せとうち・感動体験クルーズ」(平成20年7月16～18日)をケーススタディに、クルーズの新たな魅力と可能性を「人と環境にやさしい」の観点から行ったものである。

シニア層、ハンディキャップある社会的弱者等すべての「人にやさしい」ユニバーサル時代を見据えた新たなツーリズムとしてクルーズを提案した。

また、将来、神戸港発着の瀬戸内海クルーズに民間事業者が参入する場合、瀬戸内海の島々を巡る「環境にやさしい」小回りの効く新船を建造する際のコンセプトデザインと経済性評価のモデル設計を行った。

さらに、本調査では、将来展望として、神戸・瀬戸内海沿岸諸都市の広域連携により、クルーズだからこそ実現できる神戸・瀬戸内の国際競争力ある新たな広域クルーズブランドを確立して、西日本発で「海事・観光立国」を実現するための方向性を提案した。

2. 国内クルーズ事業を取り巻く環境

クルーズを楽しんだり、クルーズ客船を間近で見て乗ってみたいと思ったりする機会が限られている

- ・国内で供給されるクルーズの便数が少ない。(国内にクルーズ客船が4隻しかなく、各船とも年間の2/3は外航に出ている)
- ・供給されているのは高額路線の商品が主体。(海外では高額路線の商品はクルーズ市場の5%)
- ・海外業者にとって日本に寄港するインセンティブが高まっていない。(ニーズはあるものの入国手続きがスムーズでない など)

- ・外国船籍のクルーズ客船は日本への寄港意欲はあるものの、入国審査の煩雑から実際の寄港に結び付いていない面がある（入国審査を円滑にするために、入管当局・港湾管理者との連携を観光庁で検討中）

クルーズ市場拡大に大きな課題がある

- ・一般旅行に比べ、多数のサービス要員や運航要員の確保を必要とするクルーズ旅行は、人件費抑制のうえで多くの課題を克服する必要があり、消費者が求める価格帯でのクルーズ商品が開発しにくい。

瀬戸内海を制約なく航行できるクルーズ客船がない

- ・客船専用ターミナルである中突堤旅客ターミナルを有し、自治体による積極的なポートセールスのもと、国内外のクルーズ客船が数多く寄港する神戸港は、受け入れ態勢は充実し知名度も高いため、瀬戸内海を舞台とした神戸・瀬戸内クルーズの発着港として適している。
- ・しかし、多島美景観など瀬戸内の魅力を体験することができるような小回りの利くサイズで、かつ宿泊機能を持つような、神戸・瀬戸内クルーズに適した船舶が不足している。

環境面に配慮した交通手段へのニーズが高まっている

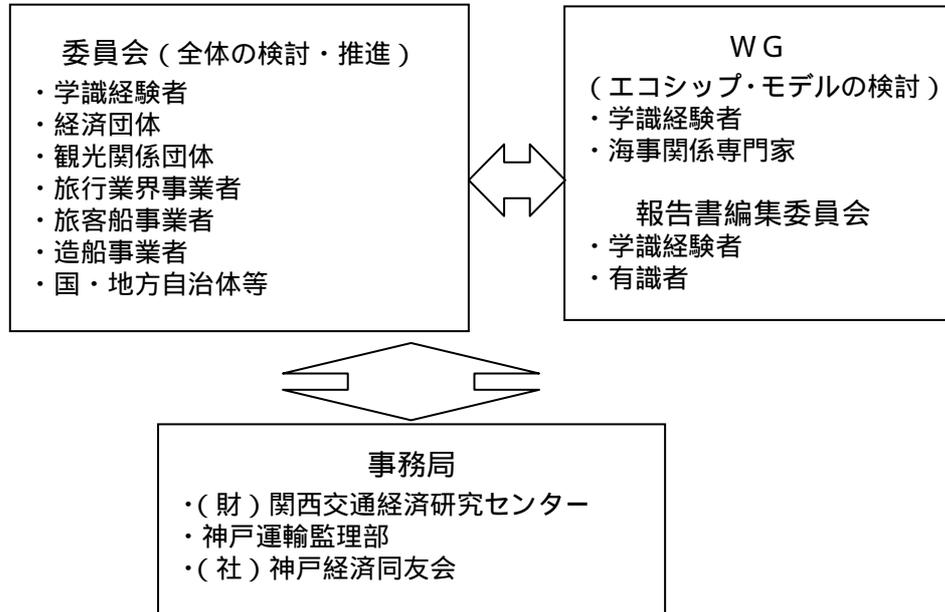
- ・地球温暖化がサミットで主要課題とされるなど、環境問題への関心はこれまでになく高まりを見せており、「エコノミーとエコロジーの両立」が重要な社会的課題として認識され、さまざまな取り組みが行われている。
- ・このような中、船舶においても環境にやさしく経済性・安全性の面で優れた性能を有する「スーパーエコシップ」（電気推進船）の建造などが進められており、平成17年度から宮島航路で導入されている。

「せとうちクルーズ」の母港としての役割を神戸港が果たす意義

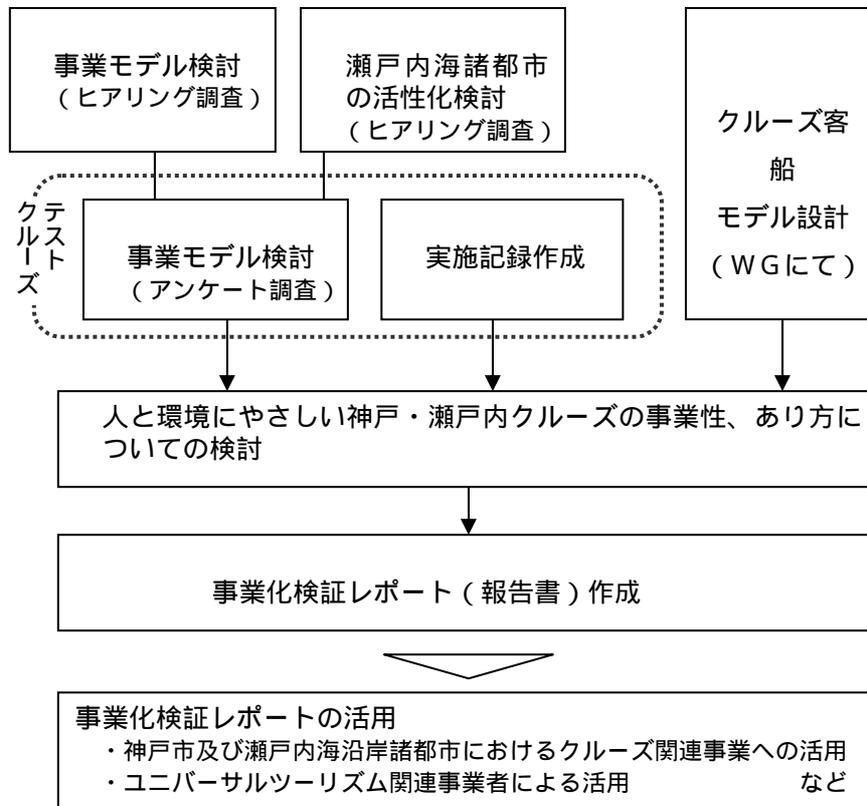
- ・神戸港を母港とした神戸・瀬戸内クルーズの事業化により、神戸のまちが内外との交流都市として活性化される。
- ・港湾使用料、給油・船用品、荷役・輸送などの収入により、裾野が広い神戸の海事産業に対して、プラスの影響を与えることができる。
- ・母港となることで、これらの収入だけでなく固定資産税も入るため、神戸市の財政を潤すことができる。
- ・京都・奈良・大阪など、恵まれた観光資源を持つ地域を背後に抱え、「せとうちクルーズ」の魅力に膨らみを持たせることができる。

3. 調査体制

(1) 実施体制



(2) 調査のフローチャート



(3) 委員会・WG等の開催

	開催日	開催場所	おもな検討事項
第1回委員会	平成20年5月27日	兵庫県農業共済会館	調査計画について
第1回クルーズ客船WG	6月5日	関西文化サロン	クルーズ客船検討方針について
第2回クルーズ客船WG	8月6日	関西文化サロン	クルーズ客船コンセプト(案)について
第3回クルーズ客船WG	10月16日	関西文化サロン	クルーズ客船経済性評価について
第1回報告書編集委員会	11月17日	関西文化サロン	中間報告書の構成・内容について
第2回委員会	11月20日	神戸銀行倶楽部	
第2回報告書編集委員会	平成21年2月24日	関西文化サロン	報告書(案)の構成・内容について
第3回委員会	2月27日	神戸銀行倶楽部	

(4) 調査内容

シニアツーリズム・バリアフリーツーリズム及びヘルスツーリズムの観点からのクルーズモデルの検討(ヒアリング)

調査方法

ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズム関係学識者、及び旅客船事業者等にヒアリングを実施する。

調査項目

ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズム関係者

- ・ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズムの現状と課題
- ・神戸・瀬戸内クルーズにおけるユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズム展開の視点 など

旅客船事業者

- ・クルーズ事業の採算性
- ・クルーズ事業の運営体制 など

ヒアリング対象

- ・ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズム関係者：学識経験者
- ・旅客船事業者：神戸港を拠点とする事業者

シニアツーリズム・バリアフリーツーリズム及びヘルスツーリズムの観点からのクルーズモデルの検討(アンケート)

調査方法

体験クルーズ参加者にアンケートを実施する。

調査項目

- ・参加のきっかけ・動機
- ・寄港地での過ごし方
- ・体験クルーズの感想
- ・旅行商品としての評価
- ・「人にやさしい」視点からの評価
- ・「環境にやさしい」視点からの評価
- ・神戸港のアクセスの評価 など

アンケート調査：体験クルーズ実施時（最終日配布、下船時回収）

神戸・瀬戸内クルーズにふさわしい、「環境にやさしい」低環境負荷・「人にやさしい」
バリアフリー化クルーズ客船のモデル設計

実施内容

WG を設置し低環境負荷・バリアフリー化クルーズ客船のモデル設計へ向けた検討を行う。

検討にあたっての留意点

- ・スーパーエコシップを始めとした低環境負荷船
- ・狭水路・浅瀬・小島への寄港等を前提とした操作性
- ・「人にやさしい」バリアフリー化
- ・2～3泊を前提とした国内クルーズ用の船内
- ・神戸・瀬戸内クルーズの特性に応じた船型 など

神戸・瀬戸内クルーズによる神戸市及び瀬戸内海沿岸諸都市の活性化検討

調査方法

神戸・瀬戸内クルーズ関係者や寄港地（神戸市・尾道市・高松市）の自治体・関係団体に対して、ヒアリング調査を実施する。

調査項目

- ・寄港地の港湾施設の実態
- ・オプションツアーなど寄港地でのおもてなし計画と期待
- ・クルーズ客船寄港による地域活性化への貢献度
- ・地元事業者の体験クルーズへの参画状況、及び今後の課題

実施時期

- ・体験クルーズ前：寄港地概要・おもてなし計画などについて情報収集
- ・体験クルーズ後：現地を訪問して実施結果や今後の課題等についてヒアリング

体験クルーズの詳細実施記録作成

実施内容

体験クルーズ実施時に船内や寄港地における実施記録を作成する。

記録する際の視点

- ・船内・寄港地でくつろぐ参加者の様子
- ・高齢者・障害者への対応の状況 など

実施に当たる留意事項

- ・高齢者・障害者への対応状況として、バリアフリー化された船内・港湾設備や、事務局スタッフによる模擬対応などを記録する

人と環境にやさしい神戸・瀬戸内クルーズの事業性、あり方についての検討

- の結果をもとに、神戸・瀬戸内クルーズのあり方、人と環境にやさしいツーリズムとしてのあり方について分析・整理する。

分析検討内容

テストクルーズでの調査結果の分析

- ・参加者ニーズと課題、今後の瀬戸内海クルーズの展開可能性
- ・寄港地における課題、今後の展開可能性 等

新たなクルーズ客船モデルの検討

- ・「人にやさしい」「環境にやさしい」クルーズ客船に求められる機能の整理
- ・事業者の意見等を踏まえた、瀬戸内海クルーズにおける事業性
- ・ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズムとしての活用課題

検討の視点

神戸・瀬戸内クルーズのあり方

- ・瀬戸内海クルーズの魅力、ポテンシャル
- ・神戸および沿岸諸都市の活性化

人と環境にやさしいツーリズムとしてのあり方

人にやさしいツーリズム

- ・高齢者や障害者に優しいクルーズの特性
- ・ヘルスツーリズムとしての展開可能性

環境にやさしいツーリズム

- ・船を使った旅行の推進
- ・低環境負荷クルーズ客船の導入

事業化検証レポート（報告書）作成

実施内容

上記 ～ の結果を踏まえ、調査全体のとりまとめを行う。

第 章 せとうち・感動体験クルーズ参加者・関係者調査結果

1. せとうち・感動体験クルーズ実施概要

(1) 期間

平成 20 年 7 月 16 日(水)～7 月 18 日(金)

(2) 参加者

約 400 名(神戸経済同友会関係者 200 名、一般参加者 200 名)

(3) 利用船舶

ぱしふいっくびいなす号

(日本クルーズ客船株式会社所有、総トン数 26,561 トン、全長 183.4m)

(4) 寄港地

神戸港(兵庫県神戸市) 瀬戸田港(広島県尾道市) 高松港(香川県高松市)

(5) 参加費用(大人一人あたり)

78,000 円～365,000 円(船室タイプ、および 1 室の宿泊人数により異なる)

(6) スケジュール

7 月 16 日	11:00	神戸港出港
		瀬戸田港沖停泊
7 月 17 日	07:00	瀬戸田港入港
	16:00	瀬戸田港出港
	21:00	高松港入港
7 月 18 日	14:30	高松港出港
	20:00	神戸港入港

2. せとうち・感動体験クルーズ参加者インタビュー調査

(1) 実施概要

実施期間:

2008 年 7 月 16 日(水)～7 月 18 日(金)

対象

せとうち・感動体験クルーズ参加者

インタビュー内容

- ・ヘルスツーリズムの観点:健康に関して感じること など
- ・ユニバーサルツーリズムの観点:船内のバリアフリーに関する感想 など

実施人数

29 名(ヘルスツーリズムの観点 16 名、ユニバーサルツーリズムの観点 5 名、
その他 8 名)

(2)ヘルスツーリズムの観点：健康に関するインタビュー結果（抜粋およびポイント）

涼しく気持ちいい。天気が良く最高。こんなに気持ちが良いのはあまりない。(50代男性)
 ゆったり、ぼんやりできて最高。船ならではの景色が見られる。瀬戸内海や島がきれい。
 エクササイズルームで自転車こいで、ビール飲んで、よい時間を過ごしている。(40代女性)
 5時前に起床して、海と朝日を眺めながら散歩している。寝るのは普段通り11時だったが、
 寝付きが良く起きる時間はいつもより1時間ほど早い。(50代男性)
 いつも体操を心掛けているが、早朝の海を眺めながらの体操は心地よい。久しぶりにゆっ
 たりした時間を過ごせている。(30代女性)

瀬戸内海を眺めてくつろぐ参加者



早朝に船内スタッフとラジオ体操をする参加者



ポイント

- ・期間中を通じて「気持ちが良い」「ゆったりしている」といった声が多く聞かれた。参加者が船旅によりリフレッシュしていることがうかがえる。
- ・早朝など、デッキでは運動・体操をする参加者が随時見られた。瀬戸内海の自然の中で、健康につながる活動に対して意欲的になっていることがうかがえる。

(せとうち・感動体験クルーズ パンフレット)



(3) ユニバーサルツーリズムの観点：バリアフリーに関するインタビュー結果（抜粋およびポイント）

以前はバスなどでよく旅行していたが、病気をしてから歩行も困難で、旅行をあきらめていた。クルーズを知って以来、毎年2回程度はクルーズの旅をしている。クルーズは本当に楽しい。障害も気にならず旅が楽しめる。（杖をついた80代女性）

移動が不自由で写真を撮る思うように撮れないのが残念だが、車椅子での船の中の移動は問題ない。（車椅子の70代女性）

クルーズは移動が楽。車椅子の妻を連れて歩くので、荷物を移動させる必要が無いのはとてもよい。（80代男性）

歩行補助器具を利用している参加者



車椅子を利用する参加者が下船する様子



ポイント

- ・体験クルーズには、車椅子・歩行補助器具・杖などを利用する方が何名か参加していた。同行者による介助のもと、クルーズを楽しんでいる様子だった。
- ・客室自体が目的地へ移動し、バリアフリーの視点においても優位性を発揮できるクルーズ客船による旅は、要介助者・同行者にとって利便性の高い旅行手段であることがわかる。

(せとうち・感動体験クルーズ 日程表)

SCHEDULE
Discover the Inland Sea
せとうち・感動体験クルーズ
2008年7月16日(水)～7月18日(金)
日程表

3. 寄港地のご案内

【瀬戸田/生口島】
 入港日時：7月17日(木) 07:00(午前7時)
 出港日時：同 日 16:00(午後4時)
 上陸場所：瀬戸田港

- ・生口島では瀬戸田港沖に離島し、通航にて上陸いたします。
- ・本船から通航に乗り移る際は、足元が不安定になり危険が伴いますので、係員の誘導に従ってください。車椅子での、又、お体のご不自由なお客さまの通航上陸のご配慮をお願いする場合がございます。
- ・通航の荷役時間、乗船については船内手帳にてご案内いたします。本船から瀬戸田港までの通航所要時間は約10分、入港時には本船/瀬戸田港を複数通航で連続通航する予定です。

【瀬戸田/生口島】

■瀬戸田港から - 早山船夫美術館、新三寺まで徒歩約10分

【高松】
 入港日時：7月17日(木) 21:00(午後9時)
 出港日時：7月18日(金) 14:30(午後2時30分)
 入港場所：高松港 サポート高松 2万吨級岸壁

【高松港周辺地図】

■高松港から - JR高松駅まで 徒歩約5分
 ・高松駅前高松港駅まで 徒歩約5分

3. せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査

(1) 実施概要

実施期間

7月16～18日(下船時回収)

対象

せとうち感動体験クルーズ参加者

回収数

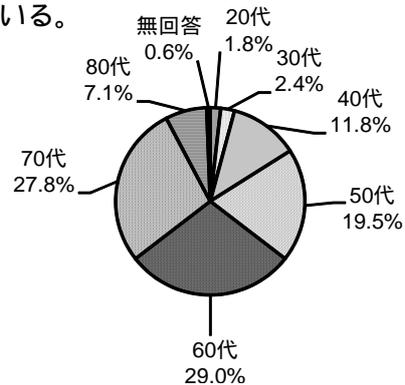
169(全体の約40%)

回答者属性

<年齢>

・60代、70代が多く、全体の56.8%を占めている。

(N=169)		
20代	3	1.8%
30代	4	2.4%
40代	20	11.8%
50代	33	19.5%
60代	49	29.0%
70代	47	27.8%
80代	12	7.1%
無回答	1	0.6%
計	169	100.0%

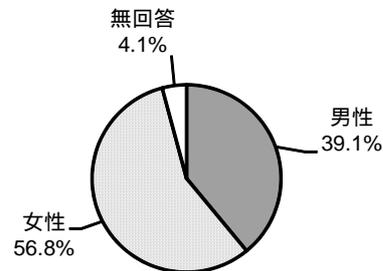


20代、30代は合計した「20・30代」としてクロス分析を実施

<性別>

・女性が比較的多く全体の56.8%を占めている。

(N=169)		
男性	66	39.1%
女性	96	56.8%
無回答	7	4.1%
計	169	100.0%

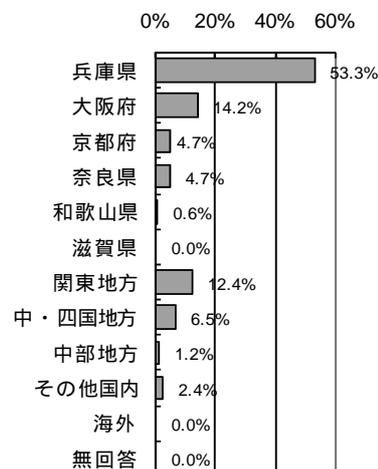


<居住地>

・兵庫県が最も多く全体の53.3%を占めている。

・大阪府・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県を合計した「その他関西地方」が次いで多く全体の24.3%を占めている。

(N=169)		
兵庫県	90	53.3%
大阪府	24	14.2%
京都府	8	4.7%
奈良県	8	4.7%
和歌山県	1	0.6%
滋賀県	0	0.0%
関東地方	21	12.4%
中・四国地方	11	6.5%
中部地方	2	1.2%
その他国内	4	2.4%
海外	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	169	100.0%

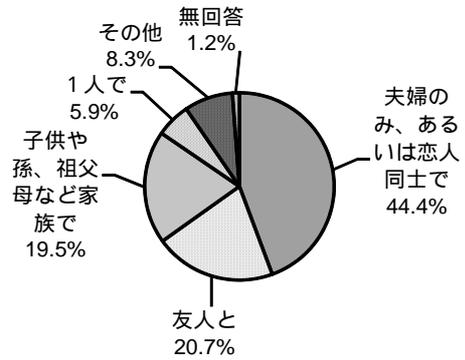


大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県は合計した「その他関西地方」としてクロス分析を実施
中部地方・その他国内は合計した「その他国内」としてクロス分析を実施

< 同行者 >

・「夫婦のみ、あるいは恋人同士」が最も多く全体の 44.4%を占めている。

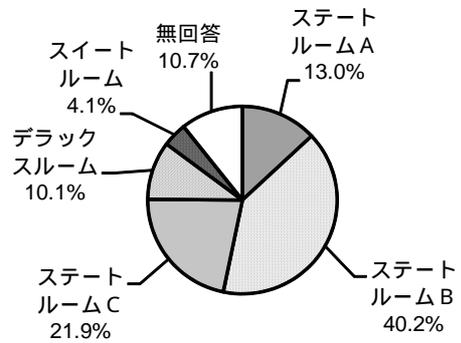
(N=169)		
夫婦のみ、あるいは恋人同士で	75	44.4%
友人と	35	20.7%
子供や孫、祖父母など家族で	33	19.5%
1人で	10	5.9%
その他	14	8.3%
無回答	2	1.2%
計	169	100.0%



< 利用船室タイプ >

・ステートルームBが最も多く全体の 40.2%を占めている。

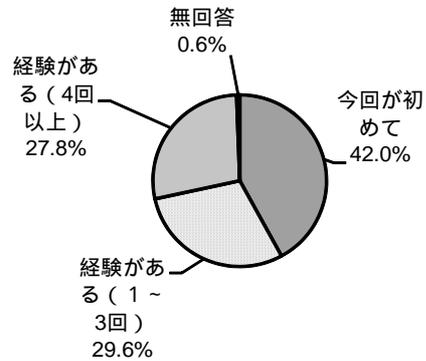
(N=169)		
ステートルームA	22	13.0%
ステートルームB	68	40.2%
ステートルームC	37	21.9%
デラックスルーム	17	10.1%
スイートルーム	7	4.1%
ロイヤルスイートルーム	0	0.0%
無回答	18	10.7%
計	169	100.0%



< クルーズ旅行の利用経験 >

・「今回が初めて」が最も多く全体の 42.0%を占めている。

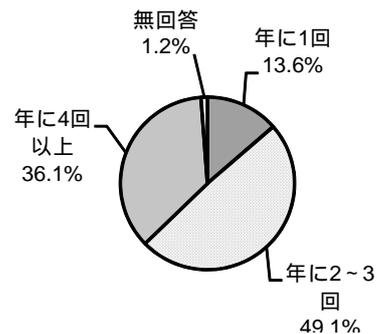
(N=169)		
今回が初めて	71	42.0%
経験がある(1~3回)	50	29.6%
経験がある(4回以上)	47	27.8%
無回答	1	0.6%
計	169	100.0%



< クルーズ旅行の利用経験 >

・「年に2~3回」が最も多く全体の 49.1%を占めている。

(N=169)		
年に1回	23	13.6%
年に2~3回	83	49.1%
年に4回以上	61	36.1%
無回答	2	1.2%
計	169	100.0%



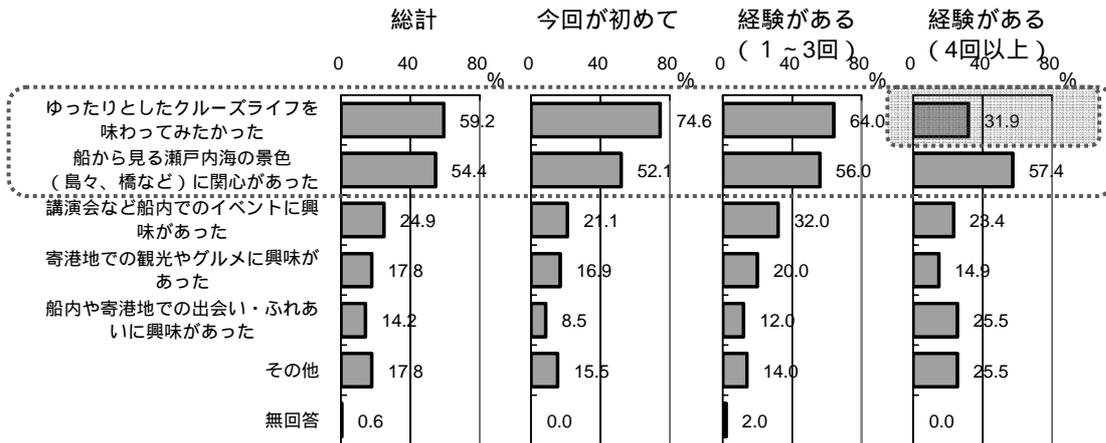
(2) アンケート調査結果(抜粋)

「せとうち・感動体験クルーズ」に参加するまで

問2. 今回参加した動機

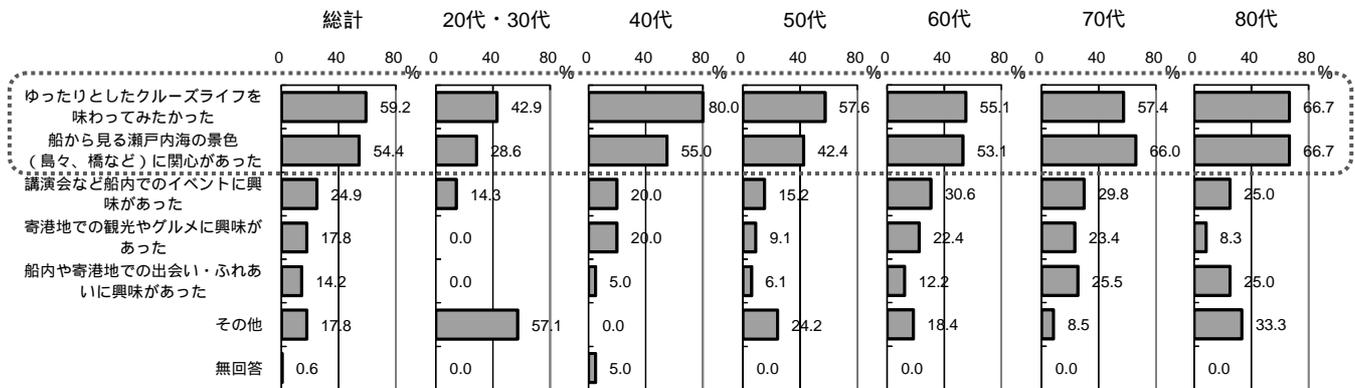
<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・「船から見る瀬戸内海の景色」は全体に多い。
- ・「ゆったりとしたクルーズライフ」は利用経験が少ない人に多く、利用経験が多いほど少ない。



<年齢別>

- ・「ゆったりとしたクルーズライフ」は全体に多いが、40代に特に多い。
- ・「船から見る瀬戸内海の景色」は年代に偏りなく多い。



ポイント

利用経験の多少に関わらず、「船から見る瀬戸内海の景色」は多くの消費者に訴求しうる瀬戸内海クルーズの魅力である。

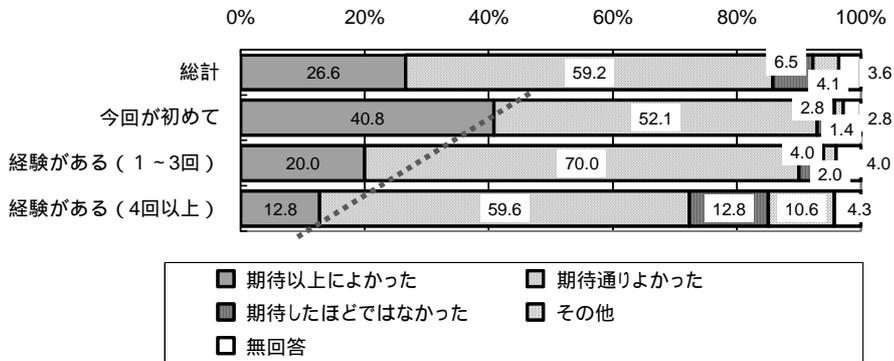
加えてクルーズの利用経験の少ない層、および40歳代を中心とした幅広い年齢層に対しては「ゆったりとしたクルーズライフ」というイメージを訴求できる。

今回のクルーズの全体としての感想

問3．今回のクルーズ全体の概要

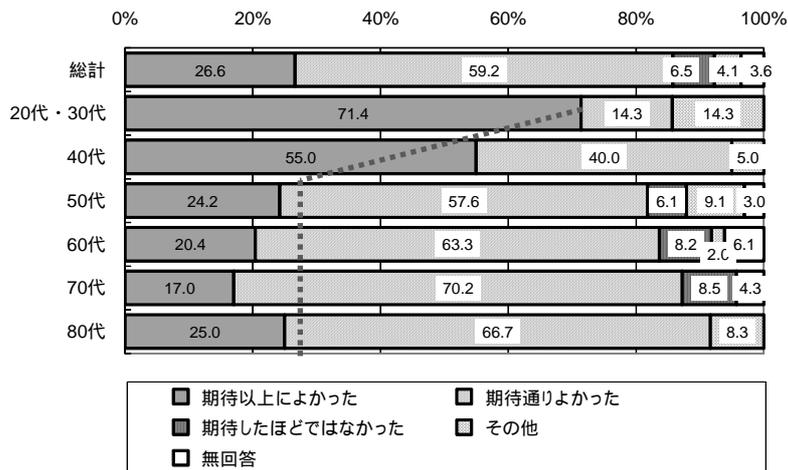
<クルーズ旅行の利用経験別>

・利用経験が少ないほど「期待以上に良かった」という評価が多い。



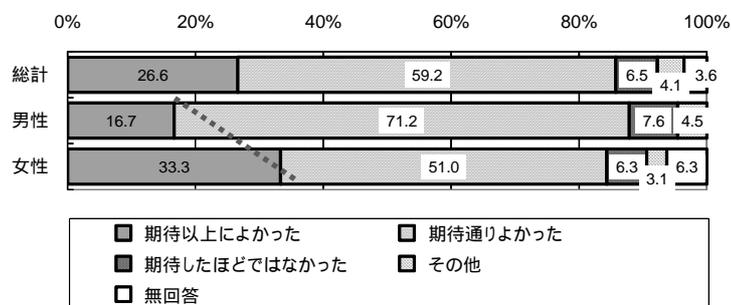
<年齢別>

・若年層ほど「期待以上に良かった」という評価が多い。



<性別>

・女性の「期待以上に良かった」という評価が、男性の倍程度多い。

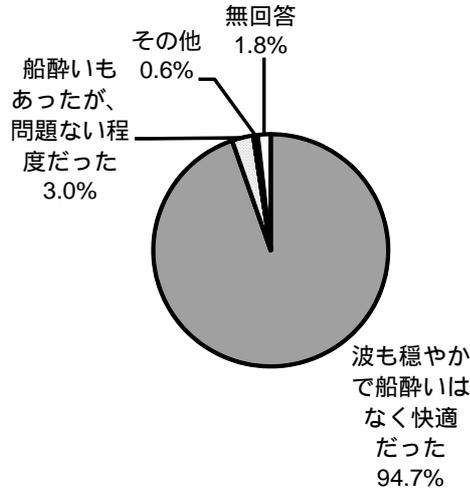


ポイント

クルーズ全体の評価は「利用経験が少ない」のほか「40歳代以下」「女性」層において、それ以外の層と比較して評価が高い。これらの層は、瀬戸内海クルーズが裾野を広げて展開する場合に重要な顧客層であると考えられる。

問5.「船酔い」について

・ほとんどの参加者が船酔いはなかったと答えている。



ポイント

体験クルーズ実施期間は天候が安定しており、大きな波はなく船が揺れることは殆どなかった。全般的に瀬戸内海は内海であり穏やかな天候の日が多いため、船酔いの心配がある人にとってもクルーズが十分に楽しめる可能性が高いことを表している。

(せとうち・感動体験クルーズ客船内新聞)

日本初・一次船種別客船
ぽしぽし ぽしぽし

平成20年7月16日(水)

せとうち・感動体験クルーズ

クルーズスケジュール

お食事の時間

お食事の時間

お食事の時間

PACIFIC VENUS

7月16日(水)

神戸出港 11:00

10:00-11:15 1階 オープンデッキ

14:00-14:30 船中エンターテインメント

14時三十分~15時

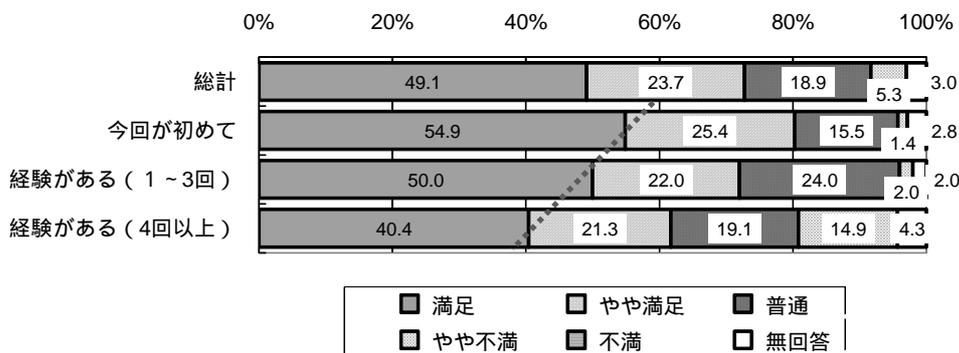
16:00-17:00 瀬戸内海 夕暮しの風景

18:00-19:00 瀬戸内海 夕暮しの風景

問6 - 1 . 評価 / 日程・コースについて

<クルーズ旅行の利用経験別>

・利用経験が少ないほど「満足」という評価が多い。



ポイント

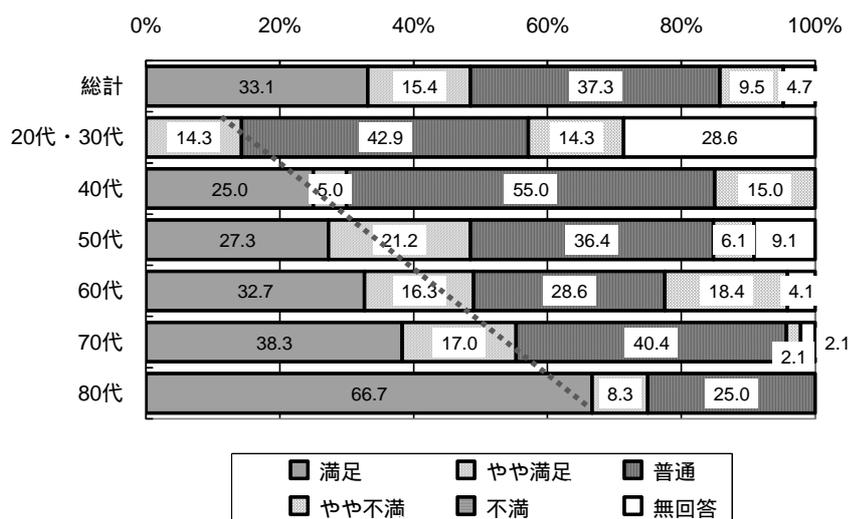
利用経験が少ないほど満足度が高いと言える。他には年齢層が高いほど満足度が高い()。このことから、クルーズ人口の裾野を広げるためには、クルーズ未経験のシニア層以上を顧客層として獲得するべく、各営業クルーズで1組程度は体験クルーズを募る取り組みなどを通じて、クルーズの魅力を具体的に体感してもらうなどの取り組みが重要であるといえる。

(年齢別の分析結果は参考資料「せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査」を参照)

問6 - 2 . 評価 / 価格について

<年齢別>

・年齢が高いほど「満足」という評価が多い。



ポイント

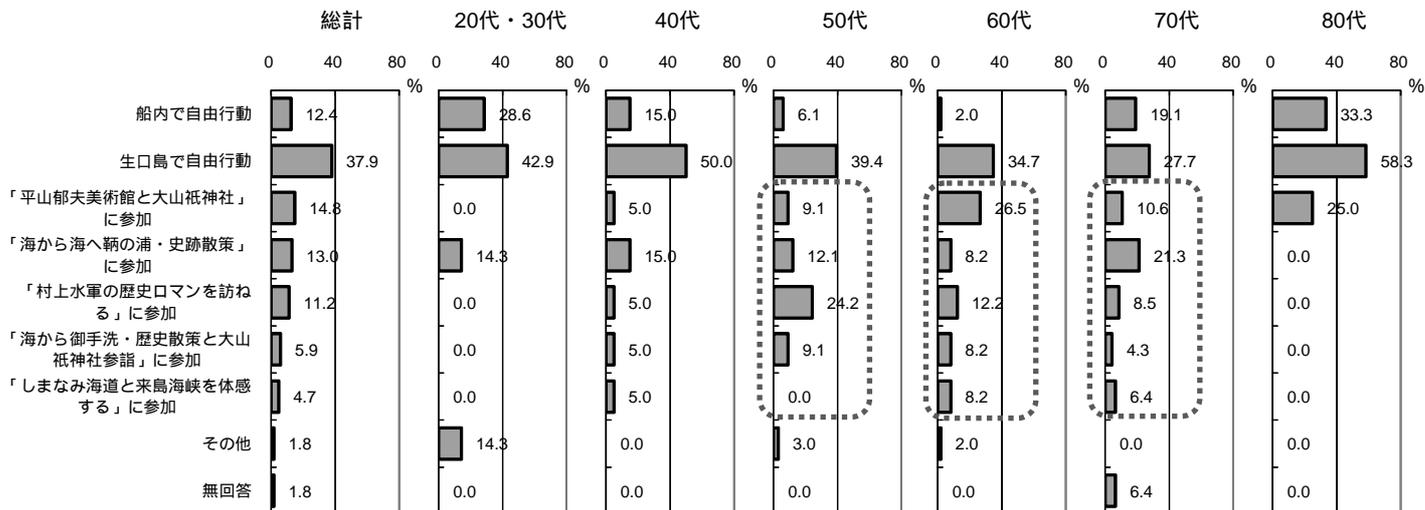
年齢層が高いほど、今回の体験クルーズの価格を妥当と考える割合が多い。若い層においても割高感さはほど強いとはいえないが、クルーズへの参加を促すためには、若年層向けのより手ごろな価格の商品開発も考慮する必要があると考えられる。

発着地・寄港地での過ごし方について

問 1 3 . 瀬戸田での過ごし方 (複数回答)

< 年齢別 >

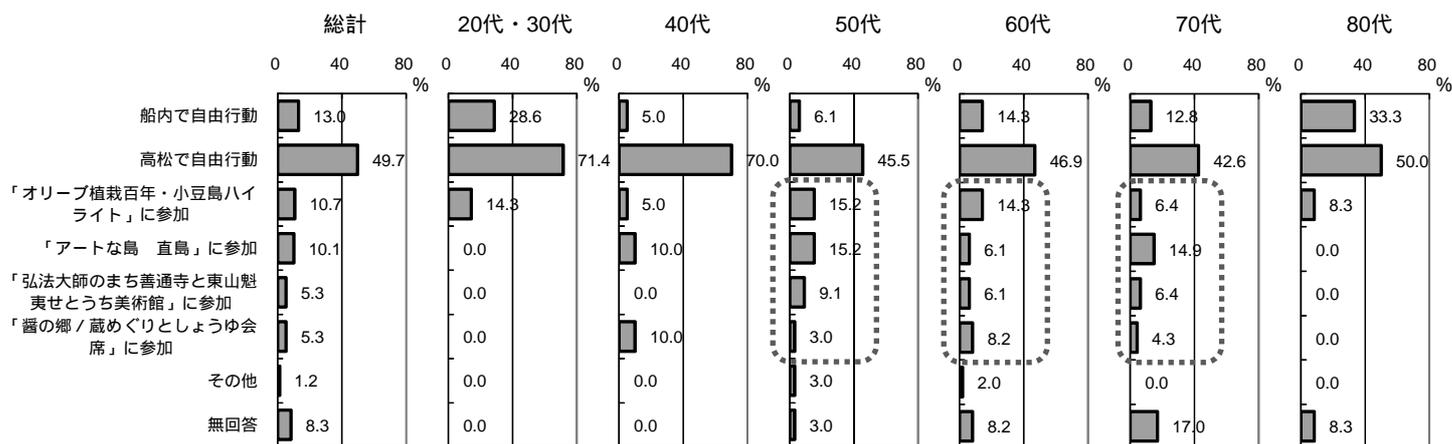
・ 50・60・70代でオプションツアーへの参加率が高い。



問 1 5 . 高松での過ごし方 (複数回答)

< 年齢別 >

・ 50・60・70代でオプションツアーへの参加率が高い。



ポイント

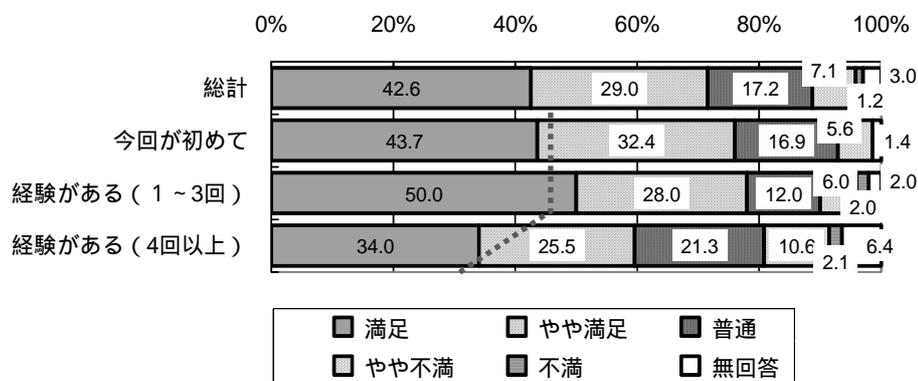
瀬戸田・高松とも、オプションツアーへの参加率は、年齢別で見ると50・60・70代で高い。比較的高い年齢層を対象としたクルーズの場合はオプションツアーの需要が高く、逆に低い年齢層の場合はオプションツアーよりも自由行動の需要が高いものと考えられる。

船内での“おもてなし”について

問17-1. 船内での食事の評価/料理の内容

<クルーズ旅行の利用経験別>

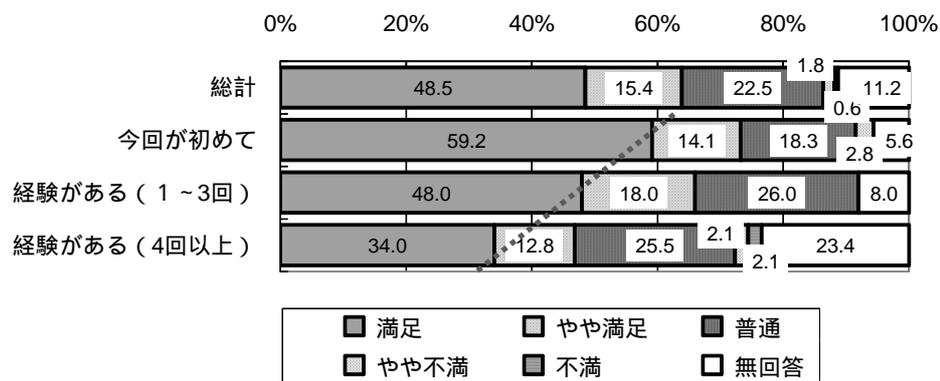
・「満足」という評価は4回以上経験がある場合、全体に比べて少ない。



問17-2. 船内での食事の評価/料理の量

<クルーズ旅行の利用経験別>

・「満足」という評価は利用経験が少ないほど多い。



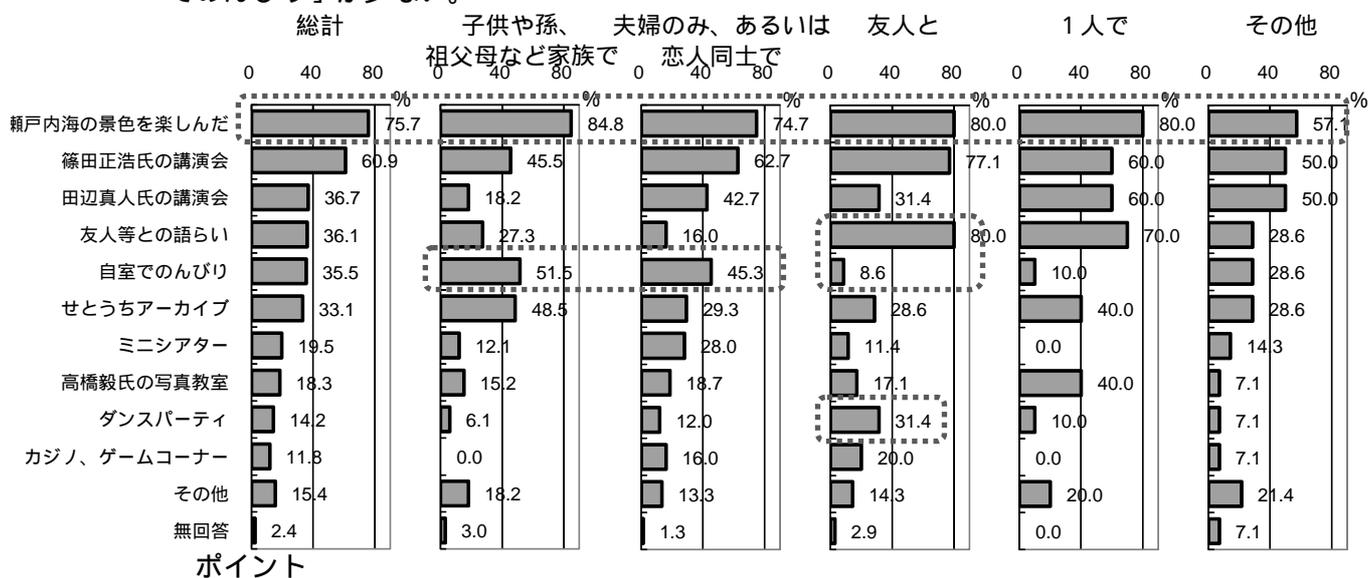
ポイント

食事は朝・昼・夕・夜に加えてティータイムもあり、通常の生活に比べて回数・各回の量とも多かったが、総体的には高評価を得ている。ただし、クルーズの経験が豊富な層は、より高額なクルーズ商品なども経験しており食事への評価が厳しくなるものと考えられる。

問18．船内での過ごし方（複数回答）

<同行者別>

- ・「瀬戸内海の景色を楽しんだ」はいずれの同行者の場合も多い。
- ・家族および夫婦・恋人同士で参加の場合、「自室でのんびり」が他と比較して多い。
- ・友人と参加の場合、他と比較すると「友人等との語らい」「ダンスパーティ」が多く「自室でのんびり」が少ない。



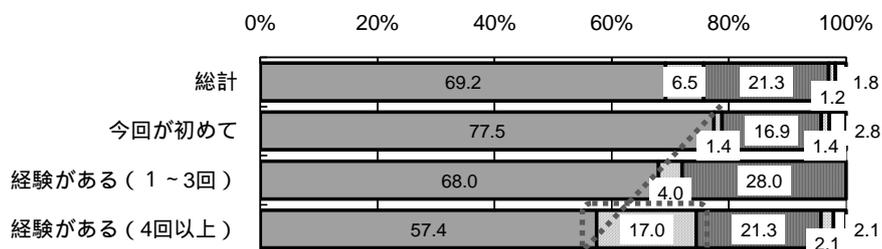
ポイント

いずれの参加者も瀬戸内の景色を楽しんでいるが、家族および夫婦・恋人と参加の場合は自分たちだけでのんびりする傾向が強く、また逆に友人と参加の場合は友人同士の語らいやイベントなど他の人と交流する傾向が強い。

問19．今回のドレスコードについて

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・全体的に「窮屈さがなくてよかった」という評価が多い。
- ・利用経験が少ないほど「窮屈さがなくてよかった」という評価が多い。
- ・利用経験が多いと「もっと厳しくてもよかった」という評価が比較的多い。



- 窮屈さがなくてよかった
- もっと厳しいドレスコードであっても良かった
- ドレスコードは気にならなかった
- その他
- 無回答

ポイント

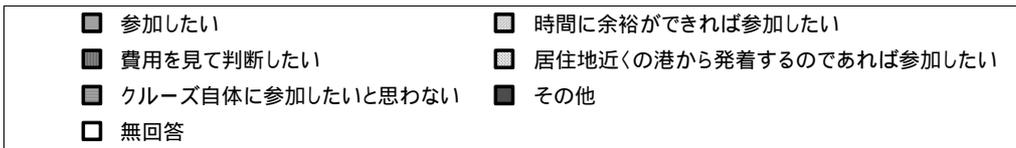
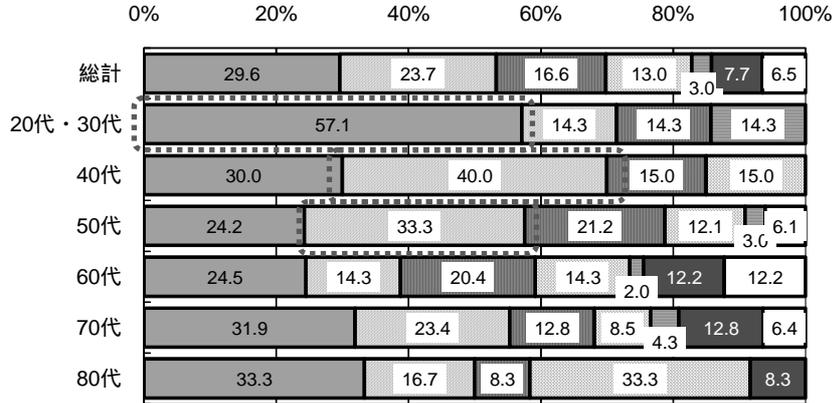
利用経験が少ない人にとっては、イメージした服装の窮屈さがなく高い評価であったものの、逆に利用経験が多い人にとっては、通常の旅行では味わうことのない非日常の時間を大切にしたいという感覚もあることに注意が必要といえる。

今後の“せとうちクルーズ”参加希望について

問20. 今後の“せとうちクルーズ”への参加希望

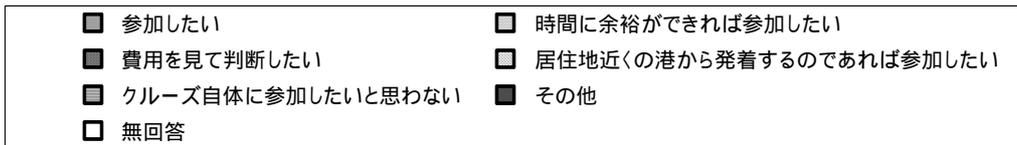
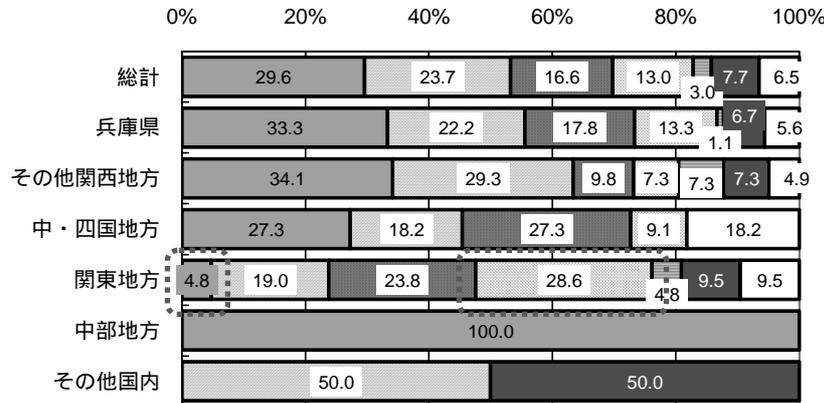
<年齢別>

- ・20代・30代で「参加したい」という回答が多い。
- ・40代、50代では「時間に余裕ができれば参加したい」が多い。



<居住地別>

- ・関東地方に在住の場合、「参加したい」が少なく「居住地近くの港からなら参加したい」が比較的多い。



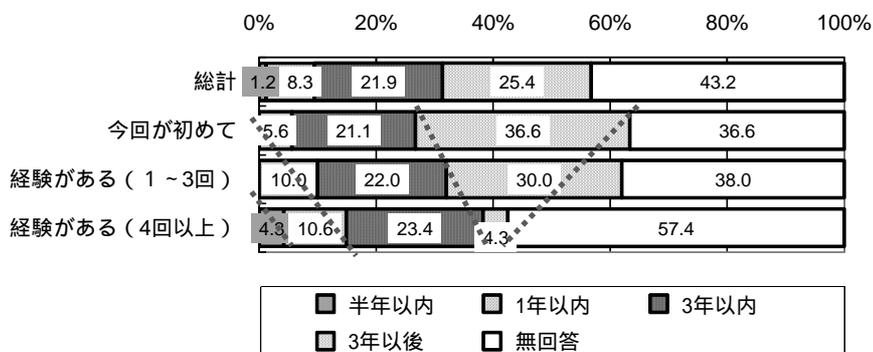
ポイント

働き盛りの40, 50代では、時間的な余裕が参加への重要な条件であることが分かる。また、関東地方居住者の場合、発着港が近いことを参加の条件とすることが多いことから、関西地方・中四国地方といった近隣の居住者でかつシニア層のほうがせとうちクルーズのリピーターになりやすいと考えられる。

問2 1 - 1 . 参加する場合の時期 / 今回と同じコースの場合

<クルーズ旅行の利用経験別>

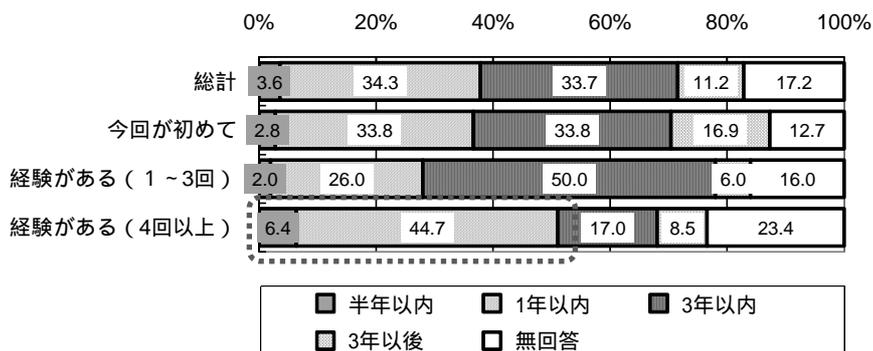
- ・利用経験が少ないほど「3年以後」という回答が比較的多い。
- ・利用経験が多いほど「半年以内」が多く「3年以後」が少ない。



問2 1 - 2 . 参加する場合の時期 / 今回と違うコースの場合

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・「半年以内」「1年以内」といった早い時期での再参加意向は、4回以上の経験者に多い。



ポイント

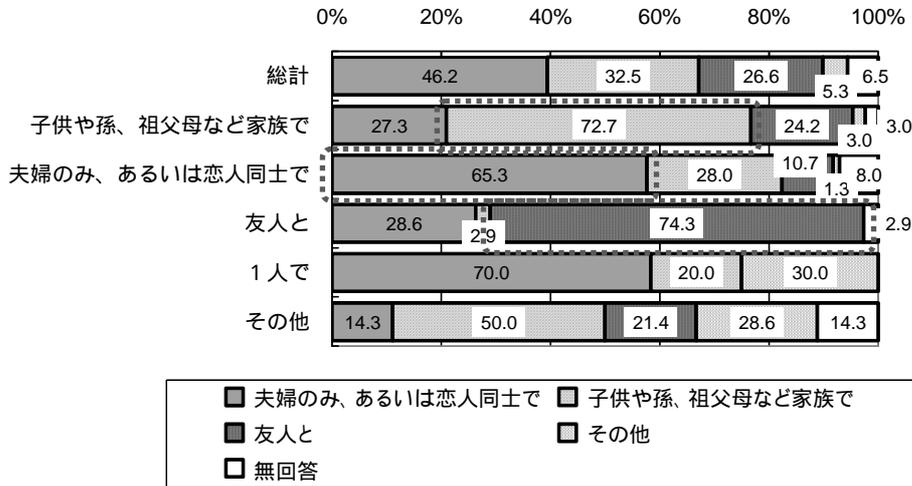
せとうちクルーズへの今後の参加時期は、「利用経験が多い」のほか「40代」「瀬戸内海周辺に居住」といった層が比較的早い()。リピーターを重視する場合、これらの層が重要になるものと考えられる。

(年齢別、居住地別の分析結果は参考資料「せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査」を参照)

問 2 2 . 参加する場合の同行者（複数回答）

< 同行者別 >

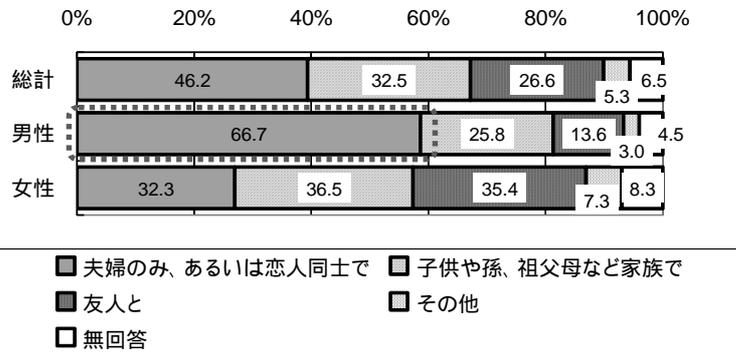
・多くの同行者層で、今回参加した形態と同じものが多く回答されている。



< 性別 >

・男性は「夫婦あるいは恋人と」という回答が比較的多い。

・女性は「夫婦あるいは恋人と」「家族と」「友人と」がほぼ同数回答されている。



ポイント

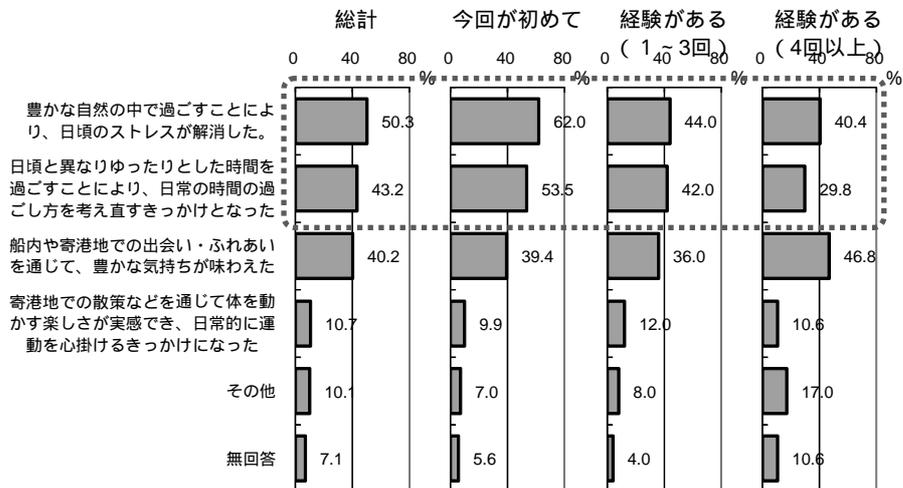
再び参加する場合、今回の同行者と同じ形態を希望する人が多いと考えられる。性別では男性が妻・恋人との参加を希望するのに対して女性のほうがさまざまな形態での参加を希望しており、選択肢が多くさまざまな機会をうまくとらえて旅行意欲を持つ女性層は、クルーズにとっても重要な顧客層と考えられる。

「人にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”について

問24. 体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと（複数回答）

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・利用経験が少ないほど「日頃のストレスが解消した」「日常の時間の過ごし方を考え直すきっかけとなった」と回答する割合が多い。



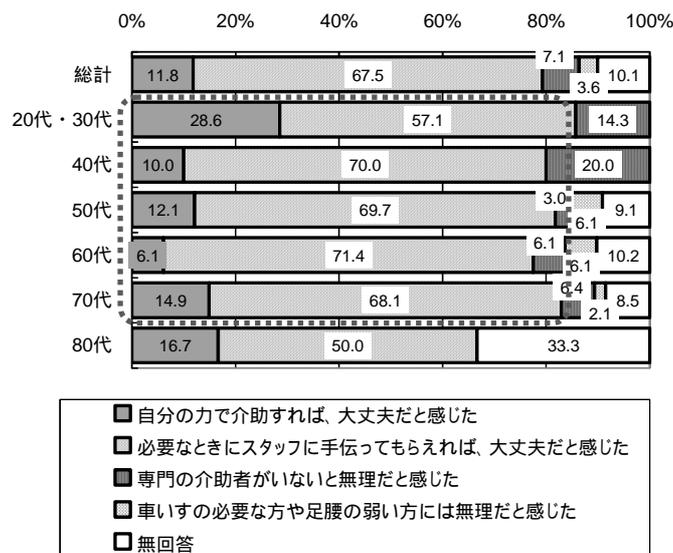
ポイント

利用経験が多い人の場合、時間的・経済的余裕がある人が多く「ストレス解消」「時間の過ごし方を考え直す」ことにはつながりにくいものと考えられる。逆に利用経験が少ない人の場合は日常の多忙さから逃れることの快感につながりやすく、「健康」をテーマにしたクルーズ商品が受け入れられる可能性も高いと考えられる。

問25. 要介助者と一緒に参加した場合の、船内や港の過ごしやすさ

<年齢別>

- ・80代を除いた年代で、「自分で介助すれば大丈夫」「必要な時に手伝ってもらえれば大丈夫」いずれかを選択した割合は大差なく80%程度である。
- ・20・30代では「自分で介助すれば大丈夫」という割合が他と比較して多い。

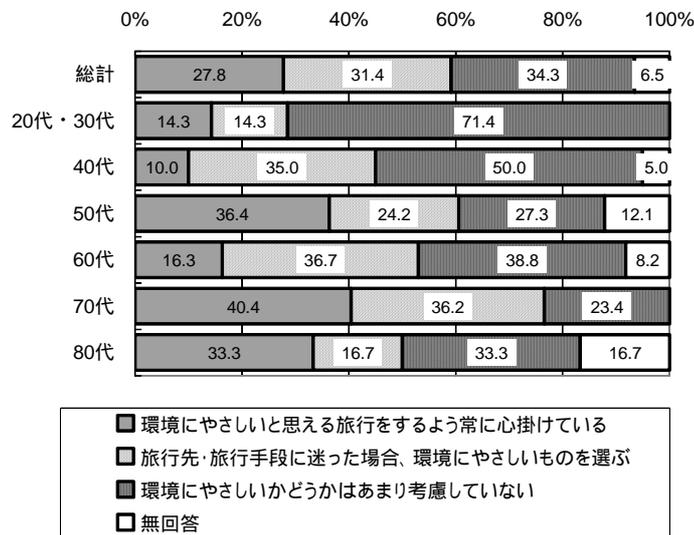


ポイント

クルーズ客船の旅行には、車椅子利用者など要介助者と一緒に参加する場合でも楽しめるという安心感を持った参加者が多い。20・30代では体力的な自信などから自分の力で大丈夫と答える割合が多いものと考えられる。

「環境にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”について
 問26. 旅行をするとき、「環境にやさしい」ことを考慮する度合い
 <年齢別>

- ・「環境にやさしいかどうかはあまり考慮していない」は、概ね年齢層が高いほど少ない。
- ・「環境にやさしい旅行を常に心がけている」は20・30代、60代で少ない。



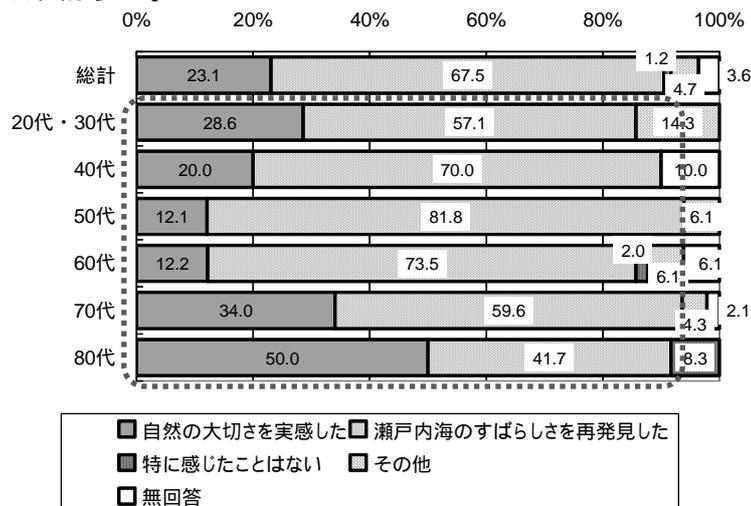
ポイント

社会的関心が高いと思われる年齢層ほど、「環境にやさしい」ことを考慮するという傾向がうかがえる。

問27. 体験クルーズを通じて“自然”について感じたこと

<年齢別>

- ・すべての年齢層で「自然の大切さを実感した」あるいは「瀬戸内海の素晴らしさを実感した」と回答した人が多い。



ポイント

年齢層や、性別・利用経験別などの区別なく()、体験クルーズを通じて「自然」について肯定的に感じているといえる。

(性別、利用経験別の分析結果は参考資料「せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査」を参照)

4. 神戸・瀬戸内クルーズ関係者ヒアリング調査

(1) 実施概要

寄港地ヒアリング

対象

- ・瀬戸田港（尾道市瀬戸田支所）
- ・高松港（香川県観光交流局）
- ・神戸港（神戸市みなと総局）

ヒアリング内容

- ・クルーズ客船寄港時の取組結果について
- ・クルーズの定点・定期就航による活性化への期待・課題について

有識者・事業者ヒアリング

対象

- ・クルーズ事業者（株式会社コンチェルト 南部代表取締役）
- ・クルーズ事業者（日本クルーズ客船株式会社 上り坂専務取締役）
- ・ユニバーサルツーリズム有識者（阪南大学コミュニケーション学部 前田教授）
- ・ヘルスツーリズム有識者（JTBヘルスツーリズム研究所 高橋副所長）

ヒアリング内容

- ・神戸・瀬戸内クルーズの魅力について
- ・ユニバーサルツーリズム（ヘルスツーリズム）としてのクルーズについて
- ・定点・定期就航事業化について

(2) 寄港地ヒアリング結果（抜粋およびポイント）

瀬戸田港（尾道市瀬戸田支所）

- ・港付近の商店街は、歓迎のチラシを各店が店先に掲示し、土産物を販売するなど組合をあげての対応を実施した。実施後も多くの観光客が来てくれてありがたいとの声が聞かれた。
- ・地元の小中学校からは、6年生が船内での歓迎セレモニーに出席し、4年生が瀬戸田の観光ガイドを務めた。総合学習の一環で瀬戸田のPRや観光案内の授業を実施しており、いい実践の機会だったと学校側からも好評であった。後日クルーズ参加者から学校にお礼の手紙が届き、生徒たちもとても喜んだようだ。
- ・地元ボランティアが10人ほどクルーズ参加者の観光ガイドを務めた。普段の観光ガイドはガイドから観光客への一方向の説明になりがちだが、今回のクルーズ参加者からは質問が出るなど双方向での会話をしながらの案内となり、ボランティアからも大変好評であった。
- ・クルーズの定期就航は、瀬戸田への訪問客の増加だけでなく、知名度の向上など様々なよい影響が期待できると考える。
- ・瀬戸田周辺の宿泊機能は、一人一泊15,000円程度の旅館レベルでは、港付近の二軒で80名程度である。他にも5,000円程度、定員10-20名程度の民宿が5軒ほどある。しまなみ海道開通前と比較すると少なくなっており、宿泊機能のないクルーズ客船の定期化には現状での対応は難しいのではないかと考える。

高松港（香川県観光交流局）

- ・取り組みを通じて、関係者一同刺激を受けた。高松の魅力を発揮するには港を活用する必要があることを改めて感じた。また「やはり自分たちから働きかけなければ」と、具体的な事業の必要性を痛感し、歓迎の意を伝えることの意義を実感した。地元の参加者も、取り組みに参加していれば出港時のテープセレモニーにも実感が沸くようだ。
- ・高松や香川の観光には、今回の滞在時間は短かった。クルーズとは呼べなくなってしまうかもしれないが、1日は必要である。
- ・クルーズの参加者は一般の旅行者に比べて時間とお金に余裕がある人が多い印象があり、口コミなどアナウンス効果についても一般の旅行者に比べて期待できると考えている。
- ・高松港の周辺には宿泊施設が多くあるため、宿泊機能のない船舶による定点・定期就航にも不自由なく宿泊スペースを提供できる。ただしビジネスホテルが中心で手頃な価格の施設が多いが、旅館はほとんどないことには留意する必要がある。また、小豆島にも観光ホテルが多く存在する。

神戸港（神戸市みなと総局）

- ・出港式典には兵庫県知事・神戸市長も参加し、消防艇が就航を記念して出港時には放水を行い、ラジオ関西の協力により生中継や船内見学ツアーを実施するなどしたため、出港セレモニーは世界一周クルーズのときよりも盛り上がりを見せたのではないかと。
- ・成功要因として、その他に神戸経済同友会関係者の積極的な参加を挙げることができる。当事者自らが多く参加したことで大きく盛り上がり、集客も目途が立てやすかった。参加者の割合は同友会関係者・一般が半分ずつとなったが、バランスのよい組み合わせだったのではないかと。
- ・陸上交通とは異なるクルーズの最大の魅力は「寄港地・船内での出会い・触れ合い」だと思う。「動くリゾートホテル」と言われるように、参加者が一緒になって楽しめるところに、普通の旅プラスアルファの魅力があるのではないかと。
- ・クルーズの振興は、瀬戸内海の魅力を味わう仕組みの一部としての船の使い方を考えるべきである。船ありき、レジャー・イベント・講師ありきで内容を考えてはいけない。大型クルーズ客船ほど高くなく、フェリーほど速くない、人のニーズに合わせてゆっくりと回遊するような内容と使い方がよい。

ポイント

- ・いずれの寄港地においても、体験クルーズは好評だった。出港・歓迎セレモニーは地域をあげての取り組みであったために、地域活性化にも貢献し特に好評であった。
- ・クルーズの定期事業化は、経済効果もあり期待が大きい。しかし小規模の港では、宿泊施設が少ないため、宿泊機能のない船舶での寄港は難しいと考えられる。

ヒアリング結果の詳細は、参考「神戸・瀬戸内クルーズ関係者ヒアリング調査結果」を参照

(3) 有識者・事業者ヒアリング結果（抜粋およびポイント）

クルーズ事業者（株式会社コンチェルト 南部代表取締役）

- ・総体としてとてもよかったと思う。瀬戸田では普段は人通りの少ない商店街に多くのお金を落とすことができるなど、寄港地にとっても活性化につながったのではないかと。オプションツアーも素晴らしかった。
- ・細部に関しては、焦点を絞れていなかった印象を持っている。テーマが、船の外で瀬戸内海を楽しむのか船中のイベントを楽しむのか、どちらかはっきりしなかったために内容が盛りだくさんになってしまったのではないかと。
- ・せとうちクルーズの定点・定期事業化には、顧客の裾野を広げ参加頻度を高める必要があるが、それには妥当な価格設定が必要だろう。2泊3日で5万円までではないかと。
- ・コンチェルトは乗船料が2,100円に加えて、1,000円程度でフリードリンクを付ければ3,000円程度でクルーズを楽しむことができる。この価格帯だからこそ採算を確保して運航できている。経済的な余裕に乏しい昨今の状況の中、絶対的に必要なものではないクルーズに対して、価格面で女性を中心とした消費者の目は厳しい。
- ・瀬戸内海だけを2泊3日程度で航行する場合に限り、船員法ではなく労働基準法を適用できる特区的な制度などが実現できないものかと。
- ・採算性の観点からは、現在の稼働状況による収益と同等もしくはそれ以上のものを実現する必要がある。現在、コンチェルト1回1時間半程度を1日4-5回運航しており、一回の乗客は2-300名程度である。ゆったりとした空間とするためには乗客を100名程度に抑える必要があり、一人あたりの参加費用は15万円程度になるのではないかと。

ポイント

- ・参加者がより楽しみやすいクルーズとするためには、テーマを決めポイントを絞り込むことが重要であると考えられる。
- ・当面、既存船舶を活用し寄港地の宿泊施設と連携して実施するクルーズ商品の開発も考えられるが、消費者の厳しい目に適うためには低コスト化で低価格を実現する工夫も必要である。

クルーズ事業者（日本クルーズ客船株式会社 上り坂専務取締役）

- ・多島美をはじめとして瀬戸内海自体には確かに魅力がある。しかし、事業を行う場合に必要投資を回収できるだけの採算性の確保と、消費者の望む価格・内容の両立は難しいのではないかと。小さい船であれば定点・定期事業も実現可能、という話でもない。
- ・採算性を確保するならば、ぱしふいっくびいなすと同程度の1泊4万円程度と思われる。1泊1万円程度であれば消費者は割安感を感じると思われるが、少なくとも日本では実現が難しい。外国船では1泊100ドル程度でも販売しているのは、カジノでの収入が全体の3分の1程度を下支えしているために可能になるためであり、日本の現行制度でカジノにより収入を得ることはできないため実現できない。
- ・日本人はいわゆる社交の経験が少ない人が多く、土日祝日以外の休みも少ないのでなじみにくい部分がある。家族連れは金・土・日でないと多くの顧客を集められないだろう。定

期事業であれば平日は70歳以上のシニア層が主要な顧客になるだろう。

- ・寄港地の魅力向上と同時に、クルーズ本来の楽しみ方を周知することも必要と感じている。クルーズとは本来は洋上でゆったりとした時間を過ごすものであるが、日本人は「旅先でなにもしない」ことにはなじみにくい。「どこにも立ち寄らず、のんびり瀬戸内海を巡る」クルーズを実施してもある程度人が集まるのであれば、寄港地の魅力とも相まってせとうちクルーズ自体の可能性が開けるのではないか。
- ・船を多く所有する事業者が運営したほうが、人件費の効率を上げることができる。予備船員を抱える必要があるため、1隻よりも2隻、2隻よりも3隻保有したほうが、1隻あたりの予備船員の人件費は抑えられる。
- ・定点事業化の大きな課題は、関東からの集客と、電車・車などの他手段との差別化ではないか。

ポイント

- ・クルーズの一般化には低額商品であることが望ましいが、日本人の余暇の過ごし方の現状を踏まえ、事業の採算性を確保するためには、高級な商品としての価格帯と内容の充実が現実的とせざるを得ない。
- ・金・土・日の家族連れ、平日のシニア層など、顧客の特性に合わせた商品を検討することが重要である。
- ・クルーズが本来有する「洋上でゆったりとした時間を過ごす」魅力を発信することが、採算性確保のためにも重要であると考えられる。

ユニバーサルツーリズム有識者（阪南大学国際コミュニケーション学部 前田教授）

- ・だれでも旅行を楽しめるようにすることを目的としたユニバーサルツーリズムは、神戸や旭川・沖縄などの着地側で、障がい者の受け入れ態勢を構築する取り組みが進められている。受け入れ態勢の構築に伴って、障がい者の潜在的な旅行需要が喚起されるため、今後の発展に期待が持てる事業形態と考えている。
- ・クルーズとユニバーサルツーリズムは相性が良い。クルーズ客船は移動・宿泊・食事が一つの施設で対応できるため、障がい者・介助者双方にとって快適な旅行を体験しやすい環境である。昨年度にはコンチェルトの協力を得て、車椅子の参加者による神戸港内のクルーズを実施し、障がい者・介助者にとって快適な旅行が楽しめることが実証された。
- ・ユニバーサルツーリズムの今後の課題として、ホテル・観光・交通などさまざまな事業者のネットワーク化、専門の流通チャネルの確立などが挙げられる。さまざまな事業主体が連携した協議会などによる運営体制を作っていく必要があるが、この中にクルーズを結び付けていくことも可能ではないか。宿泊・旅行・食事をすべて対応できる、いわばオール・インクルーシブな施設であるクルーズ客船が事業者ネットワークの輪に入ることは非常に意義深いものとする。
- ・宿泊クルーズによるユニバーサルツーリズムはまだ実現されていないが、ユニバーサルツーリズムの事業者とクルーズ客船事業者の連携による事業運営も考えられるのではないか。
- ・障がい者・介助者には、普段の介護がどれだけ旅先でできるのか不安がある。このため、

発地側主導で進められてきたこれまでの取り組みでは、物理的なバリアフリー化がしっかりとされた場所などに限定されてきた。着地側で受け入れ態勢を構築することで訪問先のバリアフリー対応などにもきめ細かく対応することが可能となり、より多くの障がい者が気軽に旅をすることが可能となる。

ポイント

- ・移動・食事・宿泊が一つの施設で対応できるクルーズ客船は、ユニバーサルツーリズムにとって非常に相性の良い手段であり、今後の発展が期待できる。
- ・障がい者・介助者が旅先で持つ介護への不安を解消するため、神戸港・寄港地での介護団体などとの連携態勢を充実させることが重要と考えられる。

ヘルスツーリズム有識者（JTBヘルスツーリズム研究所 高橋副所長）

- ・WHOの定義によれば健康とは、「身体的健康」「精神的健康」「社会的健康」の3つに分けることができる。それぞれの観点から考察することで、ヘルスツーリズムとしてのせとうちクルーズのあり方を検証することができる。
- ・「身体的健康」の観点からみた場合、せとうち感動体験クルーズの内容はあるべき姿から少し遠いものである。望ましい生活習慣としては「早寝・早起き・朝御飯」が基本である。しかしながら、クルーズ体験中は「遅くまで遊んで疲れるし、食べ過ぎて体重も増える」といった具合では健康的とは言い難いとも考えられる。朝に体操があることは評価できる。
- ・「精神的健康」の観点からみた場合、健康に寄与することが大きいものと思われる。さまざまな趣味をもった人にも楽しめる内容が充実していることや、寄港地でのボランティアガイドとの相互コミュニケーションは精神的健康に寄与するものである。
- ・「社会的健康」の観点からみた場合も、健康に寄与することが大きい。社会的健康とは「よい友達ができる」など、コミュニケーションがある中で作り出せるものである。
- ・健康の3要素は「運動」「栄養」「休養」である。この要素を満たすことができれば、使用する船舶は今回ぱしふいっくびいなす号のように大型クルーズ客船であることは必ずしも必要ではない。また逆に、大型クルーズ客船でも「健康」をテーマにしたクルーズも考えられるのではないかと。
- ・海・船で過ごすことへの健康面への有効性は「座観」という手法によって検証できる。さまざまなポイントで周囲を眺めた場合の心理的变化などを計測・比較するものだが、市街地を眺める場合、陸上から海を眺める場合、船上から海を眺める場合などで比較検証することにより、船旅の有効性が実証できるのではないかと。

ポイント

- ・ヘルスツーリズムの観点では、クルーズによる旅行は健康に寄与するものであり、健康対策を商品テーマとして絞り込んだプランを提供するなど工夫を行うことにより、さらにヘルスツーリズムとしての効果が高まることも期待される。
- ・健康面での有効性を他の旅行手段などと比較したデータを収集するなど、その有効性を積極的にPRしていくことも重要と考えられる。

第 章 神戸港および瀬戸内海周辺地域における港湾施設・交通アクセス・観光振興の現状

1. 神戸港および瀬戸内海周辺地域における港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状

<せとうち・感動体験クルーズ寄港地>

せとうち・感動体験クルーズの寄港地における港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状を以下において整理する。

(1) 神戸港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・中突堤・高浜地区中突堤 BC 岸壁：長さ 286m、水深 9m と 5 万 t クラスのクルーズ客船に対応、ユニバーサルデザイン対応のボーディングブリッジを 1 基配備

周辺関係施設

- ・中突堤旅客ターミナル：中突堤の先端に位置するホテルの 1, 2 階部分
- ・従来、国内のクルーズ客船やフェリー及び港内遊覧船が主に発着していたが、平成 18 年 1 月より、外航客船も利用できる客船専用ターミナルとして機能
- ・1 階：約 130 台の乗用車の駐車場等
- ・2 階：C.I.Q (税関・入管・検疫) 出入国検査室、出入国ロビー、送迎デッキ、チェックインカウンター、インフォメーションコーナー、売店、レストランなど



旅客ターミナル遠景



展望デッキ



待合室

(出典：神戸市 HP)

改善計画

定期事業化に対応可能な港湾設備は整備済み

(2) 瀬戸田港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

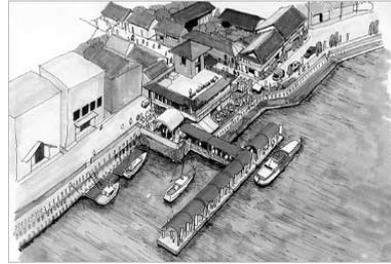
- ・長さ 30 m の正面栈橋をはじめとした 4 つの栈橋を整備

周辺関係施設

- ・瀬戸田港旅客ターミナルビル：瀬戸田港に位置する 2 階建ての建物
- ・住民が中心となって取り組む、港の施設を活用したにぎわい交流拠点「みなとオアシス」として機能



旅客ターミナルビル



みなとオアシス瀬戸田
(出典：みなとオアシス瀬戸田 HP)

改善計画

瀬戸田港湾ビルの整備と周辺広場の修景整備を実施する。平成20年度に基本設計を行い、21年度に実施設計および新築工事を行う。

(出典：尾道市・瀬戸田町新市建設計画)

(3) 高松港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・長さ225m、水深10mと2万tクラスの船舶に対応可能な岸壁をはじめとして、旅客船を受け入れる玉藻地区だけで7つの岸壁と4つの栈橋を整備

周辺関係施設

- ・高松港旅客ターミナルビル：高松港に位置する8階建ての建物、高松港管理事務所をはじめとして待合所などとして機能
- ・かつての国鉄宇高連絡船の埠頭跡地に立地



旅客船入港風景



旅客ターミナルビル

(出典：香川県 HP)

改善計画

総合的な港湾機能の強化と高度化に資する快適な港湾空間の創造を実現する。

(国直轄)

人工海浜等

(県施行)

浮栈橋、臨港道路、物揚場

(出典：新・高松市総合計画書)

<全長 100m 程度の船舶が接岸可能な港>

瀬戸内海周辺地域の港湾のうち、全長 100m 程度の船舶が接岸可能な港の一部における港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状を以下において整理する。

(4) 宮浦港(大三島)

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・長さ 120 m の旅客船用とフェリー用の 2 つの栈橋を整備



旅客船用栈橋

(出典：愛媛県 HP)

改善計画

特になし

(5) 呉港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

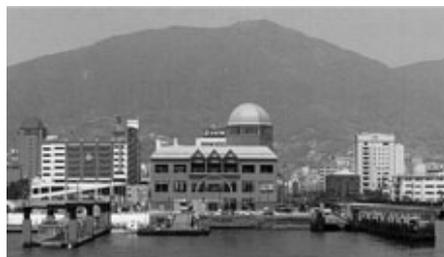
- ・旅客ターミナルを備える宝町地区には、長さ 200 m ・水深 5 . 5 m の岸壁をはじめとして、4 つの岸壁を整備

周辺関係施設

- ・呉中央栈橋ターミナル：呉港宝町地区に位置する鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 5 階建ての建物
- ・広島・松山・江田島行きフェリー・高速船乗り場等として機能



宝町地区



呉中央栈橋ターミナル

(出典：呉市 HP)

改善計画

- ・ウォーターフロントの利点と魅力を活かし、呉市の海の玄関口としてふさわしい、快適でにぎわいのあるまちづくりを推進
- ・呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)、海上自衛隊呉史料館に加え、港湾緑地及び商業・アミューズメント施設などの整備を行う。(出典：呉市 HP)

(6) 広島港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・旅客ターミナルを備える宇品内港地区には、浮栈橋（水深 4m）2 基、（水深 6m）1 基、栈橋（水深 4m）1 基を整備

周辺関係施設

- ・広島港宇品旅客ターミナル：宇品内港地区に位置する 3 階建ての建物
- ・四国・九州・島嶼部への旅客船・フェリー乗り場等として機能



宇品内港地区



広島港宇品旅客ターミナル

（出典：広島県 HP）

改善計画

- ・旅客ターミナルに加え、緑地等を整備する。
- ・ウォーターフロントにおける、豊かな潤いのある空間を形成する。

（出典：広島県 HP）

(7) 門司港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・旅客周辺関係施設を備える新門司地区には、長さ 185m・水深 10m の岸壁をはじめとして、17 の岸壁と 4 つの栈橋を整備

周辺関係施設

- ・新門司旅客ターミナル：新門司地区に位置し、阪九フェリーが運営する旅客周辺関係施設



新門司北埠頭



新門司旅客ターミナル

（出典：北九州港 HP、ウォーターフロント開発協会 HP）

改善計画

- ・平成 22 年度策定を目指し、門司港を含め北九州港全体の長期構想を検討している。

（出典：北九州市 HP）

(8) 別府港

整備状況

岸壁あるいは棧橋

- ・ 5 万トンの旅客船が接岸できる水深 12m の岸壁をはじめ旅客船バースを 8 つ整備

(出典：大分県 HP)

改善計画

- ・ 石垣地区の国際観光港を拡充するため、フェリー埠頭の拡張再編計画として、岸壁の延長、埠頭用地の造成、拡張を進める。
- ・ 関西・四国航路岸壁・上屋施設（建物）を集約して点在するターミナル機能を充実する。



石垣地区フェリーターミナル完成予想図

(出典：別府市 HP)

(9) 松山港

整備状況

周辺関係施設

- ・ 松山観光港ターミナルビル：松山観光港に位置する鉄骨造 2 階建ての建物



松山観光港ターミナルビル

(出典：愛媛県 HP)

改善計画

- ・ 松山観光港の旅客ターミナルの改築にともなう、鉄道の延伸、ターミナル内乗り入れの計画など

(出典：日本財団 HP)

(1 0) 宇野港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・宇野港フェリーターミナルには長さ280m・水深10mの大型客船バースをはじめとして3つの岸壁を整備



フェリーターミナル全景



フェリーターミナル

(出典：玉野市 HP)

改善計画

- ・瀬戸大橋の開通による四国への鉄道連絡船の廃止に伴い、宇野地区では都市計画と一体となった港湾再開発が進められている

(出典：岡山県 HP)

<クルーズ客船寄港には通船が必要な港>

瀬戸内海周辺地域の港湾のうち、クルーズ客船の寄港には通船が必要な港の一部における港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状を以下において整理する。

(1 1) 牛窓港

整備状況

岸壁あるいは栈橋

- ・牛窓ヨットハーバーに浮栈橋をディンギー用2基 クルーズ用63基整備

周辺関係施設

- ・クラブハウス、宿泊・研修等を整備



ヨットハーバー全景



クラブハウス

(出典：瀬戸内市 HP、牛窓ヨットハーバーHP)

改善計画

- ・浮栈橋・防波堤の整備・充実など

(出典：内閣府 HP)

(1 2) 日生港 (東備港日生地区)

整備状況

岸壁あるいは棧橋

- ・日生駅前にフェリー乗り場を整備

周辺関係施設

- ・日生漁港近傍に水産物販売施設「五味の市」を整備 (出典 : 岡山県 HP)

改善計画

特になし

< まとめ : 港湾・周辺施設の整備状況と改善計画の現状 >

クルーズ客船の寄航による経済効果は大きく、沖縄では台湾からの年間約 100 回の定期クルーズ寄航により、約 16 億円の経済効果があったとされ、今後もクルーズ誘致に向けた港湾施設整備の展開が検討されている。(出典 : 平成 18 年度沖縄におけるクルーズ観光活性化方策検討調査報告書)

瀬戸内海沿岸各地でも港湾施設が地域経済に果たす役割を認識し、相応の整備計画が策定されているが、すべての港でクルーズ客船が接岸可能な港湾施設を整備することは不可能であり、現実的でもない。各地の港湾整備計画・観光振興施策の中、各港湾における可能性を明らかにしながら、通船など別手段の活用を含め、クルーズプランの中で多様な寄港形態を検討することが重要である。

2. 神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセス状況と改善方策

(1) アクセス状況

中突堤旅客ターミナルへのアクセス方法と所要時間は、以下のとおりである。

神戸まで

新幹線で

- ・JR「東京駅」からJR「新神戸駅」へ約180分
- ・JR「名古屋駅」からJR「新神戸駅」へ約70分
- ・JR「博多駅」からJR「新神戸駅」へ約140分

飛行機で

- ・東京・羽田空港から神戸空港へ約70分
- ・札幌・新千歳空港から神戸空港へ約120分
- ・鹿児島空港から神戸空港へ約70分
- ・関西国際空港到着の場合、ベイシャトルで神戸空港へ約30分

神戸から

徒歩で

- ・市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約9分
- ・JR/阪神「元町駅」西口から徒歩約15分
- ・JR「神戸駅」中央改札口から徒歩約16分

タクシーで

- ・JR「元町駅」から約3分
- ・JR「三ノ宮駅」から約6分
- ・JR「新神戸駅」から約11分
- ・神戸空港から約25分

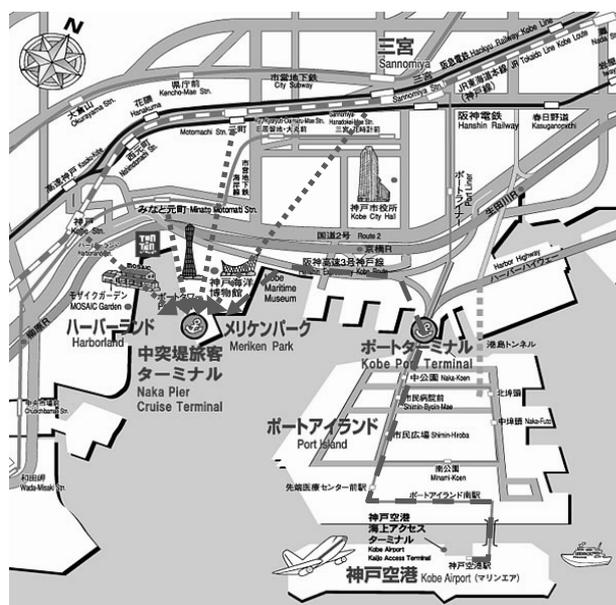
車で

- ・大阪方面・姫路方面から京橋ICを出て西へ約3分（24時間利用可能、普通車約141台収容の駐車場あり）

バスで

神戸市営バス

- ・バス停「地下鉄三宮駅前」(JR「三ノ宮駅」徒歩5分)から90号系統で約20分(6-18時に1時間あたり1本程度運行、200円)
- ・バス停「布引」(JR「新神戸駅」徒歩5分)から90号系統で約25分(6-18時に1時間あたり1本程度運行、200円)
- シティ・ループバス(9-18時に1時間あたり3本程度運行、大人250円)
- ・バス停「地下鉄三宮駅前(南行)」から約15分
- ・バス停「新神戸駅前」から約25分
- ・バス停「神戸駅南口」から約80分



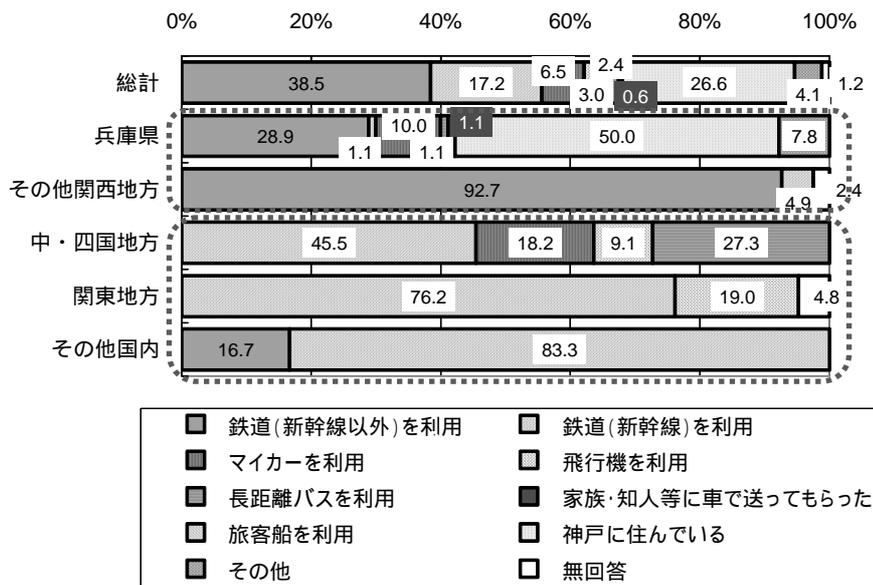
(2) 神戸港へのアクセスの改善方策

せとうちクルーズ参加者アンケートによる利用状況

問7 神戸までの利用交通手段

<居住地別>

- ・ 関西地方に居住している場合、新幹線以外の鉄道を利用することが多い。
- ・ 関西地方以外に居住している場合、新幹線を利用することが多い。
- ・ 中・四国地方に居住している場合、マイカーの利用が新幹線に次いで多い。
- ・ 関東地方に居住している場合、飛行機の利用が新幹線に次いで多い。



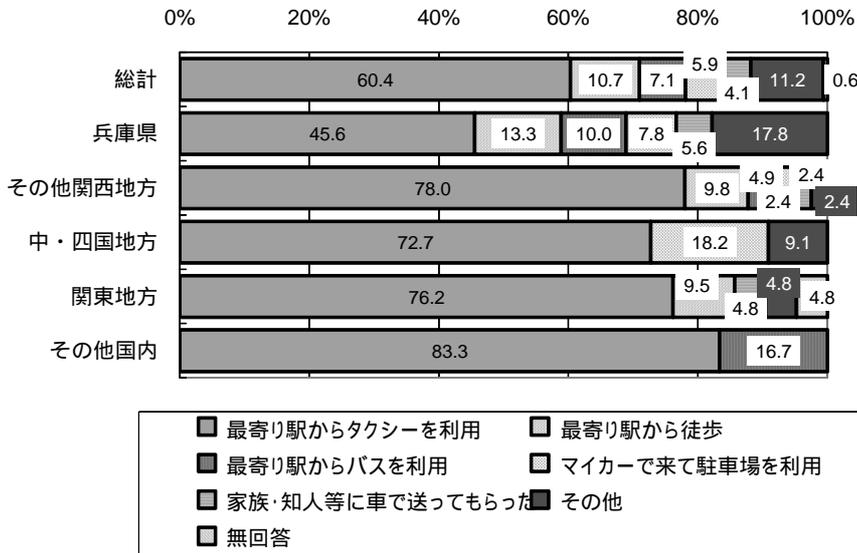
神戸への利用交通手段は、居住地が大きな決定要因であると思われる。基本的には鉄道を利用し、近郊からは在来線、遠方からは新幹線などを利用するのが一般的であると考えられる。

飛行機の利用は全体に占める割合としては少ないが(2.4%)、関東地方など遠方からの重要な交通手段であるといえる。

問8．神戸から神戸港中突堤旅客ターミナルまでの利用交通手段

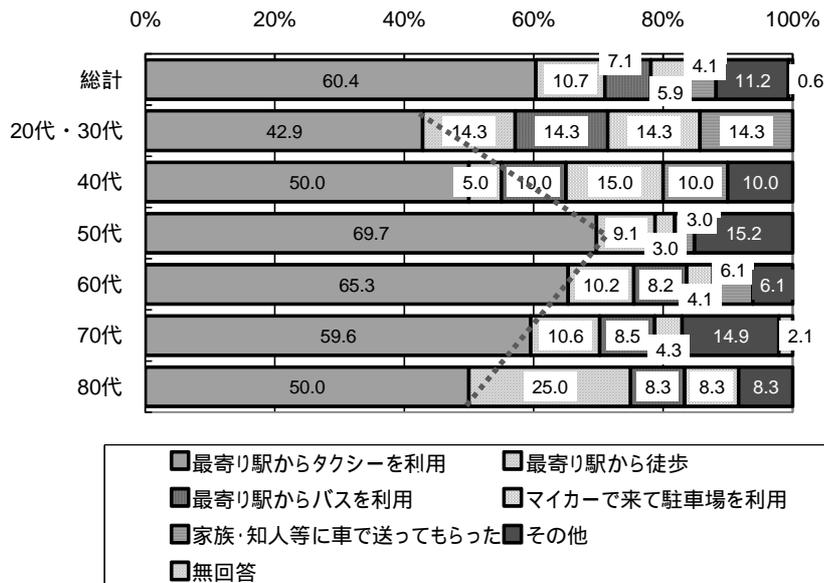
<居住地別>

- ・最寄り駅からタクシーの利用が全体に多い。
- ・兵庫県に居住の場合、徒歩・バス・マイカーなどさまざまな交通手段を比較的に利用している。
- ・兵庫県以外に居住の場合は、タクシーの利用割合がより高い。



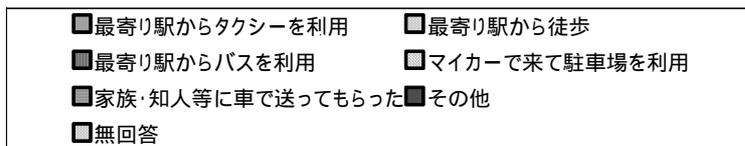
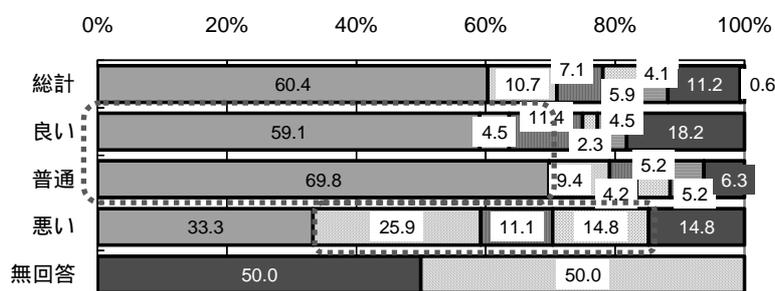
<年齢別>

- ・タクシーの利用率は50代がもっとも高く、年齢がより低くあるいは高くなると利用率は低くなる。
- ・年齢層が低い場合はバス・マイカーの利用率がタクシーに次いで高い。
- ・年齢層が高い場合は徒歩がタクシーに次いで高い。



< アクセス状況の評価別 >

- ・「良い」「普通」と答えた場合、タクシーを利用するケースが総計と同様に多い。
- ・「悪い」と答えた場合、総計に比べてタクシーも含めさまざまな交通手段を利用している。



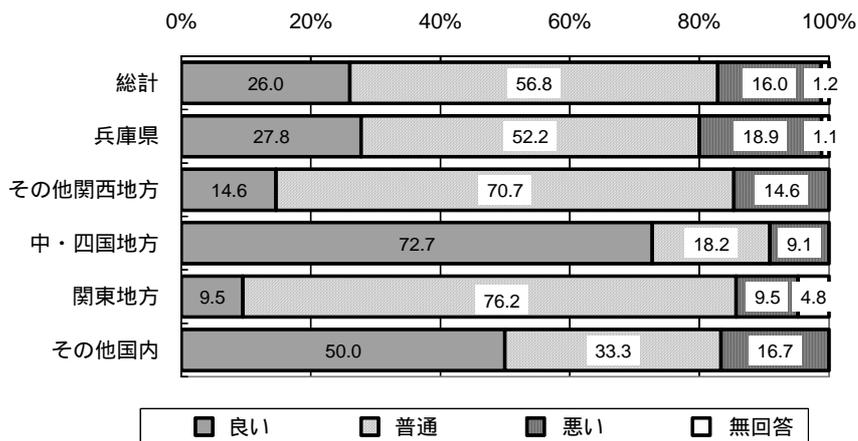
神戸から旅客ターミナルまでの利用交通手段は、居住地と年齢が大きな決定要因であると考えられる。遠方から来るなど地理に不案内な場合、および働き盛りで経済的に余裕がある場合ではタクシーの利用率が高まることが考えられる。

せとうちクルーズ参加者アンケートによる評価と改善要望

問9．神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセス状況について

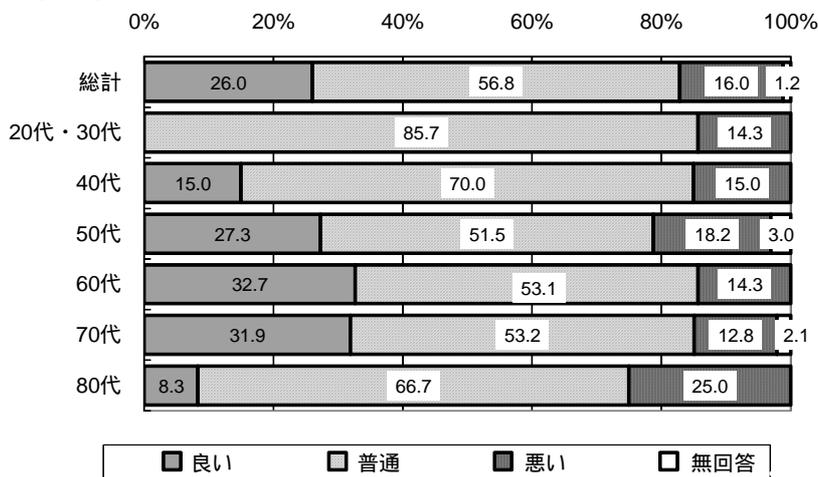
<居住地別>

- ・全体としては、「良い」もしくは「普通」という評価が多い。
- ・兵庫県あるいは中・四国地方に居住の場合、「良い」という評価が比較的多い。
- ・その他関西地方あるいは関東地方に居住の場合、「普通」という評価が比較的多い。
- ・兵庫県あるいはその他関西地方に居住の場合、「悪い」という評価も比較的多い。



<年齢別>

- ・「良い」という評価は60・70代がもっとも多く、年齢がより低くあるいは高くなると少なくなる。

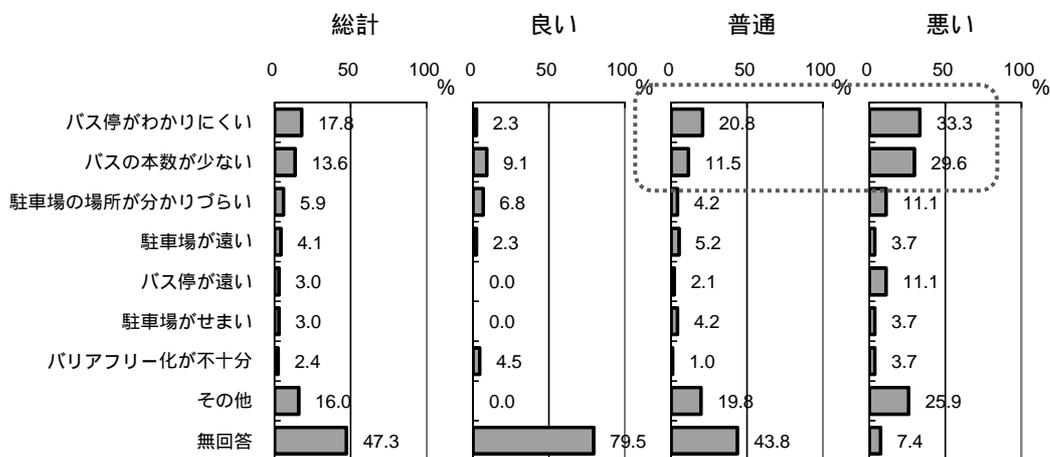


居住地が兵庫県以外の関西地方および関東地方の場合に、アクセス状況を比較的
低く評価しているため、港をあまり利用しない場合は低く評価するものと考えら
れる。
兵庫県あるいはその他関西地方に居住の場合は「悪い」という評価が多いことか
ら、地理に詳しい人の目で見ると改善の余地が大きいものと考えられる。

問10．神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスで改善すべき点（複数回答）

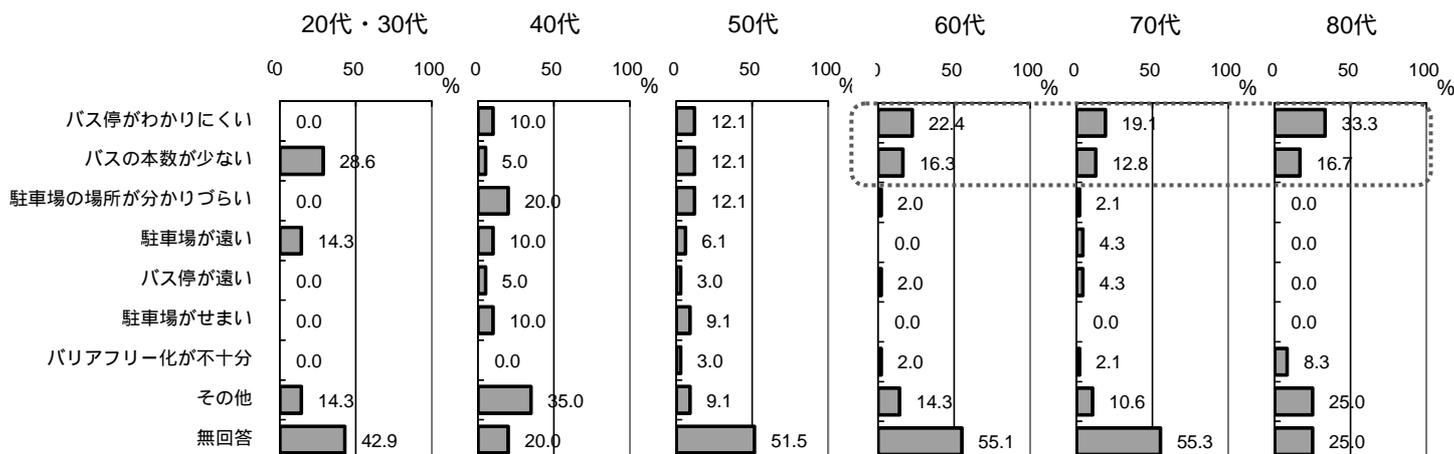
<アクセス状況の評価別>

- ・総計では、バスに関する改善が駐車場に関する改善に比べて多く回答されている。
- ・「バス停がわかりにくい」がもっとも多く回答された改善点である。
- ・「普通」「悪い」と答えた場合、バスに関する改善の回答が総計と同様に多い。



<年齢別>

- ・60-80代ではバスに関する改善がより多く回答されている。



バスに関する改善が、特に年齢別では高齢者がバスの改善を多く回答しており、ユニバーサルツーリズムの観点からもバスに関する改善については重要と考えられる。

各主要駅から中突堤方面へのバスは、神戸市営バスの運行本数は少ないが、シティ・ループバスも運行されており、本数は必ずしも少なくない。ただし各ターミナル等でのバス停がわかりにくいという意見が多くあり、わかりやすくする工夫が必要と考えられる。

クルーズ実施時には専用シャトルバスを運行するなどの工夫も考えられる。

3. 瀬戸内海周辺地域において展開される観光振興の取り組み

近年各地域において、官民が連携した地域資源や魅力を活用した観光商品の開発と情報発信が進められている。瀬戸内における広域観光圏の形成及び、神戸・瀬戸内クルーズの寄港地におけるおもてなしを具体的に検討するにあたり、瀬戸内海周辺の地域が一体となり海を活かした地域づくりを考え実践する「瀬戸内海・海の路ネットワーク推進協議会」に参加する11府県における取り組みの一部を、以下のとおり整理する。（なお、各取り組みの詳細は、主体および取組名称等によるウェブ検索で参照可能である。）

(1) 瀬戸内海全域

主体	取組名称	概要
兵庫県など	瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会	瀬戸内海の魅力検討・情報発信など

(2) 各府県・市町による連携した取り組み

主体	取組名称	概要
香川県・岡山県など	瀬戸内国際芸術祭	瀬戸内海の島々の歴史や文化を生かす国際芸術祭（2010年開催）
尾道市・今治市など	瀬戸内しまなみ海道振興協議会	しまなみ海道周辺の観光情報の発信

(3) 大阪府

主体	取組名称	概要
大阪観光コンベンション協会	OOSAKA INFO 大阪観光情報	大阪府内の観光情報の発信
大阪府	大阪ミュージアム構想	大阪府内の地域資源の情報発信
大阪府など	水の都・大阪の再生	大阪の水辺の再整備とイベント実施
大阪観光コンベンション協会	大阪ものづくり観光	大阪府内の産業観光資源の情報発信
大阪市など	大阪コミュニティ・ツーリズム連絡推進協議会	「まちあるき」の取組み支援と、地域に密着した観光魅力の情報発信

(4) 兵庫県

主体	取組名称	概要
ひょうごツーリズム協会	感動体験！兵庫	兵庫県内の体験・交流プログラムの情報発信
神戸市	FEEL KOBE 神戸観光公式サイト	神戸市内の観光情報の発信
NPO 法人 ウィズアスなど	神戸ユニバーサルツーリズム	神戸におけるユニバーサルツーリズム事業の実施
淡路市・洲本市・南あわじ市	淡路島観光圏	淡路島における滞在型観光の促進

(5) 和歌山県

主体	取組名称	概要
和歌山観光連盟	わかやま観光情報	和歌山県内の観光情報の発信
有限会社 ロコウィッツなど	和歌山ほんまもん体験倶楽部	和歌山県内の体験交流プログラムのコーディネート

(6) 岡山県

主体	取組名称	概要
岡山県	おかやま観光案内	岡山県内の観光情報の発信
岡山県	「地域発観光」セミナー	県内各地域での観光地づくり活動の促進

(7) 広島県

主体	取組名称	概要
広島県	広島県観光ホームページ	広島県内の観光情報の発信
広島県	参加・体験・感動型観光の推進	県内各地域での体験交流プログラム開発の支援

(8) 山口県

主体	取組名称	概要
山口県観光連盟	山口県の旅行・観光情報	山口県内の観光情報の発信
山口県	やまぐち観光交流塾	県内各地域での観光地づくり活動の促進

(9) 香川県

主体	取組名称	概要
香川県観光協会	エンジョイ香川	香川県内の観光情報の発信

(10) 愛媛県

主体	取組名称	概要
愛媛県	いよ観ネット	愛媛県内の観光情報の発信

(11) 徳島県

主体	取組名称	概要
徳島県観光協会	阿波ナビ	徳島県内の観光情報の発信
美馬市・三好市・ つるぎ町・ 東みよし町	にし阿波広域観光圏	大歩危・祖谷地区における滞在型観光の促進

(1 2) 福岡県

主体	取組名称	概要
福岡県観光連盟	クロスロードふくおか	福岡県内の観光情報の発信

(1 3) 大分県

主体	取組名称	概要
ツーリズムおおいた	大分県の観光・グルメ・イベント情報	大分県内の観光情報の発信
別府市・由布市・大分市・臼杵市など	新東九州観光圏	別府温泉・湯布院温泉地区などにおける滞在型観光の促進

瀬戸内海全域における瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会や、しまなみ海道周辺における瀬戸内しまなみ海道振興協議会など、府県・市町レベルで連携した情報発信などの取り組みは見られるものの、その多くは、「しまなみ海道」など橋を中心としたもので、瀬戸内海そのものを活用した取り組みはごく短期間の海上遊覧程度にとどまっている状況にあり、広域観光旅行商品の開発など瀬戸内海各地で本格的に連携して実施する定期的な事業の展開は、具体的な取り組みに至っていないのが現状である。

今後、「瀬戸内国際芸術祭」のように、瀬戸内沿岸の各府県の観光資源、人材、資金などを必要に応じて有機的に連携させるなど、各種イベント事業の取り組みと連携させることにより、瀬戸内クルーズの魅力の増大とクルーズ客船を活用した瀬戸内海における広域観光の展開が期待される。

第 章 人と環境にやさしいクルーズ客船のコンセプトデザイン

1. クルーズ客船のコンセプトデザイン

(1) デザインの基本コンセプトの設定

神戸起点の定点定期クルーズとする。

瀬戸内海の島々を巡るクルーズをおこなうため小型で小回りのきく船とする。

クルーズ費用を抑えるため旅客定員はできるだけ大きくする。

瀬戸内海の美しい景色を十分に楽しめる施設をもつ。

航海速力の変動に対応でき、かつ省エネ型の船とする。

ユニバーサルデザインを取り入れ、バリアフリー化を徹底する。

(2) 船型

上記の基本コンセプトを満足する船型として、幅広・浅喫水船型を採用し、4基の電動ポッド推進器をもつ両頭型クルーズ客船とする。モデルとしたのは、デンマークの旅客カーフェー「ハムレット」クラスである。

幅広・浅喫水船型を採用したことから、各デッキ共に広いスペースを確保でき、大きな復原力を有することからデッキ数を増やすことができる。

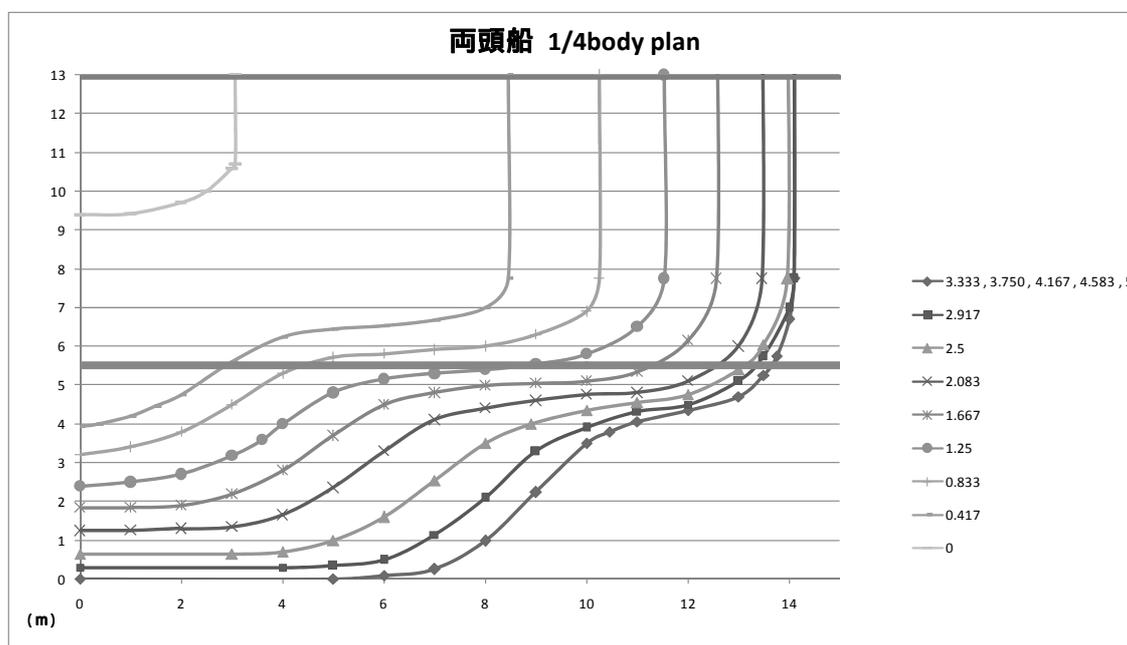


図 1 正面線図

(3) 主要目

総トン数: 13,000 トン

排水量: 7,553 トン

全長: 111.2m

幅: 28.2m

喫水: 5.5m

主機: ディーゼル発電機 1530kW x 4 基: 合計 6,120kW

補機:

航海速力: 15 ノット

燃料消費: 0.63 トン/時間

旅客定員: 272 人(最大 368 人)

キャビン: 全室アウトサイド・ベランダ付キャビン

- ・ スタンダード: 2 人部屋(16.2m²+ベランダ 3.75m²)x 96 室

(参考: にっぽん丸:14m²)

- ・ デラックス家族部屋: 4 人部屋 x16 室

- ・ デラックス: 2 人部屋(49m²+ベランダ 19m²)x8 室

(参考: にっぽん丸:41m²)

展望ダイニング・ルーム: 523m² (参考: にっぽん丸:623m²)

展望ラウンジ: 683m² (参考: にっぽん丸:196m²)、ドルフィンホール:490m²)

フォワードラウンジ: 52m² x 4

シアター: 190m² (参考: にっぽん丸:120m²)

展望浴室: 80m² x 2 (参考: にっぽん丸:60m²x2)

フィットネス・ルーム: 56m² (参考: にっぽん丸:51m²)

プティック: 79m² (参考: にっぽん丸:66m²)

ライブラリー: 52m² x 2(上下) (参考: にっぽん丸:56m²)

エステ・ヘアサロン: 52m² x 2(上下) (参考: にっぽん丸:24m²)

ロビーラウンジ: 210m²

車両甲板: 食材トラック(2 トン車)3 台 + 連絡用車両 2 台(車椅子用車両を含む)

(保冷車・冷凍車用電源)

(4) 復原性の検討

復原性の検討を行った結果、以下の通りとなった。

GM: 7.26m

横揺れ固有周期: 8.4 秒

復原性規則: C 係数 1.495

海水流入角: 31.2°

復原力消失角: 65°

きわめて良好な復原性をもっているが、復原力がやや大きすぎて乗り心地が悪くなる可能性があることが懸念される。この点については次節で船酔い率の立場から評価することとする。

(5) 荒天時の船体運動および船酔い

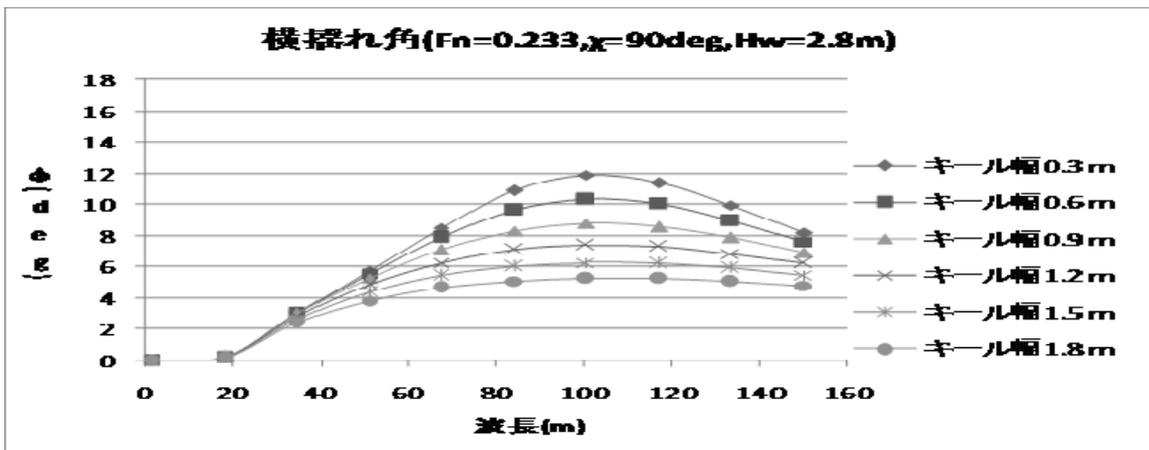
瀬戸内海における台風時の波は、波高が最大 2.8m、波長が 80m 程度である。こうした波の中での船体運動をストリップ法を用いて計算し、必要なビルジキール寸法を決定するとともに、船体運動の最大値を求めた。その結果、ビルジキールは幅 1.2m、長さは全長の 40%とした。

台風時における予想最大横揺れ角は 9°、縦揺れは 1.7° となった。また、船上での船酔い率(MSI)は、縦波よりも横波の方が大きく、2.8m の波高で MSI が 15%となった。この MSI を 10%以内に収めるためには、アンチローリングタンク等の横揺れ軽減装置の装備が必要となる。

表1 瀬戸内海の海象データ

波長(m)	波高(m)
0	0.4
20	0.8
40	1.2
60	1.6
80	2.0
100	2.4
120	2.8

注: 波長 0-40m は平常時、40-120m は台風時。波高 0.4-1.2m は平常時、1.2-2.8m は台風時。



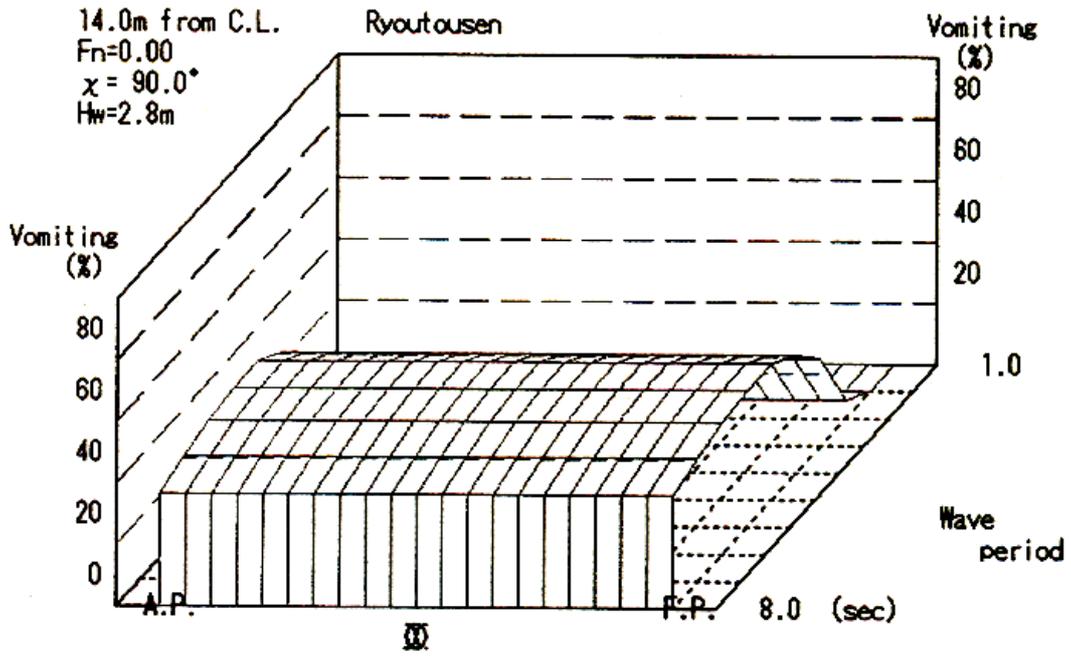


図3 台風時横波中での船酔い率

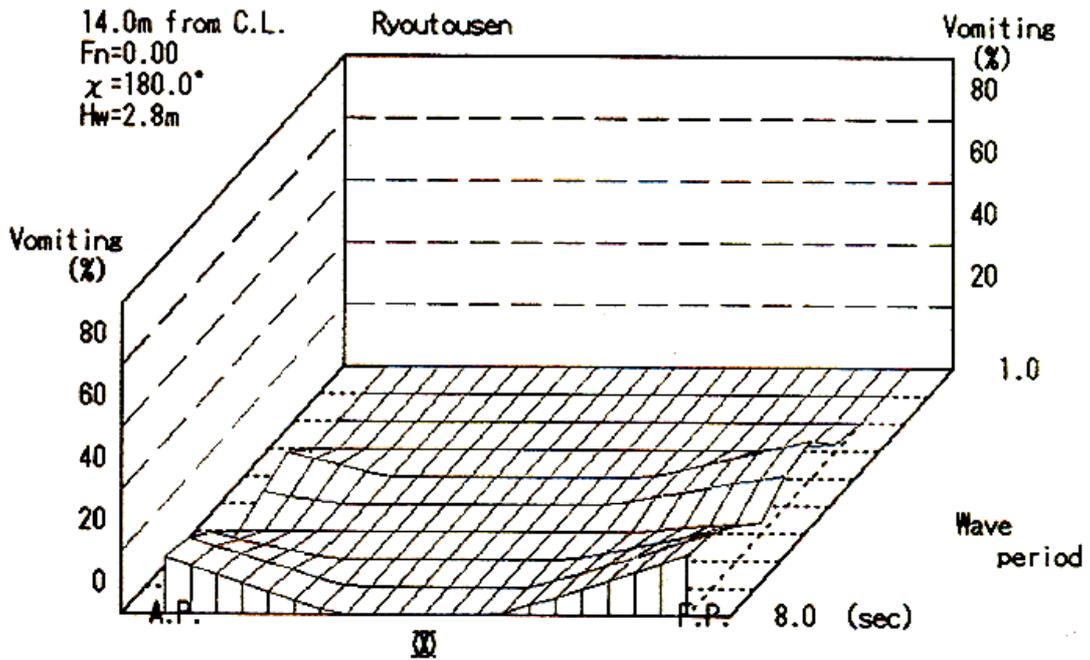


図4 台風時向い波中での船酔い率

(6) 既存船との比較

既存クルーズ客船と、本提案船との省エネ率および旅客当たりの空間の大きさの比較を行った。

ここでの省エネ率は、エンジン馬力を旅客数で割ったもので、数値が低いほど旅客 1 人当たりのエネルギー消費量が小さいことを示している。本提案船は比較的小型船にもかかわらず既存の日本のクルーズ客船(N, O)に比べると半分以下のエネルギー消費になっており、16 万総トンの巨大船(F)とほぼ同じとなっている。バスに比べるとエネルギー効率は低いが、バスには移動手段としての機能だけしかないことを考えると、直接の比較には無理がありそうである。

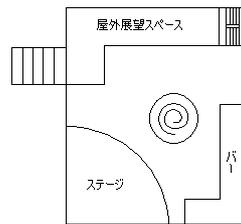
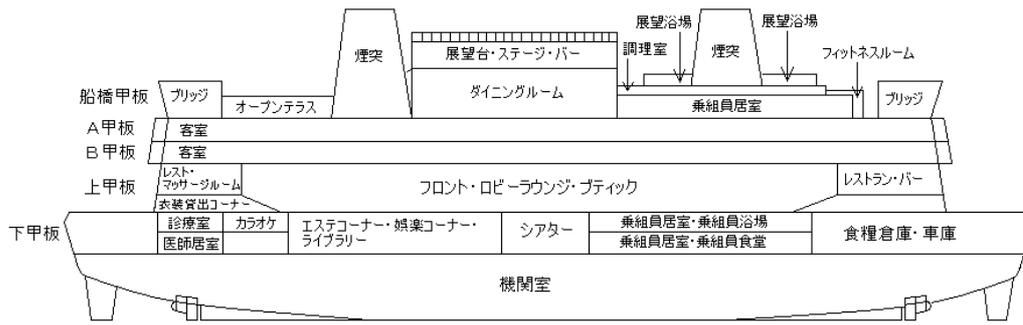
船内の空間の大きさを表す総トン数を乗客数で割った空間係数は、いずれの既存のクルーズ客船よりも広く、特殊な船型を使ったことによる甲板の幅の拡大と甲板層数の増加の効果が大きい。

	本船	N	O	F	バス
・省エネ率(エンジン馬力/乗客数)	22.5	65	44.1	24.0	7.8
・空間係数(総トン数/乗客数)	47.8	36.7	43.5	40.7	-

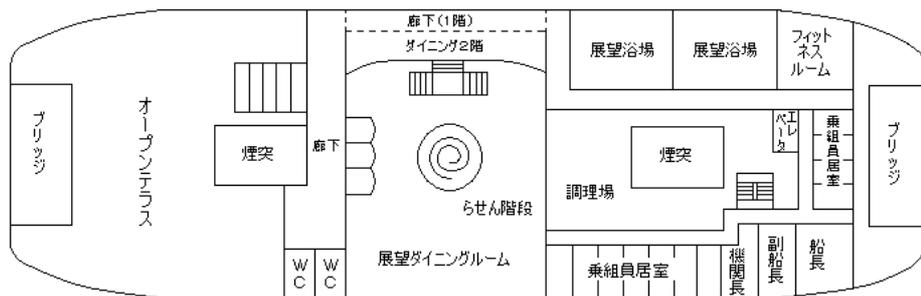
N: にっぼん丸(22000GT)

O: おせあにつくぐれいす(5000GT)

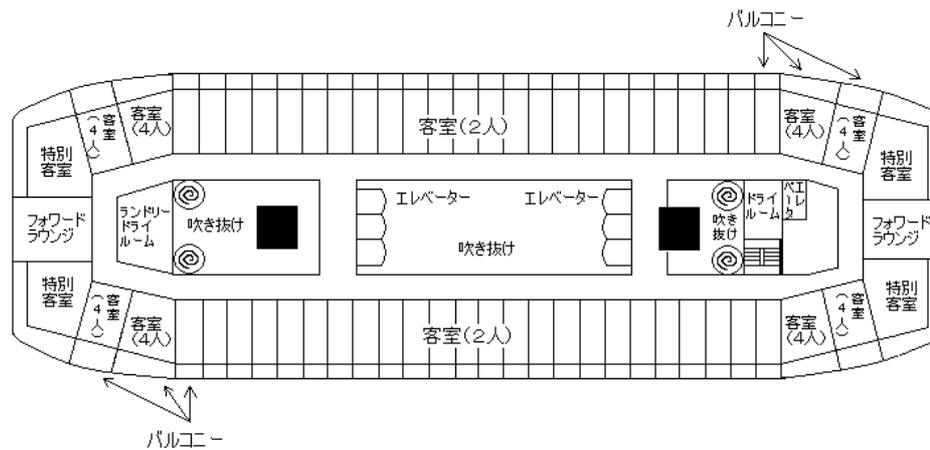
F: フリーダム・オブ・ザ・シーズ(160,000GT)



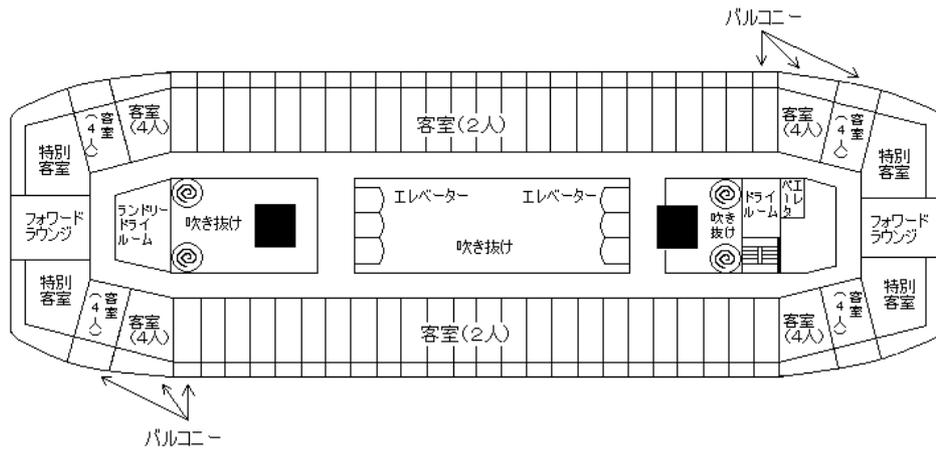
展望ラウンジ



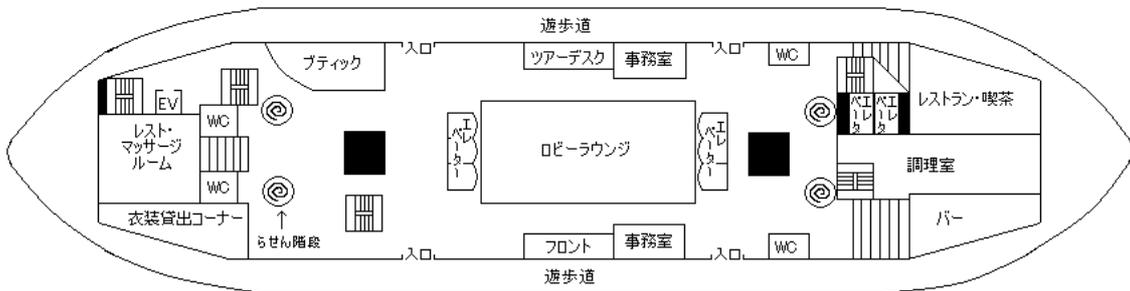
船橋甲板



A甲板



B 甲板



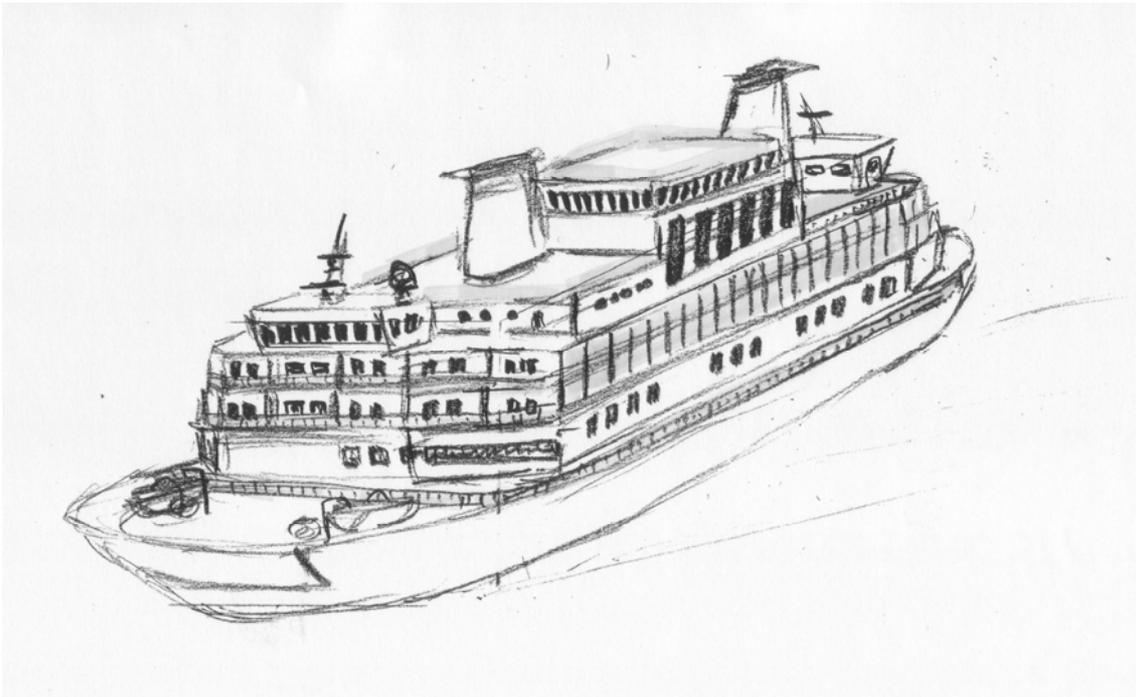
上甲板



下甲板 (2階)



下甲板 (1階)



本提案船のイメージ図

2．経済性評価

本クルーズ客船の経済性の評価を行うため、損益分岐解析を行い、損益分岐点での運賃を算出した。

船価は 50 億円、旅客定員 272 名、船員 104 名(平均年収 700 万円)、耐用年数(減価償却年数)15 年とし、1 日あたりの航海時間は 8 時間とした。

損益分岐点での運賃は、平均消席率を 35%～100%、年間稼働日数を 80～358 日に変化させた。なお、北米の主要クルーズ運航会社の平均消席率は大衆型クルーズ客船で 110%、高額路線のクルーズ客船で 70～80%といわれ、年間稼働日数は 1 週間のドック期間を除く 358 日が一般的である。

小型の、比較的定員の少ない船なので、損益分岐料金は平均消席率 100%、年間フル稼働の 358 日として 1 日あたり 25,963 円とかなり高価になり、これに適正な利益を加えると高額路線のクルーズ客船となる。

前述のように、このクラスでの消席率は 70～80%なので、クルーズ料金は 3～4 万円となり、既存の日本のクルーズ客船に近い価格となる。これは、小定員のクルーズ客船の宿命であり、大型化、大定員化を行う以外に料金の低廉化は難しい。

経済性評価に用いたデータ

基本事項		
船価		¥5,000,000,000
船員数(人)	運航要員	15
	サービス要員	65
	予備員	24
	計	104
耐用年数(年)		15
食材費(1日1人当たり)		¥3,300
1日航海時間		8
馬力(ps)		8160
旅客定員(人)		272
航海日数(日)		7
排水量(ton)		7552
総トン数		13000

費用計算表

船費	合計		¥1,167,000,000
	内訳	船員費	¥728,000,000
		修繕費	¥50,000,000
		保険料	¥50,000,000
		固定資産税	¥35,000,000
		減価償却費	¥300,000,000
		その他	¥4,000,000
一般管理費		¥100,000,000	
金利		¥300,000,000	
年間固定費(上記合計)		¥1,567,000,000	
1日当たりの運航費 (食費含まず)	合計		¥1,787,320
	内訳	燃料費(18円/1時間1馬力あたり)	¥1,175,040
		港費	¥112,280
		その他	¥500,000

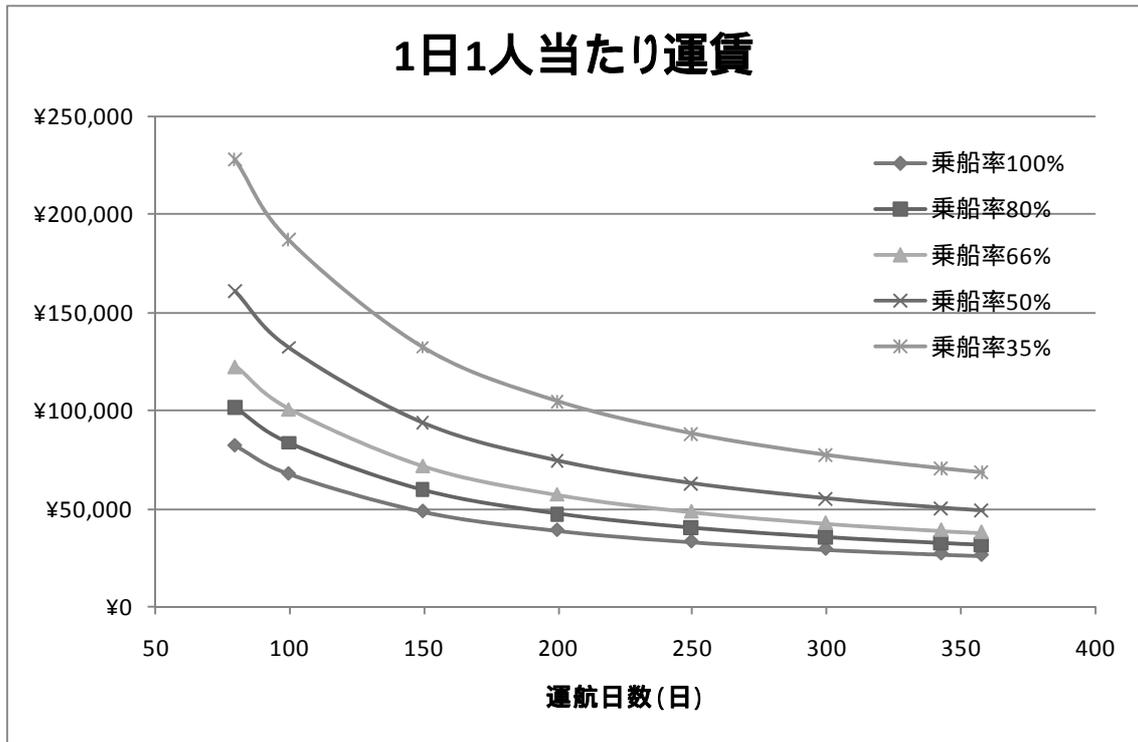
港費

	港	入港料(*1)	岸壁・棧橋等使用料(*1,*2)	総費用
		内航船舶	内航船舶	
港費	神戸港	¥1.42	¥10.55	¥155,545
	広島県(生口島)		¥3.27	¥42,510
	呉港		¥4.00	¥52,000
	広島港	¥0.78	¥5.25	¥78,390
	大分県(別府港)		¥3.86	¥50,180
	愛媛県(松山港)	-	-	¥21,950
	高松港		¥5.96	¥77,480
	岡山県(宇野港)	¥1.20	¥4.70	¥76,700
	神戸港	¥1.42	¥10.55	¥155,545
	福岡県(門司港)	¥1.05	¥4.77	¥75,660
		計		¥785,960

愛媛県(松山港)					
乗船率	客数(人)	入港料	棧橋入場料	係船料	総費用
100%	272	¥790	¥8,160	¥13,000	¥21,950
80%	217.6	¥675	¥6,528	¥13,000	¥20,203
66%	179.52	¥595	¥5,386	¥13,000	¥18,981
50%	136	¥504	¥4,080	¥13,000	¥17,584
33%	89.76	¥407	¥2,693	¥13,000	¥16,100

乗組員給与

給与		1ヶ月当り	航海日当 1ヵ月平均	その他の手当	人数	年収(1人あたり)	年収総額
		運航要員	¥523,316	¥23,471		¥29,092	15
	サービス要員	¥385,831	¥17,688	¥24,196	65	¥5,132,580	¥333,617,700
	予備員(平均)	¥484,939	¥21,738	¥27,440	24	¥6,409,404	¥153,825,696
						計	¥591,101,616
						その他(保険金,年金等)	¥136,898,384
						総額	¥728,000,000



乗船率100%

運航日数	運賃
80	¥81,884
100	¥67,481
150	¥48,278
200	¥38,676
250	¥32,915
300	¥29,074
343	¥26,667
358	¥25,963

乗船率80%

運航日数	運賃
80	¥101,529
100	¥83,526
150	¥59,521
200	¥47,519
250	¥40,318
300	¥35,517
343	¥32,508
358	¥31,628

乗船率66%

運航日数	運賃
80	¥122,364
100	¥100,542
150	¥71,446
200	¥56,898
250	¥48,169
300	¥42,350
343	¥38,702
358	¥37,636

乗船率50%

運航日数	運賃
80	¥160,463
100	¥131,658
150	¥93,251
200	¥74,048
250	¥62,526
300	¥54,844
343	¥50,029
358	¥48,622

乗船率33%

運航日数	運賃
80	¥227,817
100	¥186,666
150	¥131,799
200	¥104,366
250	¥87,906
300	¥76,933
343	¥70,054
358	¥68,043

第 章 神戸・瀬戸内クルーズ振興の方向性

1. 各調査結果より明らかになったこと

(1) せとうち・感動体験クルーズ参加者・関係者調査(第 章まとめ)

ヘルスツーリズムの観点

- ・「健康」はクルーズにとって重要なキーワードである。
- ・クルーズ期間中も「ゆったりとして気持ちがいい」という声が多数聞かれた。
- ・アンケート結果では、クルーズ利用経験の少ない層や幅広い年齢層から「ゆったりとしたクルーズライフ」という言葉のイメージに惹かれて体験クルーズに参加したとの回答が寄せられ、利用経験が少ない層を中心として「日頃のストレスが解消した」「日常の時間の過ごし方を考え直すきっかけとなった」との声が寄せられた。
- ・ヘルスツーリズムの観点からも、クルーズ旅行は健康に寄与するものであり、商品テーマとして有効である。

ユニバーサルツーリズムの観点

- ・クルーズ客船は、要介助者や同行者にとって利便性の高い旅行手段である。クルーズ期間中も、車椅子などを利用する要介助者やその同行者から、クルーズの旅は荷物を移動させる必要がないのでよい、船内の移動は問題ないなどの声が聞かれた。
- ・70歳代・80歳代がアンケート回答者の3割以上を占めるなど、クルーズ客船による旅行では参加者の年齢の上限が高くなる傾向がある。
- ・アンケート結果では、体験クルーズ参加者の多くが、車椅子利用者など要介助者と一緒に参加した場合にも楽しめるという安心感を持っている。
- ・ユニバーサルツーリズムの観点からも、クルーズ客船は移動・介護・宿泊の機能をすべて兼ね備えた利便性の高いものであり、商品テーマとして有効である。

定点・定期事業化に向けた取り組みのあり方など

- ・一般的な旅行商品としては最も受け入れられやすい価格は、2泊3日で5万円程度とみられるが、クルーズは1泊4万円程度と一般的な旅行商品よりも高額な印象がある。しかし、交通費・食費込みの価格設定であることを考慮に入れると、割高といえるものではない。したがって、「洋上でゆったりとした時間を過ごす」「人と人のふれあいを楽しむ」というクルーズならではの魅力を味わうことのできる、経済的にも合理性のある商品であることのPRを強化していくことが第一に必要である。しかしながら、低価格化へ向けて可能な限りの工夫と努力も併せて求められる。
- ・年代層によって価格に対する評価が異なる状況からみて、若年層を対象としたクルーズ入門的な価格帯の商品開発を行うことも重要と考えられる。
- ・クルーズ全体の評価や再参加意欲は「利用経験が少ない」のほか「40歳代以下」「女性」「瀬戸内海周辺の地方」層において、それ以外の層と比較して評価が高い。これらの層は、裾野を広げて展開する場合に重要な顧客層であると考えられる。

(2) 港湾施設・交通アクセスの整備状況と改善計画の現状(第 章まとめ)

神戸港および瀬戸内海周辺地域における港湾施設・交通アクセス・観光振興の現状

- ・クルーズ客船の寄港による経済効果は大きい。通船を活用した寄港も可能だが、寄港には港湾施設の整備は重要で、今後の整備・誘致活動の実施展開が期待される。
- ・ヒアリング調査の結果でも、各寄港地とも港の活性化が街の活性化に直結するという認識は強く、とりわけクルーズは各地域の観光資源を面的広がりでも有効に活用できる点で地域活性化に果たす役割が高く評価されている。
- ・こうした視点に立って、岸壁・ターミナル施設の整備が瀬戸内海周辺地域における各港(瀬戸田港、高松港、宮浦港(大三島)、呉港、広島港、門司港、別府港、松山港、宇野港、牛窓港、日生港)で港湾規模等に応じて進められており、旅客埠頭の再配置・ターミナル施設の再整備・棧橋の敷設などの整備が、都市計画等により定め今後も実施される予定である。
- ・各自治体において、官民が連携した地域資源や魅力を活用した観光商品の開発と情報発信が進められており、寄港地におけるおもてなしとして連携することが考えられる。

神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセス状況と改善方策

- ・旅客ターミナルへは、JR神戸駅からは徒歩圏にあり、JR三ノ宮駅・JR新神戸駅・JR神戸駅など周辺の主要駅より、神戸市営バス・シティループバスをはじめとしてタクシーなどが利用可能である。
- ・体験クルーズ参加者アンケートによると、主要駅から旅客ターミナルへは全体としてタクシーが多く利用されているが、手荷物の多さから高齢者を中心にタクシー利用に傾いたものと思われる。
- ・一方で、バス停が分かりにくい・バスの本数が少ないなどの指摘も多いことから、遠方からの参加者など地理に不案内な人たちはやむを得ずタクシーを利用することも多いものと思われるため、クルーズ事業者による参加者への分かりやすい旅客ターミナル案内図の送付や、主要駅のバス停所在地への案内標識等の工夫などの改善が必要と考えられる。
- ・クルーズ実施時にはタクシー事業者と連携するなどの工夫も考えられる。

(3) 瀬戸内海クルーズ客船のコンセプトデザイン(第 章まとめ)

クルーズ客船のコンセプトデザイン

- ・瀬戸内海の島々を巡るために小回りの利くよう小型で、船内施設を十分に備え、大型クルーズ客船「にっぽん丸」と比較して省エネ率が3分の1で、かつバリアフリー化を実現したクルーズ客船の設計は十分可能なものである。
- ・船価は50億円、旅客船員272名、船員104名、耐用年数(減価償却年数)15年とし、1日当たりの航海時間は8時間と想定した。

経済性評価とクルーズプラン

- ・経済性の評価を行った結果、乗船率・運航日数など一定の条件を満たせば採算性が確保できることが明らかとなった。

2. 神戸・瀬戸内クルーズ振興にかかる論点

各調査結果を踏まえ、今後以下の事項について検討する必要がある。

(1) 地域ブランドの確立

クルーズのみならず「神戸港」と、広域観光圏「せとうち」と言う、
地域ブランドの確立こそが、当面取り組むべき課題となる。

「せとうち」は広域観光エリアとして大きな可能性を秘めているが、発展途上であり、現時点では、東北三大祭り、屋久島等の既存の国内クルーズ商品と比して競争力があるとは言えない。既存クルーズ事業者による「せとうち」をコースに組み込んだ商品の企画・実施と、最終目標である民間による事業化のためには、クルーズの市場拡大と、「せとうち」ブランドを採算に見合うマーケットに高めることが不可欠である。

そのためには、クルーズのみならず「神戸港」と広域観光圏「せとうち」と言う地域ブランドの確立が当面の課題となる。瀬戸内海は多くの県域にわたり、地域として広く取りまとめることが難しいため、各地域において地域ブランドの取り組みは進められているものの、「せとうち」ブランドは確立されていない。

(2) 定点・定期事業の実施体制の構築

実施体制の構築

単独・複数の事業者によるなど、さまざまな共同実施体制を検討し、
定点・定期事業の構築を目指す。

理想的には個々の事業者単位でクルーズ客船を運航できることが望まれるが、事業の採算性に不安がある現状においては、フェリー事業などで見られる共同運航のように複数の事業者による共同実施体制の構築も検討に値する。

実施体制については、第一段階で商品コンセプトやサービス提供体制などの事業内容の詳細部分を検討し、第二段階で事業を実施する体制を本格的に構築することが考えられる。

利用船舶の選定

クルーズに利用する船舶は、専用小型船を新たに建造するだけでなく、
既存の旅客フェリーや観光船を活用する、初期投資の少ない手法も可能。

瀬戸内海の魅力を最大限に活用するためには低環境負荷・バリアフリー化に配慮し、瀬戸内海域の特性に対して適応力の高い専用小型船の建造も望まれるが、当面はクルーズの裾野開拓に加え旅客フェリーや観光船などを活用することも考えられる。

ただし、宿泊機能のない観光船の場合、寄港地の宿泊施設と連携して事業を実施する必要がある。

連携体制の構築

瀬戸内海沿岸における横断的な連携体制の整備が重要。

宿泊機能のない船舶を利用する場合の寄港地の宿泊施設の充実・整備、また港湾施設の整備状況を含め、寄港に伴う受け入れ体制の構築が可能かどうかなど、既設の関係者協議機関を有効活用し、瀬戸内海沿岸における関係者間における連携体制の整備を行うことが重要である。

(3) 顧客ターゲットの検討

年齢層・性別

現在中心となっているシニア層だけでなく、これまで参加機会の少なかった中年・若年層、女性層も有望な顧客層である。

顧客ターゲットとする年齢層および性別を検討する必要がある。

60代以上のシニア層は体験クルーズにおいても過半を占めており、今後も有望な顧客層であると考えられる。50代・40代以下の中年・若年層についても、体験クルーズ参加者ではシニア層より高い満足度を示しており、有望な顧客層と考えられる。

性別では女性が満足度・再参加意欲において高い評価を示しており、有望な顧客層と考えられる。

居住地域

国内の重要な市場は、近畿・中国・四国など瀬戸内海周辺。
将来的には中国・韓国・台湾も有望な市場になることが期待される。

顧客ターゲットとする居住地域を、国内・海外など検討する必要がある。

国内は、体験クルーズ参加者では近畿・中国・四国など瀬戸内海周辺の各地方の居住者の再参加意欲が高く、有望な顧客層と考えられる。またVJC事業の一環で体験クルーズに参加した中国・韓国・台湾の観光事業関係者からも瀬戸内海の多島美に関する称賛の声が寄せられており、将来的に有望な海外向け市場になりうると考えられる。

利用経験

クルーズの普及キャンペーンなど、体験者を増やす工夫が重要。
体験者が増えることで、クルーズの裾野が広がる。

体験クルーズ参加者に対する調査では、経験豊富な層は再参加意欲が高く再参加の時期が近いなど、引き続き有望な顧客層であると考えられる。また経験が少ない・あるいは未経験の層は、経験豊富な層より高い満足度を示しており潜在需要があることを表している。こうした有望な顧客層を開拓するためにも、今回のテストクルーズほどの規模でなくとも、既存の国内クルーズの普及キャンペーンに取り組むなど、裾野を広げるためのクルーズ体験者を増やす工夫が必要である。

(4) 商品コンセプトの検討

顧客が受け入れやすいコンセプトの設定が重要。
ヘルスツーリズム・ユニバーサルツーリズムなどの切り口が有効。

ヘルスツーリズムの「健康」という切り口は有効である。アメリカ船籍のクルーズ客船「クリスタル・クルーズ」は、アジア各地を寄港地とする「健康」をテーマとし、健康食やヨガなどのプログラムのあるクルーズを実施している。クルーズ利用経験の少ない層や幅広い年齢層にとって「洋上でゆったりとした時間を過ごす」という言葉のイメージは訴求力のあるものであり、「健康」をテーマとしたクルーズへの参加は日常の多忙さから逃れることの快感につながりやすいと考えられる。

ユニバーサルツーリズムの「だれでも参加できる」という切り口も同様に有効である。客室自体が移動するクルーズによる旅は、要介助者・同行者にとって利便性が高く、バス、列車等、他の移動手段と比較しても船内での行動の自由度の高さは、バリアフリーの視点からしても極めて高い優位性を誇ることができる。

(5) 価格路線の検討

クルーズならではの高級感。幅広い顧客層の取り込み。
これらを両立する戦略が重要。

価格路線として、高級旅行商品路線の維持か、一般旅行商品として裾野を広げるか、検討する必要がある。

現在の高級旅行商品路線は、短い期間内でリピート意欲をもつ利用経験豊富な顧客層を持ち、専用小型船を導入した場合においても、現段階でのクルーズ価格と同レベルの価格を設定することが可能と考えられ、事業の採算性確保の可能性は高く、今後も有望であると考えられる。一般旅行商品路線は、利用経験の少ない・未経験の層に対して訴求力が高く、サービス内容を特化した低価格商品プランの提供等により、裾野拡大の有効な戦略となりうる。

これらから、高級感を保ちつつも、幅広い層をバランス良く取り込む戦略が必要である。

(6) 交通アクセスの改善

「中突堤に行くのは簡単！」そんなイメージが定着するような、
バス便運行状況などのPR活動が必要。

神戸市内の主要駅から旅客ターミナルへは市営バス・シティループバスが相当数運行されているが、体験クルーズへのアンケート結果からバスが利用しにくいとの意見が聞かれ、多くの参加者がタクシーを利用した実態が明らかとなっている。

神戸・瀬戸内クルーズの起点となる神戸港中突堤旅客ターミナルへの交通アクセスについて、現行のバス便の運行状況をPRするなど、より利用しやすくする必要がある。また、将来的課題としては、クルーズ運航時にはタクシー事業者と連携するなどの改善方策を検討する必要がある。

3. 神戸・瀬戸内クルーズの今後のあり方

以上を踏まえ、神戸・瀬戸内クルーズの今後のあり方を以下の通り提言する。

(1) 地域ブランドの確立

「点」を「面」として捉えるための、「線」としてのクルーズの意義。
官民あがての推進体制の構築と、既存クルーズ事業者に対する
「せとうち」のPR活動の展開と支援が必要。

「点」としての各地の地域ブランドの取り組みを、広がりのある「面」として捉えるためには、「線」としてのクルーズが重要な役割を果たす。

民間による事業化のために不可欠な、クルーズのみならず「神戸港」と広域観光エリア「せとうち」という地域ブランドの確立を目指し、官民あがての推進体制の構築と、既存クルーズ事業者に対する「せとうち」のPR活動の展開と支援が必要である。

(2) 既存事業者や異業種事業者による実施・連携

大手クルーズ事業者、地元クルーズ事業者、その他関連する事業者。
これらが単独・あるいは連携補完し合い、実施体制を構築することが必要。

神戸・瀬戸内クルーズ定点・定期化の実施事業者としては、大型クルーズ客船を有する日本の大手クルーズ事業者や、神戸港など瀬戸内海周辺においてクルーズ事業を展開する地元事業者、あるいは旅行事業者、ホテル事業者やテーマパーク事業者などの関連する事業者などがその候補として考えられる。これらの事業者が単独・あるいは連携補完し合い、事業の実施体制を構築することが必要である。

(3) 採算性と人員・サービス体制の構築

コストを低減するさまざまな工夫が期待される。
瀬戸内海を航行するという地理的特性には、活用できる要素が多く存在する。

空間の共有による交流（社交性）と脱日常性は、クルーズ最大の特徴であり、魅力でもある。加えて、多島美を巡ることにある「せとうちクルーズ」の魅力を提供するためには、従来の大型クルーズ客船とは異なる機動力に優れ、かつ、旅客のニーズを船内完結型で満足させ得るにふさわしい規模の専用船が求められる。

本委員会で検討を行った神戸・瀬戸内クルーズ専用とした新しいクルーズ客船の経済性評価の結果、1万3千トン級の中型船（ぱしふいっくびいなす号は、2万6千トン）であっても年間運航日数が360日程度の場合に2泊3日の商品を、乗船率100%であれば8万円程度、乗船率80%であれば9万5千円程度、乗船率66%であれば11万円程度で提供すれば採算性を確保できることが明らかとなっている。

また、寄港地と連携したサービス体制を構築することで顧客へ提供するサービスの質を高めつつ、食事をビュッフェ形式や希望者のみへの提供とすることや、宿泊機能を陸上に求めること、リネンの洗濯を陸上で行うなどにより、定員に限りがある小型客船では客単価が割高になるところを、瀬戸内海を航行するという地理的特性を生かしたサービス体制を構築することで、コストを低減するさまざまな工夫を行う余地もある。

ビュッフェ形式とすることには、食事という主要なサービスが、画一的に提供されるのではなく、参加者が嗜好に応じて選択できることに意義がある。また、栄養価を各人がコントロールすることにより、フルコースの提供と比して食事での健康を促進することができる。

(4) フライ&クルーズによる外国からのクルーズ客の増大

神戸港は、日本におけるフライ&クルーズの格好の拠点といえる。
国内外からのクルーズ客の増大が期待される。

海外の都市に航空機で飛び、その後大型クルーズ客船で周辺数カ国を旅行する「フライ&クルーズ」は、欧米においては一般的な旅行形態の一つであり、国内においても大量退職を迎えた団塊世代を中心に売れ行きが伸びている。

ビジット・ジャパン・キャンペーンの一環として中国・台湾・韓国のマスコミ・旅行エージェントが体験クルーズに参加しており「日本、瀬戸内海の美しさを伝えたい」と好評であった。今後、中国をはじめとした東アジアや欧米各国から飛行機で日本を訪れクルーズに参加する、フライ&クルーズが日本においても定着することへの期待が高まっている。

このような動きの中で、神戸港は周辺に神戸空港・関西国際空港を擁し、飛行機で訪れた旅行者にとって容易にアクセスしうる環境にある。このため、日本におけるフライ&クルーズの格好の拠点であるといえ、国内外からのクルーズ客の増大が期待される。

(5) 新しい旅行ニーズ・旅行テーマの受け皿としての展開

高まる旅行者のニーズ多様化・本物志向。多種多様な魅力を有する瀬戸内海を巡る「神戸・瀬戸内クルーズ」こそ、これらに応えうるものである。

旅行形態が団体から個人へとその中心が変化して久しい。この個人化と共に、旅行者のニーズも“十人十色”さらには“一人十色”と言われるほど多様化し、さらには本物志向も高まっている。また旅行者を受け入れる地域の側でも、地域に根差した地域ならではの資源や文化を護り育てようとする取り組みと、新たな観光の流れを地域に取り込み活性化しようとする観光分野とが連携し、地域ぐるみで新しい地域に密着した旅行商品（オプションツアー）の開発が進められている。

これら新しいニーズの高まりを踏まえた、地域資源を活用した新たな形態の旅行は「ニューツーリズム」と呼ばれ、現在日本全国で商品開発・情報発信などの普及活動が展開されている。

ニューツーリズムに関連して、今後顕在化が期待される旅行ニーズ、および旅行テーマは以下があげられる。（参考：観光立国推進基本計画など）

ヘルスツーリズム

自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身共に癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態。

（「メタボ対策」「禁煙」「糖尿病対策」などの「体質改善プログラム・クルーズ」、
「エステ」「スパ」「美容食」などの「美と健康のクルーズ」 など）

産業観光

歴史的・文化的価値のある工場等やその遺構、機械器具、最先端の技術を備えた工場等を対象とした観光で、学びや体験を伴うもの。

(コンビナートや工場を巡る「海から陸から・瀬戸内海工場見学クルーズ」など)

エコツーリズム

自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく、それらを体験し学ぶ観光のあり方。地域の自然環境やそれと密接に関連する風俗慣習等の生活文化にかかる資源を持続的に保全しつつ、新たな観光需要を掘り起こすことにより、地域の社会・経済の健全な発展に寄与し、ひいては環境と経済を持続的に両立させるもの。

(瀬戸内海の自然・歴史を体験する「海遊び・島遊びクルーズ」 など)

グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅。

(農漁業体験と交流を中心とした「果物とお魚・とれたてもぎたてクルーズ」など)

文化観光

日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする観光。

(古代日本の歴史舞台を巡る「瀬戸内海から古代が見える・歴史ロマンクルーズ」

源平合戦や村上水軍の活躍の場を巡る「瀬戸内海・海の侍クルーズ」 など)

穏やかな海域、大小 3,000 余の島々が点在する多島美、各地に残るロマンにあふれた歴史、各地の豊かな食文化など、多種多様な魅力を有する瀬戸内海各地を舞台としたオプショナルツアーと、それらを巡る「神戸・瀬戸内クルーズ」は、ニューツーリズムを具現化した一つの形といえる。

(6) おわりに

「神戸・瀬戸内クルーズ」は、広域観光のモデルケース。
我が国が目指す海事・観光立国の実現に資するものである。

我が国は、およそ 35,000km の海岸線と、約 7,000 の離島を有する海洋国家である。クルーズ産業の振興は、これら多種多様な海岸線を眺め、文化性あふれる離島を巡ることを通じて、海洋・沿岸域への親しみ・理解を促進するものであり、我が国の海洋・沿岸域政策の流れに合致するものである。中でも、「神戸・瀬戸内クルーズ」は、平成 20 年 10 月の観光庁発足に伴い、地域間の連携促進を目指し整備が進められる「観光圏」を先取りする、広域観光のモデルケースであり、海事・観光立国の実現に資するものである。

魅力的なテーマのある地域への寄港・オプショナルツアーの実施など、各地域における取り組みと連携し、新しい旅行ニーズ・旅行テーマの受け皿として瀬戸内海各地域が一体となった振興を行い、神戸・瀬戸内クルーズが発展することが期待される。

参考資料

第 章	せとうち・感動体験クルーズ参加者インタビュー調査結果	1
第 章	せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査結果	16
第 章	神戸・瀬戸内クルーズ関係者ヒアリング調査結果	74
第 章	神戸・瀬戸内クルーズ航路および運航コスト詳細	90

第 章 せとうち・感動体験クルーズ参加者インタビュー調査結果

1. 実施概要

(1) 実施期間

2008年7月16日(水)～7月18日(金)

(2) 対象

せとうち・感動体験クルーズ参加者

(3) インタビュー内容

- ・ヘルスツーリズムの観点：健康に関して感じること など
- ・ユニバーサルツーリズムの観点：船内のバリアフリーに関する感想 など
- ・その他：クルーズに参加した感想、参加者の様子 など

(4) 実施人数

29名(ヘルスツーリズムの観点16名、ユニバーサルツーリズムの観点5名、
その他8名)



2. ヘルスツーリズムの視点：健康に関するインタビュー内容・状況

(1) インタビュー

日時	7月16日 17時00分
場所	11F サンデッキ
タイトル	くつろぐ50代男性二人
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいビール。涼しく気持ちいい。天気が良く最高。こんな気持ちが良いのはあまりない。 ・クルーズなのに男2人で寂しい。 ・ゆっくりというのがいい。家でのゆっくりとは違う。家では何かしないといけないと思ってしまう。

日時	7月16日 17時00分
場所	11F サンデッキ
タイトル	くつろぐ40代女性二人
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったり、ぼんやりできて最高。 ・船ならではの景色が見られる。瀬戸内海や島がきれい。 ・ステートルームCしか予約できなかったが、せっかく参加するならゴージャスにしたかった。 ・エクササイズルームで自転車こいで、ビール飲んで、よい時間を過ごしている。 ・思っていたほど揺れなくて、気にならない。

日時	7月16日 18時00分～18時20分
場所	ポートデッキ(8F)
タイトル	マラソン
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・1人の若い男性がポートデッキを走っている。(1周336m、3周1km) ・目標は9周、3kmで、今日天気が良かったため、日がかげってからスタートしたとのこと。 ・船上には爽やかな風が吹いており、運動をするにはうってつけのコンディションである。 ・日頃の運動不足を船内においても解消できると張り切っておられた。

日時	7月17日 6時00分
場所	8Fポートデッキ
タイトル	散歩中の60代男性
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う雰囲気が良い。 ・5時頃から起きていた。 ・割と沢山の人がいる。 ・篠田氏の講演が印象的であった。

日時	7月17日 6時00分
場所	8F ポートデッキ
タイトル	散歩中の夫婦
画像	 
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・フレンドリーな雰囲気。 ・歩きながら風景を撮影している。 ・一夜明けて船旅に馴染んできた気がする。

日時	7月17日 6時00分
場所	8F ポートデッキ
タイトル	朝日を眺める 50代夫婦など
画像	 
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・5時前に起床して海と朝日を眺めながら散歩している。寝るのは普段通り11時だったが、寝付きが良く起きる時間はいつもより1時間ほど早い。 ・クルーズは初めて。とても良い。 ・ご主人は岡山生まれ、奥さまは淡路島出身のため、篠田氏の講演に共鳴を受けた。一貫性にさすがと感じた。 ・船首には写真を撮る人や朝日を眺める人が20名ほどいた。

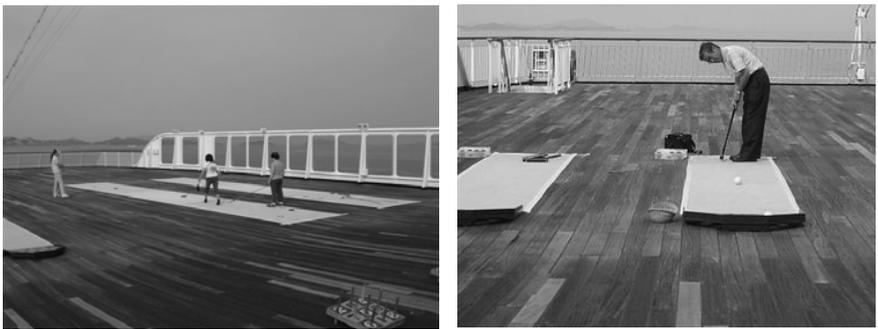
日時	7月17日 6時30分
場所	スポーツデッキ
タイトル	ラジオ体操
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、女性約30名が、ストレッチ&ラジオ体操に参加。 ・参加者の内、50歳くらいの女性は今回同友会の募集を見て申し込みを行った。 ・クルーズは今回で2回目、前は名古屋へのクリスマスディナークルーズに参加。 ・今回は3名での参加で、参加者同士の交流が楽しみとのこと。

日時	7月17日 6時30分
場所	11F サンデッキ
タイトル	家族(母)と参加・男性 など
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のガサガサした生活からすると、あまりにもゆったりした時間で申し訳ないような気持ちになる。今回は母の付き添いで参加している。母は背骨を痛めてキャンセルすることも考えたが、本人の希望で断行した。現在、とても調子よく旅をしている。長期クルーズ(60日間など)になったら仕事させてと言ってしまうそう。 ・体操をしている30代と思しき女性。いつも体操を心掛けているが、早朝の海を眺めながらの体操は心地よい。久しぶりにゆったりした時間を過ごせている。

日時	7月17日 6時40分
場所	スポーツデッキ
タイトル	散歩者
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢60歳過ぎくらいの男性。 ・1時間半程度歩いている。毎日散歩をしているので、習慣としている。 ・クルーズは国内のものは何度か来ている。 ・瀬戸内コースは景色も良く、良いコースだと思っているが、この船はいずれにしても大きい。9,000t位のものが良いと思う。以前、日本に2隻の程あったが、外国へ売却したと聞いており、各港に接岸できる大きさの船があるといいのだが。

(2) 状況

日時	7月16日 15時40分
場所	スポーツデッキ
タイトル	軽運動
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳過ぎと思われる夫婦 ・クルーズは初めての参加とのこと。 ・同コーナー専属のスタッフによる輪投げ、ゲートボールの遊び方の説明、手伝い等「おもてなし」の雰囲気が感じ取れた。 ・ご主人はゲートボール、奥さまは輪投げから始まり、後に2人でゲートボールを競っている様子。 ・和気あいあいの雰囲気の中、リラックスモードが十分感じ取れた。

日時	7月16日 16時00分
場所	10F スポーツデッキ
タイトル	スポーツをする参加者
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・シャッフルボール、スカットボール、輪投げ、ユニカール、ペタンク ・アクティブな人が参加。チーム戦ものが多いので、ゲームをする中で交流して仲良くなることもある。 ・短いクルーズだと、船でゆっくり過ごしたい人が多い。

日時	7月16日 17時00分
場所	サンデッキ、ポートデッキ
タイトル	瀬戸大橋通過
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・サンデッキ、ポートデッキで多くの方が島々、橋を眺めている。 ・ゆったりとした雰囲気の中でリラックスしている。

日時	7月17日 6時00分
場所	スポーツデッキ
タイトル	早朝の散歩
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩している方々、男性20名、女性20名程度。 ・マラソンをしている方、男性1名。 ・景色を眺めている方々、男性6名、女性2名。 ・年齢的には平均60歳以上に見えた。

日時	7月17日 6時40分
場所	スポーツデッキ
タイトル	スタッフの対応
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・今回クルーズでは6人のスタッフが乗船。 ・早朝、散歩している方々と行動を共にし、景色（島々）の説明、写真撮影の手伝いをするなど、乗船者の方々の要望へのサポートを行っている。

3.ユニバーサルツーリズムの観点：バリアフリーに関するインタビュー内容・状況
 (1)インタビュー

日時	7月16日 16時00分
場所	7F カフェサロン
タイトル	杖をついた80代女性
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・以前はバスなどでよく旅行していたが、脊髄が曲がる病気以降は歩行も困難で、旅行をあきらめていた。 ・義娘がクルーズ旅行を見つけてくれて勧めてくれた。 ・以後、毎年2回程度はクルーズの旅をしている。 ・クルーズは本当に楽しい。障害も気にならず旅が楽しめる。(船内の移動は問題なし) 食事が美味しくて美味しくて。 ・最長10日間程度だが、价格的にも時間的にも2泊3日の今回のような旅が手頃である。 ・唯一不安に思うのはトイレ。前回の九州は揺れが大きく怖い思いをした。 ・客室のトイレは狭くて使いにくい。食堂前のトイレは使いやすかったが、夜中にそこまで行くのは少々無理。 ・トイレに安心感があるととってもいいのに。是非改善を。

日時	7月17日 13時30分
場所	7F カフェサロン
タイトル	車椅子の夫婦
画像	
概要・コメント	<p><女性・車椅子・79歳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズは静かがいい。乗るのは飛鳥 に続いて今回が2回目。 ・瀬戸内海がきれい。曇っているのが少し残念。 ・移動が不自由で写真を撮る思うように撮れないのが残念。 ・車椅子での船の中の移動は問題ない。 <p><男性・80歳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばしふいっくびいなすに乗るのは2回。飛鳥 、日本丸にも乗ったことがある。 ・クルーズは移動が楽。車椅子の妻を連れて歩くので、荷物を移動させる必要が無いのはとてもよい。 ・こんなにゆっくり過ごすのは初めて。体調もとてもよい。クルーズの魅力がよくわかった。 ・クルーズでウラジオストックも行ってみたい。 ・年齢・体力から2~3泊の短い旅行がちょうどよい。

日時	7月17日 16時20分
場所	7F メインラウンジ
タイトル	車椅子の女性
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の女性、介助は娘が担当か。 ・他の船は通路が狭いが、パシフィックは広くて良いのでよく利用する。 ・イベント、教室が少ない。 短期間だから無理もない。 ・フィリピンのボーイが不慣れ。 ・ワイン教室、タガログ語教室、等々 ・神戸発のクルーズはよく利用。南西諸島など。

(2) 状況

日時	7月16日 14時00分
場所	メインホール
タイトル	バリアフリーの状況
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・会場は400席のゆったり大ホール。 ・高齢の車椅子利用者が最右列に着席している娘の右側に位置し、オリエンテーションに参加していた。 ・ホールへの通路もフラットで、ホールに至る通路に障害はない模様であった。

4. その他：クルーズに参加した感想、参加者の様子など

(1) インタビュー

日時	7月17日 13時10分
場所	8F ポートデッキ
タイトル	散歩中の夫婦（クルーズ経験豊富）
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生ガイドに連れられて平山郁夫美術館、耕三寺に行った。 ・クルーズは国内航路ばかりで、正確には何回か忘れたが5回以上乗っている。十和田丸、オセアニックグレイス、ジャパニーズドリームにも乗った。 ・船に乗っているのが好き。昔と違って等級も関係ない。飛行機や電車は椅子が狭いが、船は自由面積広い。

日時	7月17日 13時30分
場所	11F サンデッキ
タイトル	少し退屈そうな夫婦
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・午後から少し退屈である。何をしたらいいかわからない。 ・お風呂は昼からいっぱいである気がしなかった。 ・食事以外では手持ちぶさたになる時もある。 ・食事は想像以上に美味しい。スタッフのサービスもよく、船内はきれい。 ・瀬戸内海の眺めが素晴らしい。気持ちいい。波も穏やかで過ごしやすい。10年前にフェリーに乗ったら台風で大変だった。 ・クルーズでの旅に自分たちが慣れていない。旅行は夫婦や家族と行くばかりで、今回のように集団行動することがなかった。

日時	7月17日 17時10分
場所	8Fポートデッキ
タイトル	瀬戸田から乗船した50代夫婦
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・高松に住んでいて、広島への旅行の帰りに瀬戸田から乗船した。高松で下船する。 ・クルーズ客船に乗るのは5~7年前に同じぱしふいっくびいなすに乗って以来。日頃の生活感が抜ける感じ。 ・夏の船旅では、夕方の涼しくなった今の時間がいちばん。 ・瀬戸大橋と内海自体を楽しむということを初めて知った。 ・1週間のクルーズはイメージがつかない。2~3泊なら参加してもいいかもしれない。

日時	7月18日 14時30分
場所	8Fポートデッキ
タイトル	高松出港後・祖母と孫
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・最高の気分。幸せを感じた。 ・ぱしふいっくびいなすに乗るのは今回が5回目。以前はカムチャッカ、利尻、礼文、小笠原に行った。 ・孫の妻と祖母の二人で参加している。 ・高松では早起きして小豆島のオブショナルツアーに参加した。小豆島でもう少し時間があればもっと楽しめた気がして残念。 ・3日間ゆっくりすることができた。よい船旅だったと思う。

(2) 状況

日時	7月16日 16時00分
場所	カジノコーナー
タイトル	ゲームの様子
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none">・3名の70歳位の女性がルーレットの席に着いた。・女性クルーがルールについて懇切丁寧に説明すると共にディーラー役を務めていた。・3名の方々はルールを完全に飲み込めないまま、銘々チップを目標に位置に置き、ゲームを楽しんでいるように見えた。・会話の中では色々なコーナーを順に回っていくという雰囲気であった。

日時	7月16日 16時00分
場所	メインホール
タイトル	講座・篠田氏
画像	
概要・コメント	<ul style="list-style-type: none">・100人以上が参加。・瀬戸内海の話し、映画の話し、ロケ地や撮影のいきさつなど。瀬戸内海をより身近に感じるように。

第 章 せとうち・感動体験クルーズ参加者アンケート調査結果

(1) 実施概要

実施期間

7月16～18日(下船時回収)

対象

せとうち感動体験クルーズ参加者

回収数

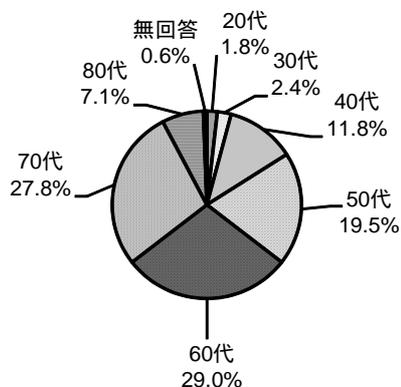
169(全体の約40%)

回答者属性

<年齢>

・60代、70代が多く、全体の56.8%を占めている。

(N=169)		
20代	3	1.8%
30代	4	2.4%
40代	20	11.8%
50代	33	19.5%
60代	49	29.0%
70代	47	27.8%
80代	12	7.1%
無回答	1	0.6%
計	169	100.0%

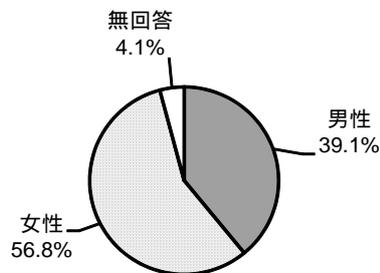


20代、30代は合計した「20・30代」としてクロス分析を実施

<性別>

・女性が比較的多く全体の56.8%を占めている。

(N=169)		
男性	66	39.1%
女性	96	56.8%
無回答	7	4.1%
計	169	100.0%

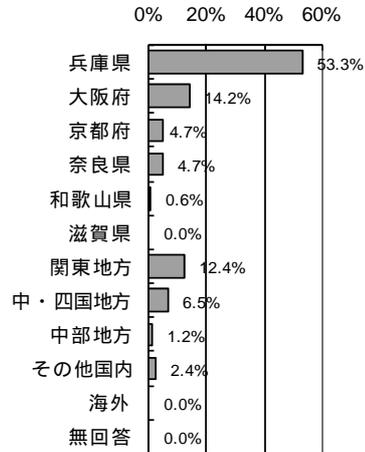


<居住地>

- ・兵庫県が最も多く全体の53.5%を占めている。
- ・大阪府・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県を合計した「その他関西地方」が次いで多く全体の24.3%を占めている。

(N=169)

兵庫県	90	53.3%
大阪府	24	14.2%
京都府	8	4.7%
奈良県	8	4.7%
和歌山県	1	0.6%
滋賀県	0	0.0%
関東地方	21	12.4%
中・四国地方	11	6.5%
中部地方	2	1.2%
その他国内	4	2.4%
海外	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	169	100.0%



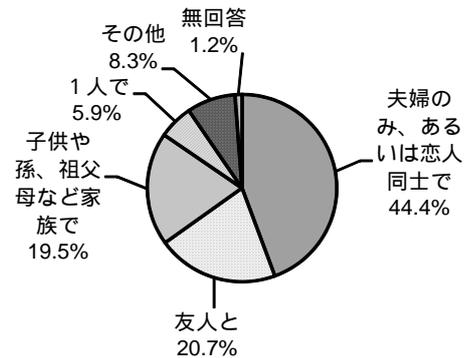
大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県は合計した「その他関西地方」としてクロス分析を実施
中部地方・その他国内は合計した「その他国内」としてクロス分析を実施

<同行者>

- ・「夫婦のみ、あるいは恋人同士」が最も多く全体の44.4%を占めている。

(N=169)

夫婦のみ、あるいは恋人同士で	75	44.4%
友人と	35	20.7%
子供や孫、祖父母など家族で	33	19.5%
1人で	10	5.9%
その他	14	8.3%
無回答	2	1.2%
計	169	100.0%

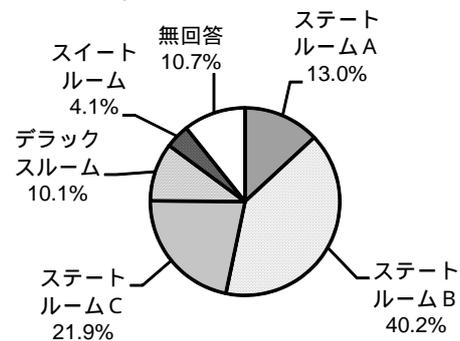


<利用船室タイプ>

- ・ステートルームBが最も多く全体の40.2%を占めている。

(N=169)

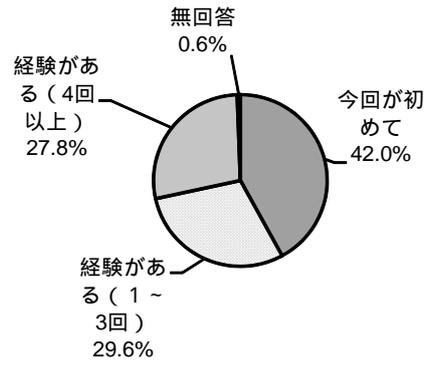
ステートルームA	22	13.0%
ステートルームB	68	40.2%
ステートルームC	37	21.9%
デラックスルーム	17	10.1%
スイートルーム	7	4.1%
ロイヤルスイートルーム	0	0.0%
無回答	18	10.7%
計	169	100.0%



<クルーズ旅行の利用経験>

・「今回が初めて」が最も多く全体の42.0%を占めている。

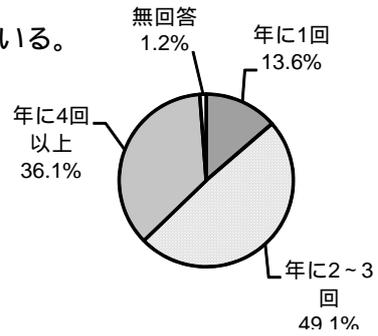
(N=169)		
今回が初めて	71	42.0%
経験がある(1~3回)	50	29.6%
経験がある(4回以上)	47	27.8%
無回答	1	0.6%
計	169	100.0%



<クルーズ旅行の利用経験>

・「年に2~3回」が最も多く全体の49.1%を占めている。

(N=169)		
年に1回	23	13.6%
年に2~3回	83	49.1%
年に4回以上	61	36.1%
無回答	2	1.2%
計	169	100.0%



2. アンケート調査結果

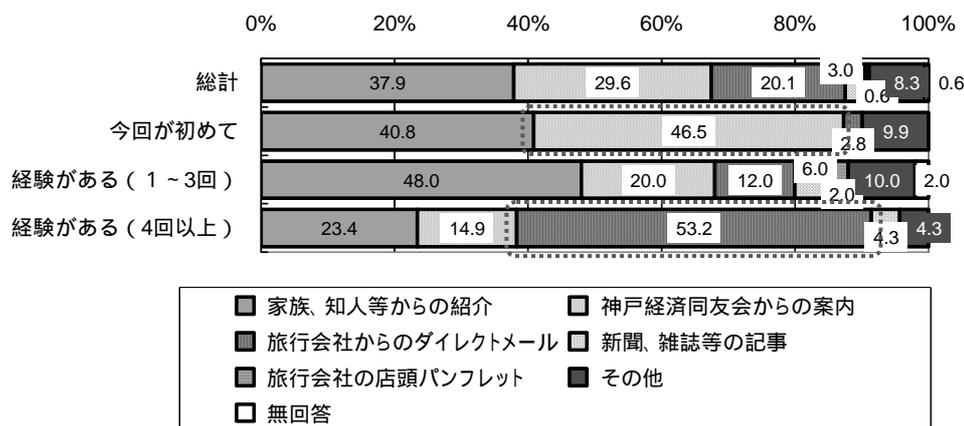
(1) 「せとうち・感動体験クルーズ」に参加するまで

問1. 今回のクルーズを何で知ったか

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・「今回が初めて」「経験がある(1~3回)」と、利用経験が少ないほど同友会からの案内が多く、利用経験が多いほど旅行会社のDMが多い。

	家族、知人等からの紹介	神戸経済同友会からの案内	旅行会社からのダイレクトメール	新聞、雑誌等の記事	旅行会社の店頭パンフレット	その他	無回答	合計
総計 N=169	64 37.9%	50 29.6%	34 20.1%	5 3.0%	1 0.6%	14 8.3%	1 0.6%	169 100.0%
今回が初めて N=71	29 40.8%	33 46.5%	2 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	7 9.9%	0 0.0%	71 100.0%
経験がある(1~3回) N=50	24 48.0%	10 20.0%	6 12.0%	3 6.0%	1 2.0%	5 10.0%	1 2.0%	50 100.0%
経験がある(4回以上) N=47	11 23.4%	7 14.9%	25 53.2%	2 4.3%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



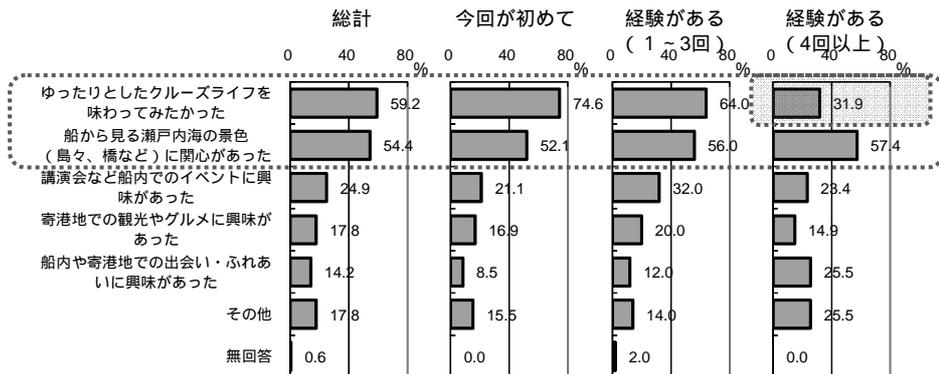
せとうち・感動体験クルーズは神戸経済同友会による関係者への告知が集客に大きく貢献しており、特にクルーズ未経験の層に裾野を広げることにつながったと考えられる。

問2. 今回参加した動機

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・「船から見る瀬戸内海の景色」は全体に多い。
- ・「ゆったりとしたクルーズライフ」は利用経験が少ない人に多く、利用経験が多いほど少ない。

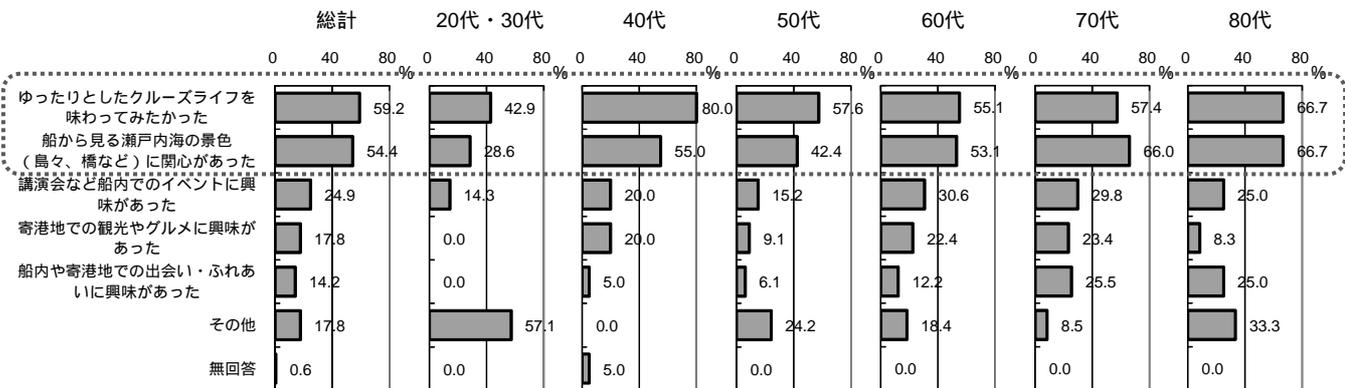
	ゆったりとしたクルーズライフを味わってみたかった	船から見る瀬戸内海の景色(島々、橋など)に関心があった	講演会など船内でのイベントに興味があった	寄港地での観光やグルメに興味があった	船内や寄港地での出会い・ふれあいに興味があった	その他	無回答	合計
総計 N=169	100 59.2%	92 54.4%	42 24.9%	30 17.8%	24 14.2%	30 17.8%	1 0.6%	319
今回が初めて N=71	53 74.6%	37 52.1%	15 21.1%	12 16.9%	6 8.5%	11 15.5%	0 0.0%	134
経験がある(1~3回) N=50	32 64.0%	28 56.0%	16 32.0%	10 20.0%	6 12.0%	7 14.0%	1 2.0%	100
経験がある(4回以上) N=47	15 31.9%	27 57.4%	11 23.4%	7 14.9%	12 25.5%	12 25.5%	0 0.0%	84
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1



< 年齢別 >

- ・「ゆったりとしたクルーズライフ」は全体に多いが、40代に特に多い。
- ・「船から見る瀬戸内海の景色」は年代に偏りなく多い。

	ゆったりとしたクルーズライフを味わってみたかった	船から見る瀬戸内海の景色（島々、橋など）に関心があった	講演会など船内でのイベントに興味があった	寄港地での観光やグルメに興味があった	船内や寄港地での出会い・ふれあいに興味があった	その他	無回答	合計
総計 N=169	100 59.2%	92 54.4%	42 24.9%	30 17.8%	24 14.2%	30 17.8%	1 0.6%	319
20代・30代 N=7	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 57.1%	0 0.0%	10
40代 N=20	16 80.0%	11 55.0%	4 20.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	37
50代 N=33	19 57.6%	14 42.4%	5 15.2%	3 9.1%	2 6.1%	8 24.2%	0 0.0%	51
60代 N=49	27 55.1%	26 53.1%	15 30.6%	11 22.4%	6 12.2%	9 18.4%	0 0.0%	94
70代 N=47	27 57.4%	31 66.0%	14 29.8%	11 23.4%	12 25.5%	4 8.5%	0 0.0%	99
80代 N=12	8 66.7%	8 66.7%	3 25.0%	1 8.3%	3 25.0%	4 33.3%	0 0.0%	27
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1



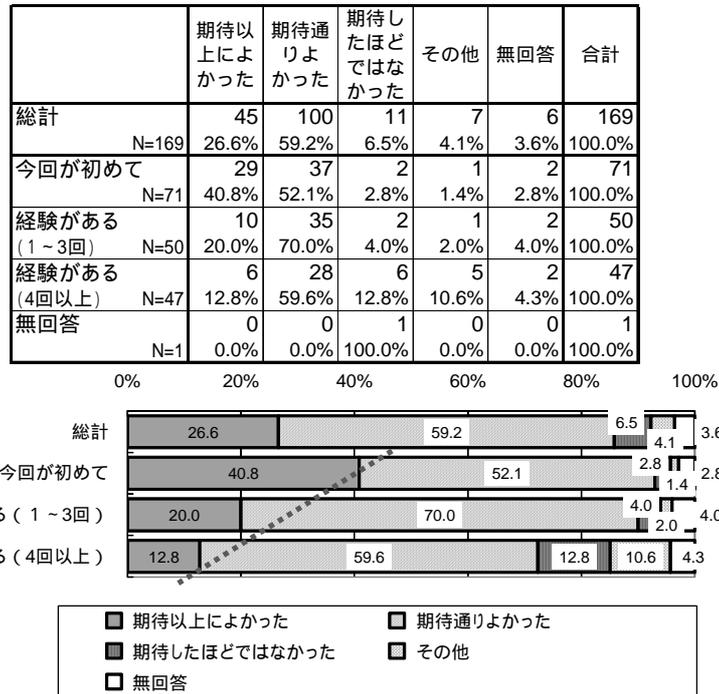
利用経験の多少に関わらず、「船から見る瀬戸内海の景色」は多くの消費者に訴求しうる瀬戸内海クルーズの魅力である。
 加えてクルーズの利用経験の少ない層、および40歳代を中心とした幅広い年齢層に対しては「ゆったりとしたクルーズライフ」というイメージを訴求できる。

(2) 今回のクルーズの全体としての感想

問3. 今回のクルーズ全体の概要

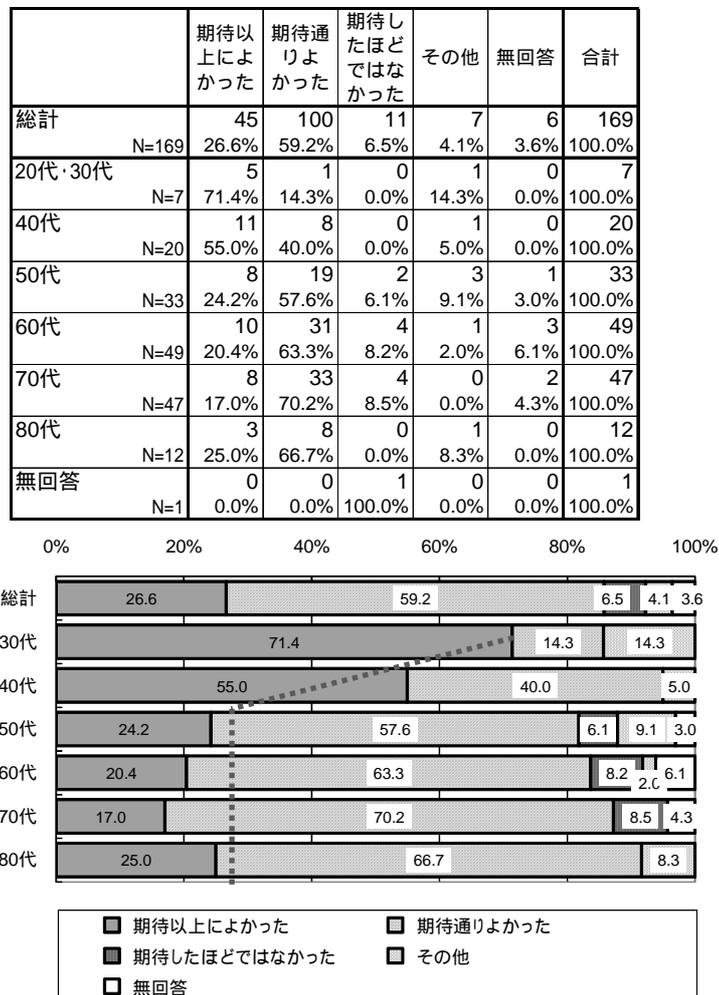
<クルーズ旅行の利用経験別>

・利用経験が少ないほど「期待以上によかった」という評価が多い。



<年齢別>

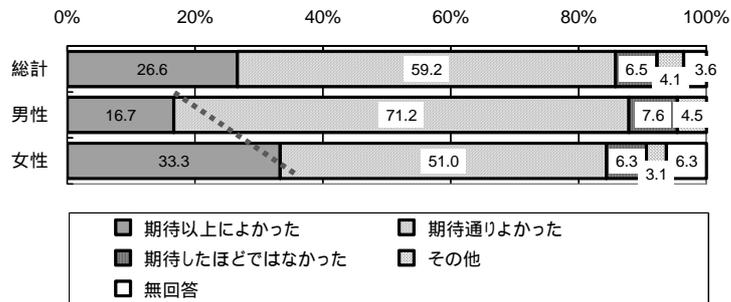
・若年層ほど「期待以上によかった」という評価が多い。



< 性別 >

・女性の「期待以上によかった」という評価が、男性の倍程度多い。

	期待以上によかった	期待通りよかった	期待したほどではなかった	その他	無回答	合計
総計 N=169	45 26.6%	100 59.2%	11 6.5%	7 4.1%	6 3.6%	169 100.0%
男性 N=66	11 16.7%	47 71.2%	5 7.6%	3 4.5%	0 0.0%	66 100.0%
女性 N=96	32 33.3%	49 51.0%	6 6.3%	3 3.1%	6 6.3%	96 100.0%
無回答 N=7	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%



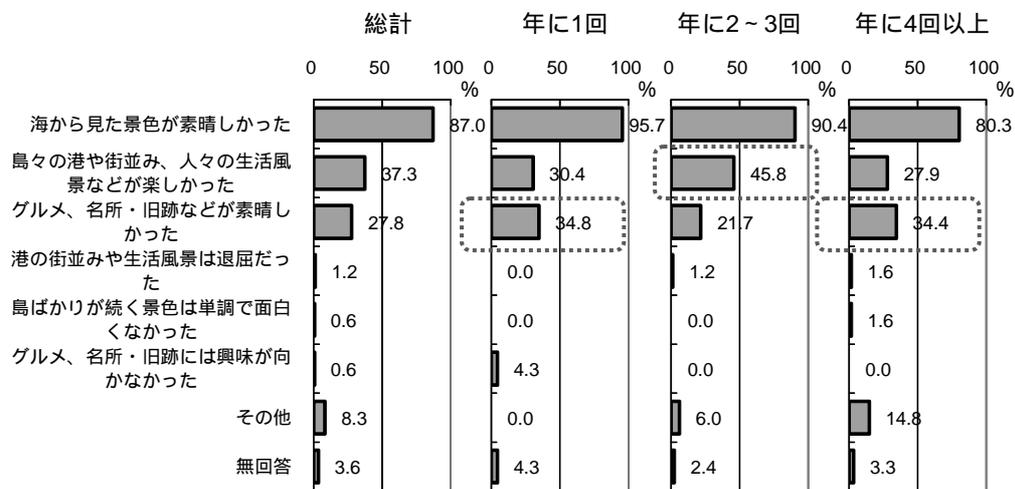
クルーズ全体の評価は「利用経験が少ない」のほか「40歳代以下」「女性」層において、それ以外の層と比較して評価が高い。これらの層は、瀬戸内海クルーズが裾野を広げて展開する場合に重要な顧客層であると考えられる。

問4.「瀬戸内海」の感想（複数回答）

< 宿泊旅行の頻度別 >

- ・全体に、海からみた景色が最も印象に残っている。
- ・年に2～3回程度旅行する層では、街並みや生活風景への印象が他に比べて多い。
- ・年に1回、および年に4回以上旅行する層では、グルメ・名所・旧跡への印象が他に比べて多い。

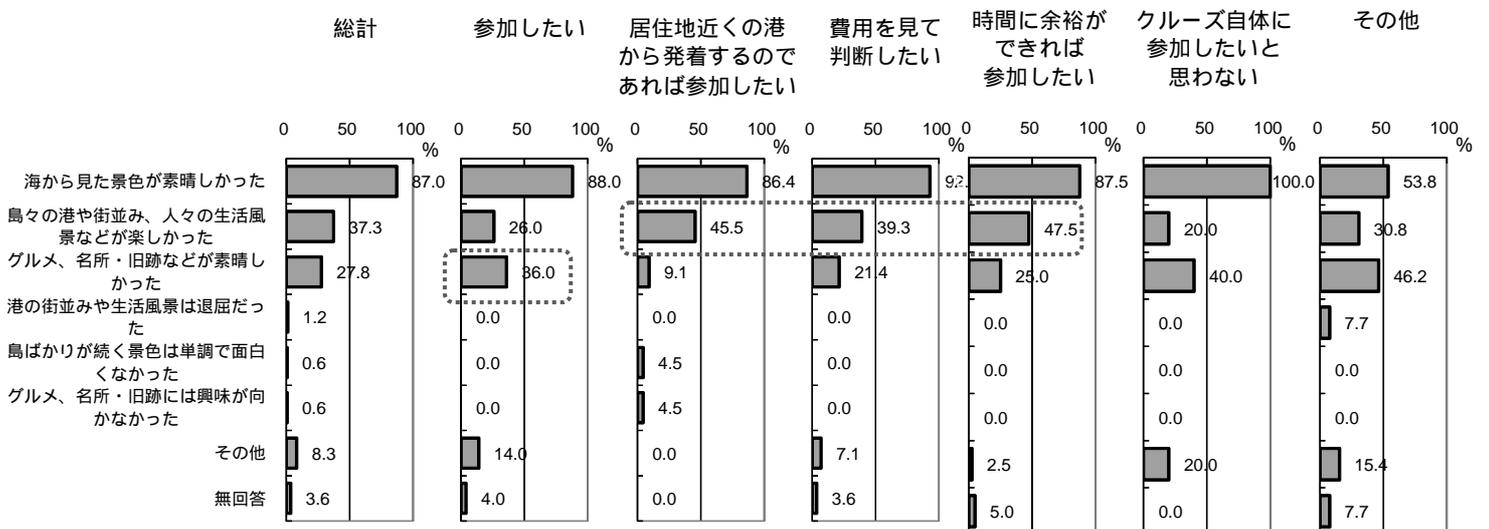
	海から見た景色が素晴しかった	島々の港や街並み、人々の生活風景などが楽しかった	グルメ、名所・旧跡などが素晴しかった	港の街並みや生活風景は退屈だった	島ばかりが続く景色は単調で面白くなかった	グルメ、名所・旧跡には興味が向かなかった	その他	無回答	合計
総計 N=169	147 87.0%	63 37.3%	47 27.8%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%	14 8.3%	6 3.6%	281
年に1回 N=23	22 95.7%	7 30.4%	8 34.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	1 4.3%	39
年に2～3回 N=83	75 90.4%	38 45.8%	18 21.7%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	5 6.0%	2 2.4%	139
年に4回以上 N=61	49 80.3%	17 27.9%	21 34.4%	1 1.6%	1 1.6%	0 0.0%	9 14.8%	2 3.3%	100
無回答 N=2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	3



<今後の“せとうちクルーズ”への参加希望別>

- ・「参加したい」では「グルメ・名所・旧跡」への評価が高い。
- ・「居住地近くから発着なら」「費用を見て」「時間に余裕ができれば」など条件付きでの参加希望の場合、「街並み」「生活風景」への評価が比較的高い。

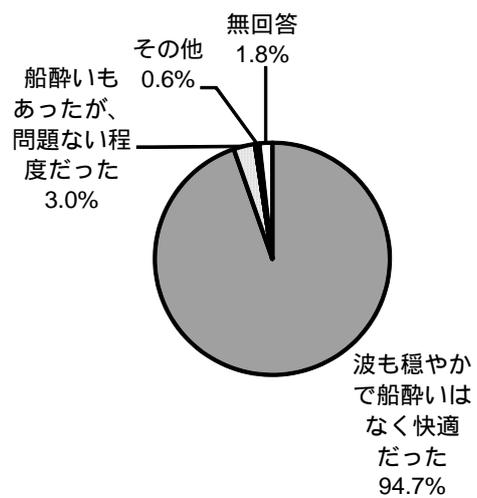
	海から見た景色が素晴しかった	島々の港や街並み、人々の生活風景などが楽しかった	グルメ、名所・旧跡などが素晴しかった	港の街並みや生活風景は退屈だった	島ばかりが続く景色は単調で面白くなかった	グルメ、名所・旧跡には興味が向かなかった	その他	無回答	合計
総計 N=169	147 87.0%	63 37.3%	47 27.8%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%	14 8.3%	6 3.6%	281
参加したい N=50	44 88.0%	13 26.0%	18 36.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 14.0%	2 4.0%	84
居住地近くの港から発着するのであれば参加したい N=22	19 86.4%	10 45.5%	2 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	33
費用を見て判断したい N=28	26 92.9%	11 39.3%	6 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	1 3.6%	46
時間に余裕ができれば参加したい N=40	35 87.5%	19 47.5%	10 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	2 5.0%	67
クルーズ自体に参加したいと思わない N=5	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	9
その他 N=13	7 53.8%	4 30.8%	6 46.2%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	21
無回答 N=11	11 100.0%	5 45.5%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	21



「年4回以上旅行」「今後もせとうちクルーズに参加したい」という層では「グルメ、名所・旧跡」への印象が、「街並み・生活風景」より多い。これらの層は今後せとうちクルーズの裾野を広げる際に重要な層であり、寄港地の選定やオプションツアーにはこのような意向を汲んで検討する必要があると考えられる。

問5 .「船酔い」について

- ・ほとんどの参加者が船酔いはなかったと答えている。



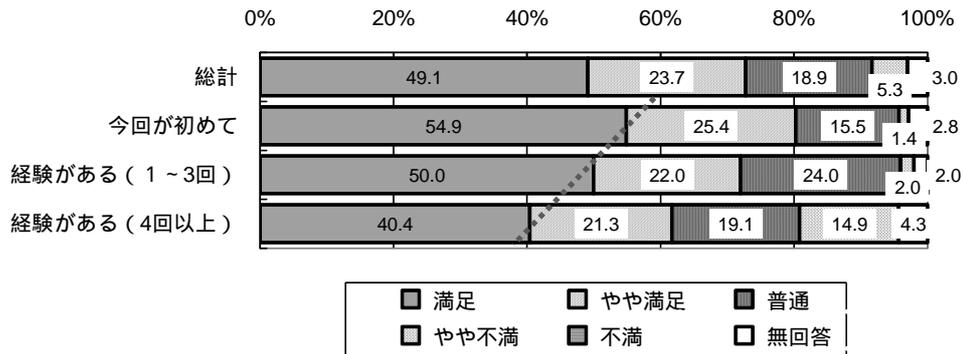
体験クルーズ実施期間は天候が安定しており、大きな波はなく船が揺れることは殆どなかった。全般的に瀬戸内海は内海であり穏やかな天候の日が多いため、船酔いの心配がある人にとってもクルーズが十分に楽しめる可能性が高いことを表している。

問6 - 1 . 評価 / 日程・コースについて

< クルーズ旅行の利用経験別 >

・利用経験が少ないほど「満足」という評価が多い。

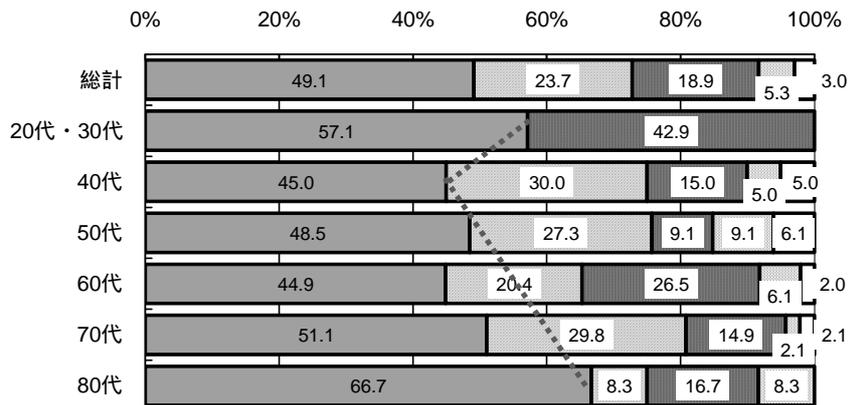
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	83 49.1%	40 23.7%	32 18.9%	9 5.3%	0 0.0%	5 3.0%	169 100.0%
今回が初めて N=71	39 54.9%	18 25.4%	11 15.5%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.8%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	25 50.0%	11 22.0%	12 24.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	19 40.4%	10 21.3%	9 19.1%	7 14.9%	0 0.0%	2 4.3%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< 年齢別 >

・20代・30代を除くと年齢が高いほど「満足」という評価が多い。

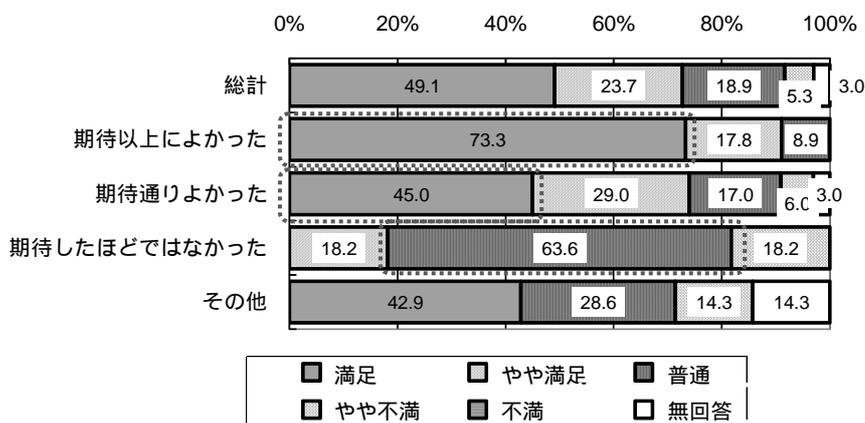
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	83 49.1%	40 23.7%	32 18.9%	9 5.3%	0 0.0%	5 3.0%	169 100.0%
20代・30代 N=7	4 57.1%	0 0.0%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	9 45.0%	6 30.0%	3 15.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 100.0%
50代 N=33	16 48.5%	9 27.3%	3 9.1%	3 9.1%	0 0.0%	2 6.1%	33 100.0%
60代 N=49	22 44.9%	10 20.4%	13 26.5%	3 6.1%	0 0.0%	1 2.0%	49 100.0%
70代 N=47	24 51.1%	14 29.8%	7 14.9%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	8 66.7%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



<クルーズ全体の感想別>

- ・「満足」という回答は「期待以上によかった」「期待通りよかった」の順に多く、「期待したほどではなかった」で回答されていない。
- ・「期待したほどではなかった」では「普通」という回答が多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	83 49.1%	40 23.7%	32 18.9%	9 5.3%	0 0.0%	5 3.0%	169 100.0%
期待以上によかった N=45	33 73.3%	8 17.8%	4 8.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	45 100.0%
期待通りよかった N=100	45 45.0%	29 29.0%	17 17.0%	6 6.0%	0 0.0%	3 3.0%	100 100.0%
期待したほどではなかった N=11	0 0.0%	2 18.2%	7 63.6%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
その他 N=7	3 42.9%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	7 100.0%
無回答 N=6	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%



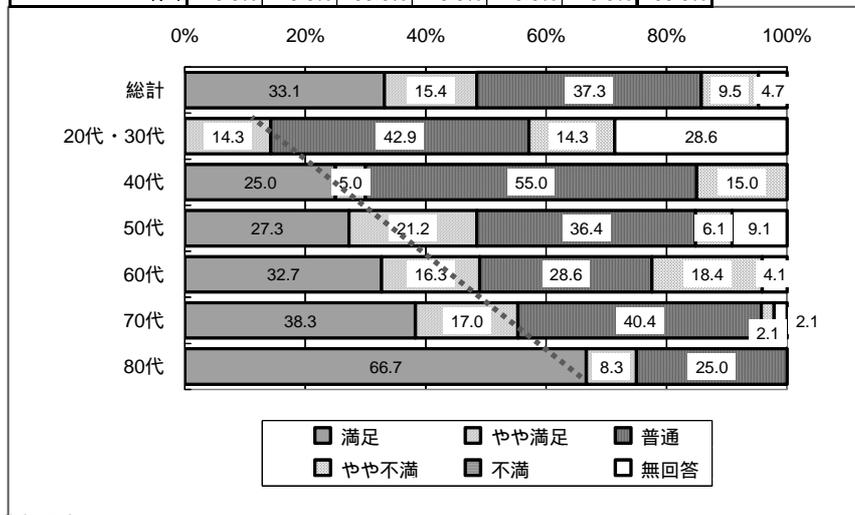
利用経験が少ないほど満足度が高いと言える。他には年齢層が高いほど満足度が高い。このことから、クルーズ人口の裾野を広げるためには、クルーズ未経験のシニア層以上を顧客層として獲得するべく、各営業クルーズで1組程度は体験クルーズを募る取り組みなどを通じて、クルーズの魅力を具体的に体感してもらうなどの取り組みが重要であるといえる。

問6 - 2 . 評価 / 価格について

< 年齢別 >

・年齢が高いほど「満足」という評価が多い。

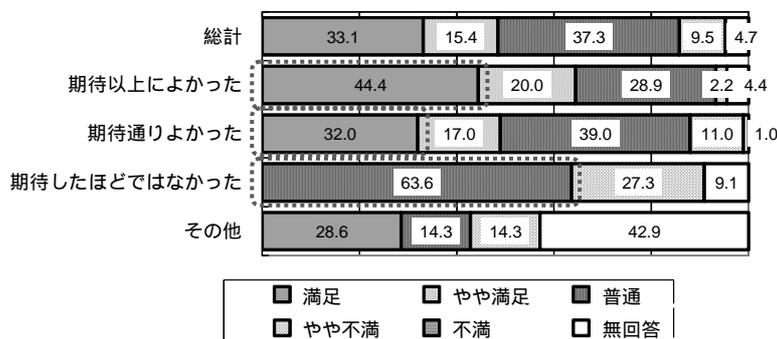
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	56 33.1%	26 15.4%	63 37.3%	16 9.5%	0 0.0%	8 4.7%	169 100.0%
20代・30代 N=7	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	7 100.0%
40代 N=20	5 25.0%	1 5.0%	11 55.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	9 27.3%	7 21.2%	12 36.4%	2 6.1%	0 0.0%	3 9.1%	33 100.0%
60代 N=49	16 32.7%	8 16.3%	14 28.6%	9 18.4%	0 0.0%	2 4.1%	49 100.0%
70代 N=47	18 38.3%	8 17.0%	19 40.4%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	8 66.7%	1 8.3%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< クルーズ全体の感想別 >

- ・「満足」という回答は「期待以上によかった」「期待通りよかった」の順に多く、「期待したほどではなかった」では回答されていない。
- ・「期待したほどではなかった」では「普通」という回答が多い。

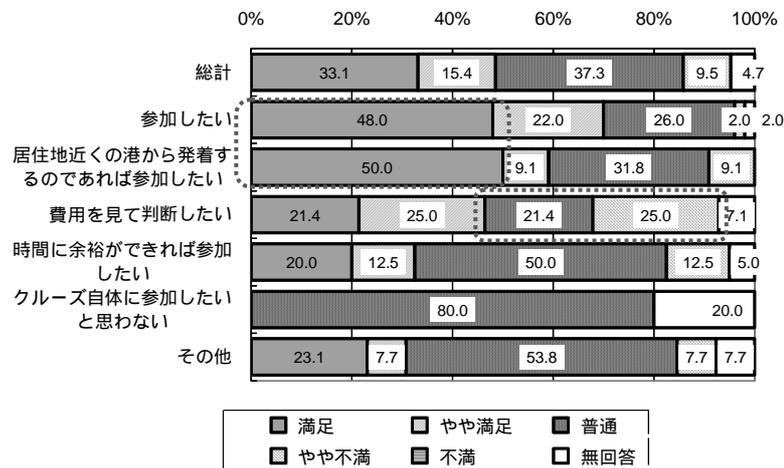
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	56 33.1%	26 15.4%	63 37.3%	16 9.5%	0 0.0%	8 4.7%	169 100.0%
期待以上によかった N=45	20 44.4%	9 20.0%	13 28.9%	1 2.2%	0 0.0%	2 4.4%	45 100.0%
期待通りよかった N=100	32 32.0%	17 17.0%	39 39.0%	11 11.0%	0 0.0%	1 1.0%	100 100.0%
期待したほどではなかった N=11	0 0.0%	0 0.0%	7 63.6%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	11 100.0%
その他 N=7	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	3 42.9%	7 100.0%
無回答 N=6	2 33.3%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%



<今後の“せとうちクルーズ”への参加希望別>

- ・「満足」という回答は「参加したい」「居住地近くの港から発着なら参加したい」に多い。
- ・「費用を見て判断したい」では「普通」「やや不満」が多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	56 33.1%	26 15.4%	63 37.3%	16 9.5%	0 0.0%	8 4.7%	169 100.0%
参加したい N=50	24 48.0%	11 22.0%	13 26.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	50 100.0%
居住地近くの港から発着するのであれば参加したい N=22	11 50.0%	2 9.1%	7 31.8%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%
費用を見て判断したい N=28	6 21.4%	7 25.0%	6 21.4%	7 25.0%	0 0.0%	2 7.1%	28 100.0%
時間に余裕ができれば参加したい N=40	8 20.0%	5 12.5%	20 50.0%	5 12.5%	0 0.0%	2 5.0%	40 100.0%
クルーズ自体に参加したいと思わない N=5	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
その他 N=13	3 23.1%	1 7.7%	7 53.8%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	13 100.0%
無回答 N=11	4 36.4%	0 0.0%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	11 100.0%



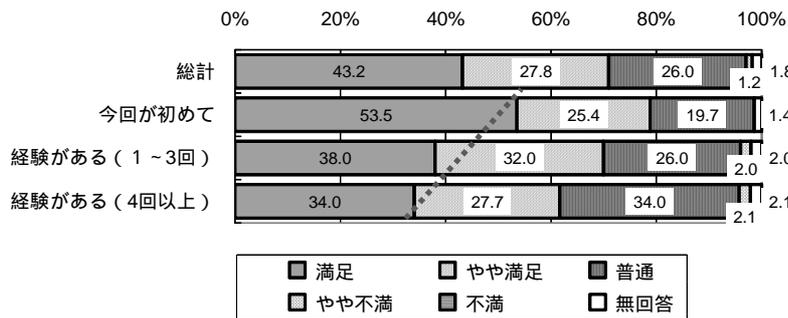
年齢層が高いほど、今回の体験クルーズの価格を妥当と考える割合が多い。若い層においても割高感はあるとはいえないが、クルーズへの参加を促すためには、若年層向けのより手ごろな価格の商品開発も考慮する必要があると考えられる。

問6 - 3 . 評価 / 神戸・寄港地での歓送迎について

<クルーズ旅行の利用経験別>

・利用経験が少ないほど「満足」という評価が多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	73 43.2%	47 27.8%	44 26.0%	2 1.2%	0 0.0%	3 1.8%	169 100.0%
今回が初めて N=71	38 53.5%	18 25.4%	14 19.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	19 38.0%	16 32.0%	13 26.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	16 34.0%	13 27.7%	16 34.0%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%

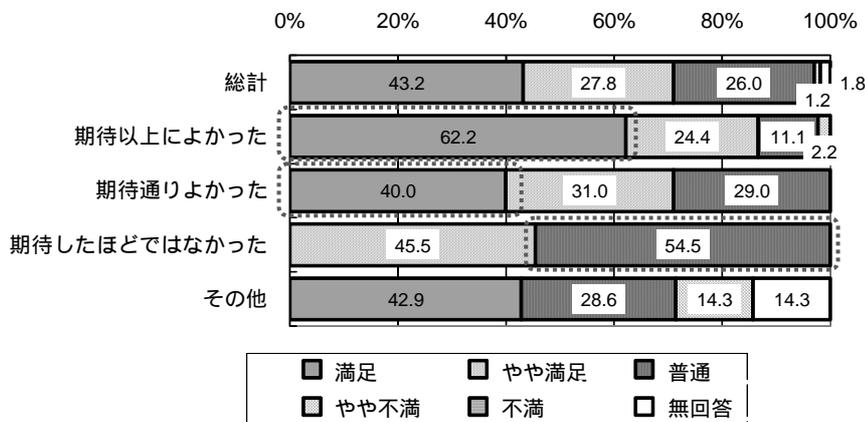


<クルーズ全体の感想別>

・「満足」という回答は「期待以上によかった」「期待通りよかった」の順に多く、「期待したほどではなかった」で回答されていない。

・「期待したほどではなかった」では「普通」という回答が多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	73 43.2%	47 27.8%	44 26.0%	2 1.2%	0 0.0%	3 1.8%	169 100.0%
期待以上によかった N=45	28 62.2%	11 24.4%	5 11.1%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	45 100.0%
期待通りよかった N=100	40 40.0%	31 31.0%	29 29.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
期待したほどではなかった N=11	0 0.0%	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
その他 N=7	3 42.9%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	7 100.0%
無回答 N=6	2 33.3%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	6 100.0%



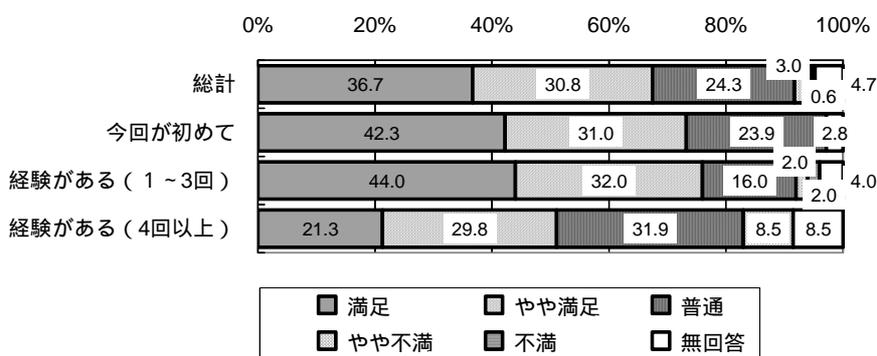
寄港地での歓送迎は、クルーズ利用経験が少ないほど満足度が高い。この層は今後せとうちクルーズの裾野を広げる際に重要な層であり、今後も重要な取り組みであることを示していると考えられる。

問6 - 4 . 評価 / 講演会などの船内イベント

<クルーズ旅行の利用経験別>

・「満足」という回答は、「今回が初めて」「経験がある(1~3回)」と、利用経験が比較的少ない層で多く、「経験がある(4回以上)」の層では「満足」は少ない。

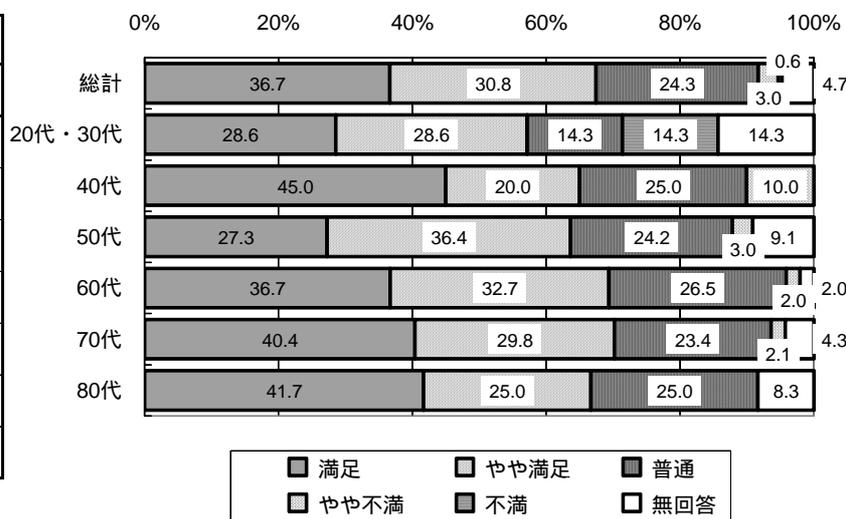
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	62 36.7%	52 30.8%	41 24.3%	5 3.0%	1 0.6%	8 4.7%	169 100.0%
今回が初めて N=71	30 42.3%	22 31.0%	17 23.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	22 44.0%	16 32.0%	8 16.0%	1 2.0%	1 2.0%	2 4.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	10 21.3%	14 29.8%	15 31.9%	4 8.5%	0 0.0%	4 8.5%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



<年齢別>

・「満足」という回答は「40代」「60~80代」で比較的多く、「20・30代」「50代」で少ない。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	62 36.7%	52 30.8%	41 24.3%	5 3.0%	1 0.6%	8 4.7%	169 100.0%
20代・30代 N=7	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	7 100.0%
40代 N=20	9 45.0%	4 20.0%	5 25.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	9 27.3%	12 36.4%	8 24.2%	1 3.0%	0 0.0%	3 9.1%	33 100.0%
60代 N=49	18 36.7%	16 32.7%	13 26.5%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	49 100.0%
70代 N=47	19 40.4%	14 29.8%	11 23.4%	1 2.1%	0 0.0%	2 4.3%	47 100.0%
80代 N=12	5 41.7%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



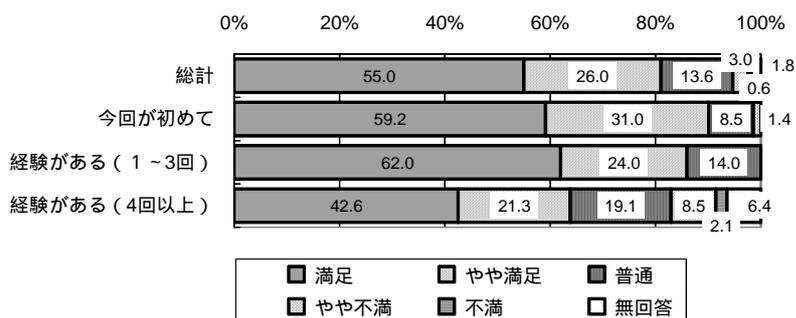
船内イベントは利用経験が少ないと満足度が高い。クルーズの裾野が広がり経験者が増えることを考慮し、テーマの絞り込みなどにより利用経験豊富な参加者でも満足しやすい内容の充実を図る必要があると考えられる。

問6 - 5 . 評価 / 船内の施設、スタッフの接客

<クルーズ旅行の利用経験別>

・「満足」という回答は、「今回が初めて」「経験がある(1~3回)」と、利用経験が比較的少ない層で多く、「経験がある(4回以上)」の層では「満足」は比較的少ない。

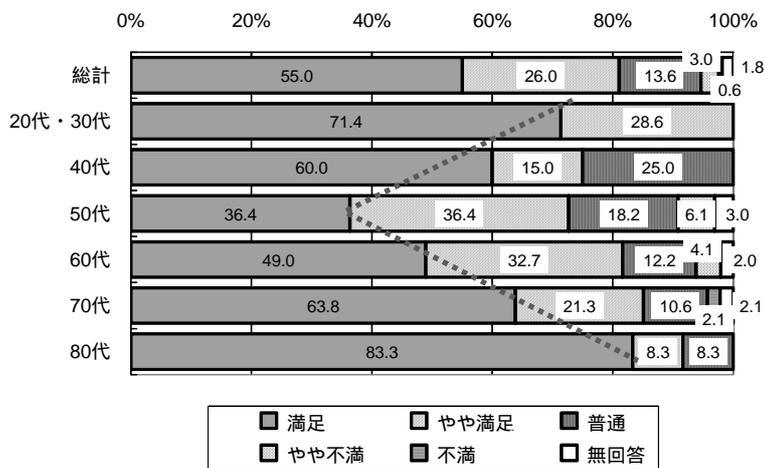
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	93 55.0%	44 26.0%	23 13.6%	5 3.0%	1 0.6%	3 1.8%	169 100.0%
今回が初めて N=71	42 59.2%	22 31.0%	6 8.5%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	31 62.0%	12 24.0%	7 14.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	20 42.6%	10 21.3%	9 19.1%	4 8.5%	1 2.1%	3 6.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



<年齢別>

・「満足」という回答は比較的若年層・高齢層で多く、「50代」でもっとも少ない。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	93 55.0%	44 26.0%	23 13.6%	5 3.0%	1 0.6%	3 1.8%	169 100.0%
20代・30代 N=7	5 71.4%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	12 60.0%	3 15.0%	5 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	12 36.4%	12 36.4%	6 18.2%	2 6.1%	0 0.0%	1 3.0%	33 100.0%
60代 N=49	24 49.0%	16 32.7%	6 12.2%	2 4.1%	0 0.0%	1 2.0%	49 100.0%
70代 N=47	30 63.8%	10 21.3%	5 10.6%	0 0.0%	1 2.1%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	10 83.3%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



今回のクルーズは外国人スタッフも多数乗船していた。接客サービスは経験豊富な層・経済的に余裕のある50代などの層に対しても満足を得られるよう、質を高めることが重要と考えられる。

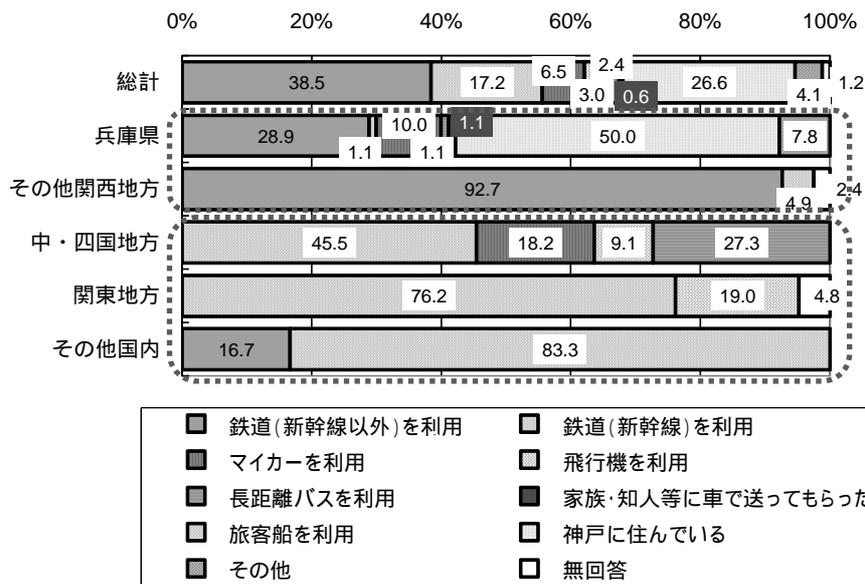
(3) 神戸港のアクセスについて

問7 神戸までの利用交通手段

<居住地別>

- ・ 関西地方に居住している場合、新幹線以外の鉄道を利用することが多い。
- ・ 関西地方以外に居住している場合、新幹線を利用することが多い。
- ・ 中・四国地方に居住している場合、マイカーの利用が新幹線に次いで多い。
- ・ 関東地方に居住している場合、飛行機の利用が新幹線に次いで多い。

	鉄道 (新幹 線以 外)を 利用	鉄道 (新幹 線)を 利用	マイ カーを 利用	飛行機 を利用	長距離 バスを 利用	家族・ 知人等 に車で 送って もらった	旅客船 を利用	神戸に 住んで いる	その他	無回答	合計
総計 N=169	65 38.5%	29 17.2%	11 6.5%	5 3.0%	4 2.4%	1 0.6%	0 0.0%	45 26.6%	7 4.1%	2 1.2%	169 100.0%
兵庫県 N=90	26 28.9%	1 1.1%	9 10.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%	45 50.0%	7 7.8%	0 0.0%	90 100.0%
その他関西地方 N=41	38 92.7%	2 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	41 100.0%
中・四国地方 N=11	0 0.0%	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
関東地方 N=21	0 0.0%	16 76.2%	0 0.0%	4 19.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	21 100.0%
その他国内 N=6	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%



神戸への利用交通手段は、居住地が大きな決定要因であると思われる。基本的には鉄道を利用し、近郊からは在来線、遠方からは新幹線などを利用するのが一般的である。

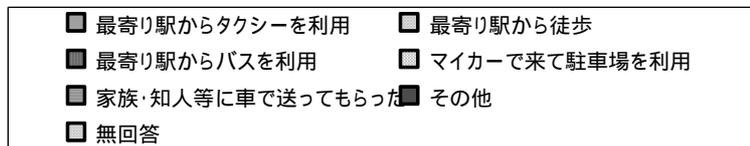
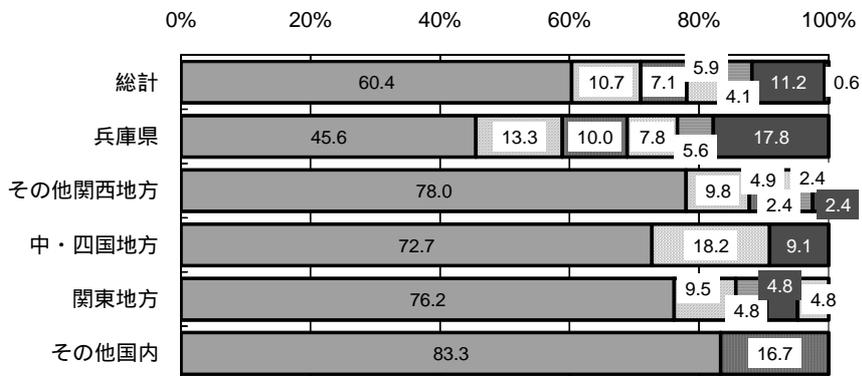
飛行機の利用は全体に占める割合としては少ないが(2.4%)、関東地方など遠方からの重要な交通手段であるといえる。

問 8 . 神戸から神戸港中突堤旅客ターミナルまでの利用交通手段

< 居住地別 >

- ・最寄り駅からタクシーの利用が全体に多い。
- ・兵庫県に居住の場合、徒歩・バス・マイカーなどさまざまな交通手段を比較的に利用している。
- ・兵庫県以外に居住の場合は、タクシーの利用割合がより高い。

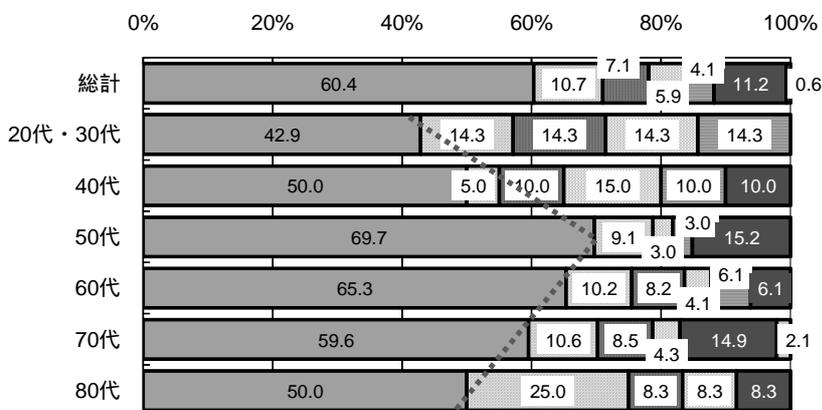
	最寄り駅からタクシーを利用	最寄り駅から徒歩	最寄り駅からバスを利用	マイカーで来て駐車場を利用	家族・知人等に車で送ってもらった	その他	無回答	合計
総計 N=169	102 60.4%	18 10.7%	12 7.1%	10 5.9%	7 4.1%	19 11.2%	1 0.6%	169
兵庫県 N=90	41 45.6%	12 13.3%	9 10.0%	7 7.8%	5 5.6%	16 17.8%	0 0.0%	90
その他関西地方 N=41	32 78.0%	4 9.8%	2 4.9%	1 2.4%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%	41
中・四国地方 N=11	8 72.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	11
関東地方 N=21	16 76.2%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	21
その他国内 N=6	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6



<年齢別>

- ・タクシーの利用率は50代がもっとも高く、年齢がより低くあるいは高くなると利用率は低くなる。
- ・年齢層が低い場合はバス・マイカーの利用率がタクシーに次いで高い。
- ・年齢層が高い場合は徒歩がタクシーに次いで高い。

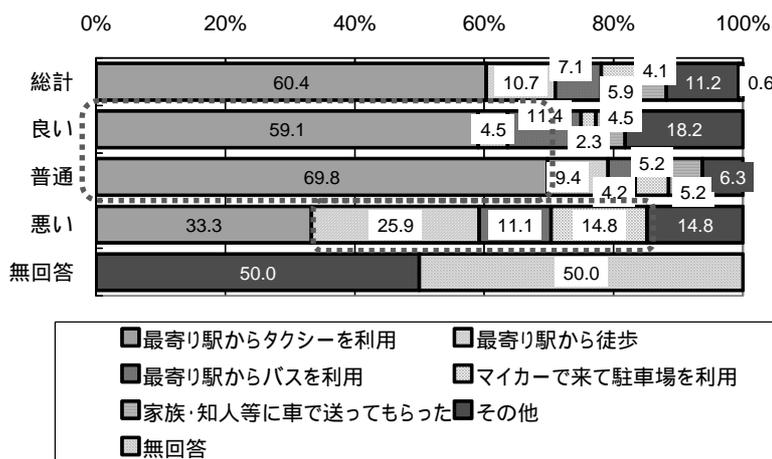
	最寄り駅からタクシーを利用	最寄り駅から徒歩	最寄り駅からバスを利用	マイカーで来て駐車場を利用	家族・知人等に車で送ってもらった	その他	無回答	合計
総計 N=169	102 60.4%	18 10.7%	12 7.1%	10 5.9%	7 4.1%	19 11.2%	1 0.6%	169 100.0%
20代・30代 N=7	3 42.9%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	10 50.0%	1 5.0%	2 10.0%	3 15.0%	2 10.0%	2 10.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	23 69.7%	3 9.1%	0 0.0%	1 3.0%	1 3.0%	5 15.2%	0 0.0%	33 100.0%
60代 N=49	32 65.3%	5 10.2%	4 8.2%	2 4.1%	3 6.1%	3 6.1%	0 0.0%	49 100.0%
70代 N=47	28 59.6%	5 10.6%	4 8.5%	2 4.3%	0 0.0%	7 14.9%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	6 50.0%	3 25.0%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%



< アクセス状況の評価別 >

- ・「良い」「普通」と答えた場合、タクシーを利用する場合は総計と同様に多い。
- ・「悪い」と答えた場合、総計に比べてタクシーも含めさまざまな交通手段を利用している。

	最寄り駅からタクシーを利用	最寄り駅から徒歩	最寄り駅からバスを利用	マイカーで来て駐車場を利用	家族・知人等に車で送ってもらった	その他	無回答	合計
総計 N=169	102 60.4%	18 10.7%	12 7.1%	10 5.9%	7 4.1%	19 11.2%	1 0.6%	169 100.0%
良い N=44	26 59.1%	2 4.5%	5 11.4%	1 2.3%	2 4.5%	8 18.2%	0 0.0%	44 100.0%
普通 N=96	67 69.8%	9 9.4%	4 4.2%	5 5.2%	5 5.2%	6 6.3%	0 0.0%	96 100.0%
悪い N=27	9 33.3%	7 25.9%	3 11.1%	4 14.8%	0 0.0%	4 14.8%	0 0.0%	27 100.0%
無回答 N=2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%



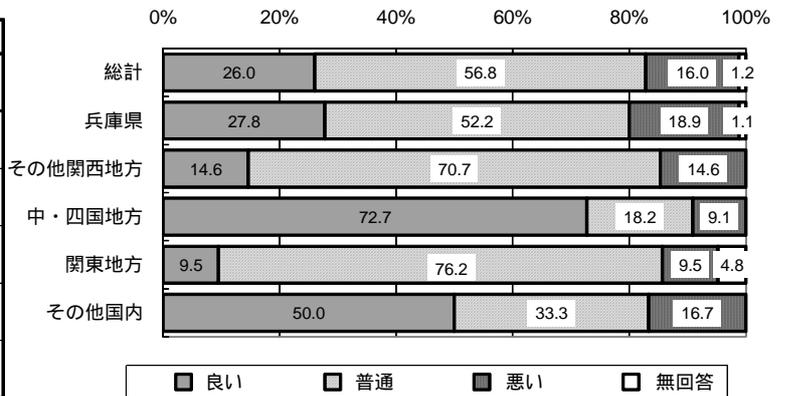
神戸から旅客ターミナルまでの利用交通手段は、居住地と年齢が大きな決定要因であると考えられる。遠方から来るなど地理に不案内な場合、および働き盛りで経済的に余裕がある場合ではタクシーの利用率が高まることが考えられる。

問9．神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセス状況について

<居住地別>

- ・全体としては、「良い」もしくは「普通」という評価が多い。
- ・兵庫県あるいは中・四国地方に居住の場合、「良い」という評価が比較的多い。
- ・その他関西地方あるいは関東地方に居住の場合、「普通」という評価が比較的多い。

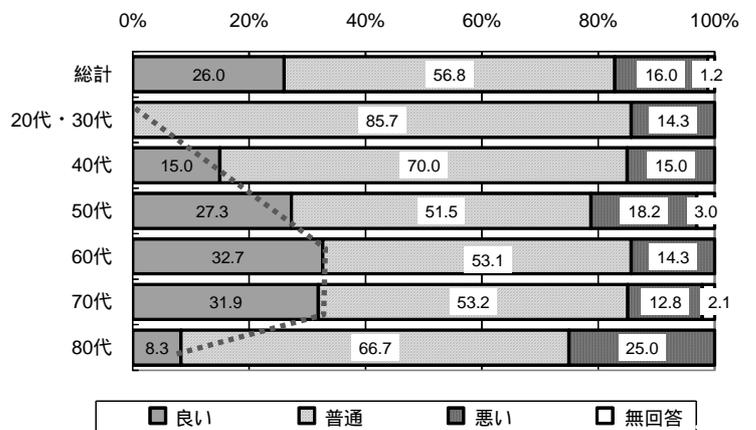
	良い	普通	悪い	無回答	合計
総計 N=169	44 26.0%	96 56.8%	27 16.0%	2 1.2%	169 100.0%
兵庫県 N=90	25 27.8%	47 52.2%	17 18.9%	1 1.1%	90 100.0%
その他関西地方 N=41	6 14.6%	29 70.7%	6 14.6%	0 0.0%	41 100.0%
中・四国地方 N=11	8 72.7%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	11 100.0%
関東地方 N=21	2 9.5%	16 76.2%	2 9.5%	1 4.8%	21 100.0%
その他国内 N=6	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	6 100.0%



<年齢別>

- ・「良い」という評価は60・70代がもっとも多く、年齢がより低くあるいは高くなるとは少なくなる。

	良い	普通	悪い	無回答	合計
総計 N=169	44 26.0%	96 56.8%	27 16.0%	2 1.2%	169 100.0%
20代・30代 N=7	0 0.0%	6 85.7%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	3 15.0%	14 70.0%	3 15.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	9 27.3%	17 51.5%	6 18.2%	1 3.0%	33 100.0%
60代 N=49	16 32.7%	26 53.1%	7 14.3%	0 0.0%	49 100.0%
70代 N=47	15 31.9%	25 53.2%	6 12.8%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	1 8.3%	8 66.7%	3 25.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%



居住地が兵庫県以外の関西地方および関東地方の場合に、アクセス状況を比較的
低く評価しているため、港をあまり利用しない場合は低く評価するものと考えら
れる。

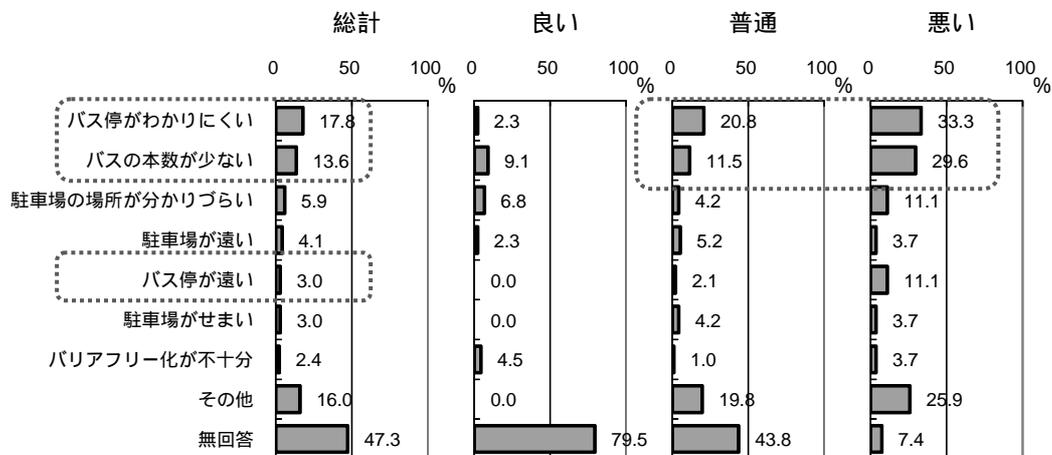
兵庫県あるいはその他関西地方に居住の場合は「悪い」という評価が多いことか
ら、地理に詳しい人の目で見ると改善の余地が大きいものと考えられる。

問10．神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスで改善すべき点（複数回答）

<アクセス状況の評価別>

- ・総計では、バスに関する改善が駐車場に関する改善に比べて多く回答されている。
- ・「バス停が分かりにくい」がもっとも多く回答された改善点である。
- ・「普通」「悪い」と答えた場合、バスに関する改善の回答が総計と同様に多い。

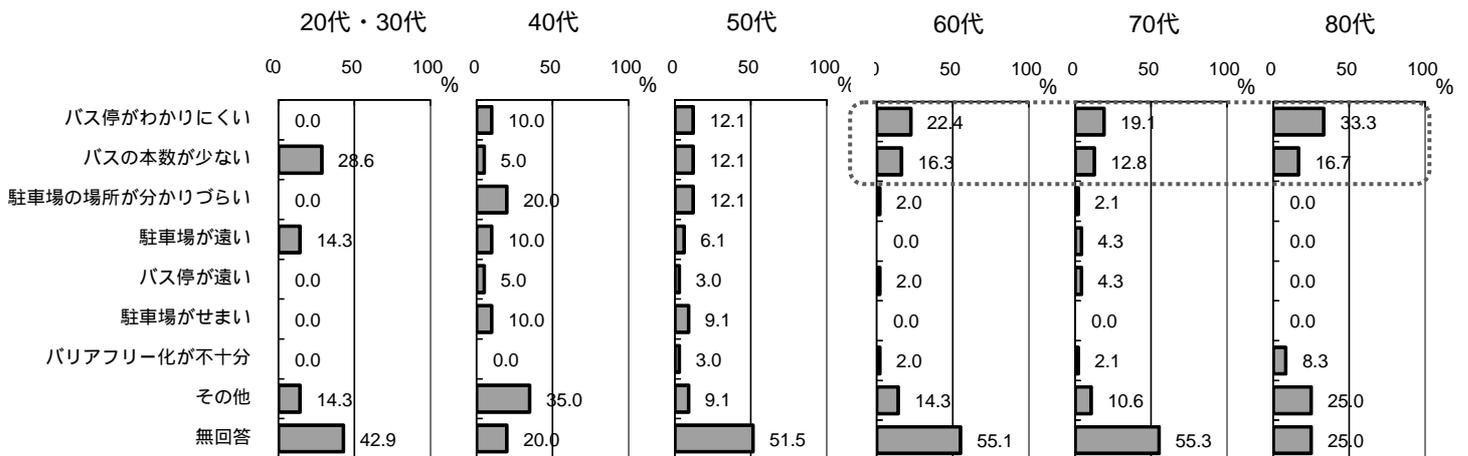
	バス停 がわかり にくい	バス の本数 が少ない	駐車 場の場 所が分 かりづ らい	駐車 場が 遠い	バス 停 が遠い	駐車 場 がせ まい	バリア フリー 化が不 十分 (高 齢者・ 障 害者 が利 用し にく い)	その他	無 回 答	合 計
総計 N=169	30 17.8%	23 13.6%	10 5.9%	7 4.1%	5 3.0%	5 3.0%	4 2.4%	27 16.0%	80 47.3%	191
良い N=44	1 2.3%	4 9.1%	3 6.8%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.5%	0 0.0%	35 79.5%	46
普通 N=96	20 20.8%	11 11.5%	4 4.2%	5 5.2%	2 2.1%	4 4.2%	1 1.0%	19 19.8%	42 43.8%	108
悪い N=27	9 33.3%	8 29.6%	3 11.1%	1 3.7%	3 11.1%	1 3.7%	1 3.7%	7 25.9%	2 7.4%	35
無回答 N=2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2



< 年齢別 >

・60-80代ではバスに関する改善がより多く回答されている。

	バス停 がわかり にくい	バス の本数 が少ない	駐 車場 の場 所が 分 か り づ ら い	駐 車 場 が 遠 い	バ ス 停 が 遠 い	駐 車 場 が せ ま い	バ リ ア フ リ ー 化 が 不 十 分 (高 齢 者 ・ 障 害 者 が 利 用 し に く い)	其 他	無 回 答	合 計
総計 N=169	30 17.8%	23 13.6%	10 5.9%	7 4.1%	5 3.0%	5 3.0%	4 2.4%	27 16.0%	80 47.3%	191
20代・30代 N=7	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	7
40代 N=20	2 10.0%	1 5.0%	4 20.0%	2 10.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	7 35.0%	4 20.0%	23
50代 N=33	4 12.1%	4 12.1%	4 12.1%	2 6.1%	1 3.0%	3 9.1%	1 3.0%	3 9.1%	17 51.5%	39
60代 N=49	11 22.4%	8 16.3%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	7 14.3%	27 55.1%	56
70代 N=47	9 19.1%	6 12.8%	1 2.1%	2 4.3%	2 4.3%	0 0.0%	1 2.1%	5 10.6%	26 55.3%	52
80代 N=12	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	3 25.0%	3 25.0%	13
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1



バスに関する改善が、特に年齢別では高齢者がバスの改善を多く回答しており、ユニバーサルツーリズムの観点からもバスに関する改善については重要と考えられる。

各主要駅から中突堤方面へのバスは、神戸市営バスの運行本数は少ないが、シティ・ループバスに加え無料で利用できるホテルのシャトルバスが日中は1時間あたり6本程度運行されており、必ずしも本数も少なくない。ただし各ターミナル等でのバス停がわかりにくいという意見が多くあり、わかりやすくする工夫が必要と考えられる。

クルーズ実施時には専用シャトルバスを運行するなどの工夫も考えられる。

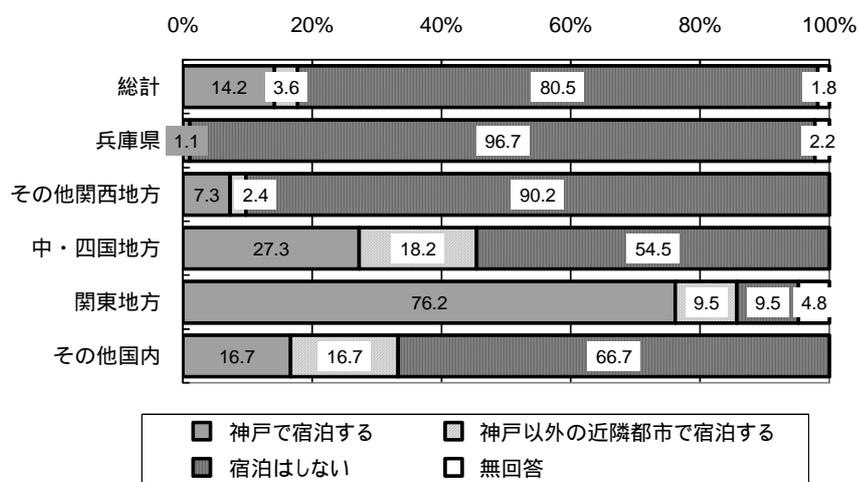
(4) 発着地・寄港地での過ごし方について

問11. 今回のクルーズの前後の宿泊について

<居住地別>

- ・総計では、宿泊なしがもっとも多く回答されている。
- ・関東地方に居住する場合は宿泊が多く、宿泊先は神戸がもっとも多い。

	神戸で 宿泊する	神戸以 外の近 隣都市 で宿泊 する	宿泊は しない	無回答	合計
総計 N=169	24 14.2%	6 3.6%	136 80.5%	3 1.8%	169 100.0%
兵庫県 N=90	1 1.1%	0 0.0%	87 96.7%	2 2.2%	90 100.0%
その他関西地方 N=41	3 7.3%	1 2.4%	37 90.2%	0 0.0%	41 100.0%
中・四国地方 N=11	3 27.3%	2 18.2%	6 54.5%	0 0.0%	11 100.0%
関東地方 N=21	16 76.2%	2 9.5%	2 9.5%	1 4.8%	21 100.0%
その他国内 N=6	1 16.7%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	6 100.0%



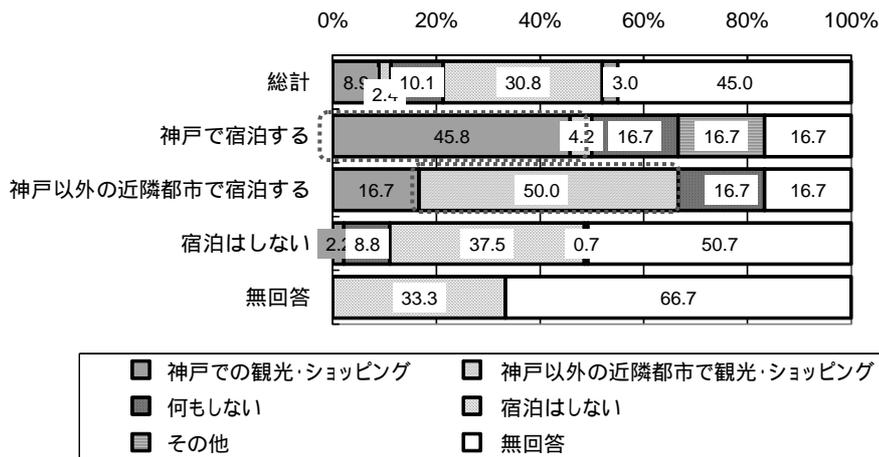
宿泊する参加者は総計では多くないものの、関東地方など遠方からの参加者に限ると宿泊することが多い。

問12. クルーズ前後の宿泊される場合の主な過ごし方

<クルーズ前後の宿泊別>

- ・神戸で宿泊する場合、神戸での観光・ショッピングが多く回答されている。
- ・近隣都市で宿泊する場合、近隣都市で観光・ショッピングが多く回答されている。

	神戸での観光・ショッピング	神戸以外の近隣都市で観光・ショッピング	何もしない	宿泊はしない	その他	無回答	合計
総計 N=169	15 8.9%	4 2.4%	17 10.1%	52 30.8%	5 3.0%	76 45.0%	169 100.0%
神戸で宿泊する N=24	11 45.8%	1 4.2%	4 16.7%	0 0.0%	4 16.7%	4 16.7%	24 100.0%
神戸以外の近隣都市で宿泊する N=6	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%
宿泊はしない N=136	3 2.2%	0 0.0%	12 8.8%	51 37.5%	1 0.7%	69 50.7%	136 100.0%
無回答 N=3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%



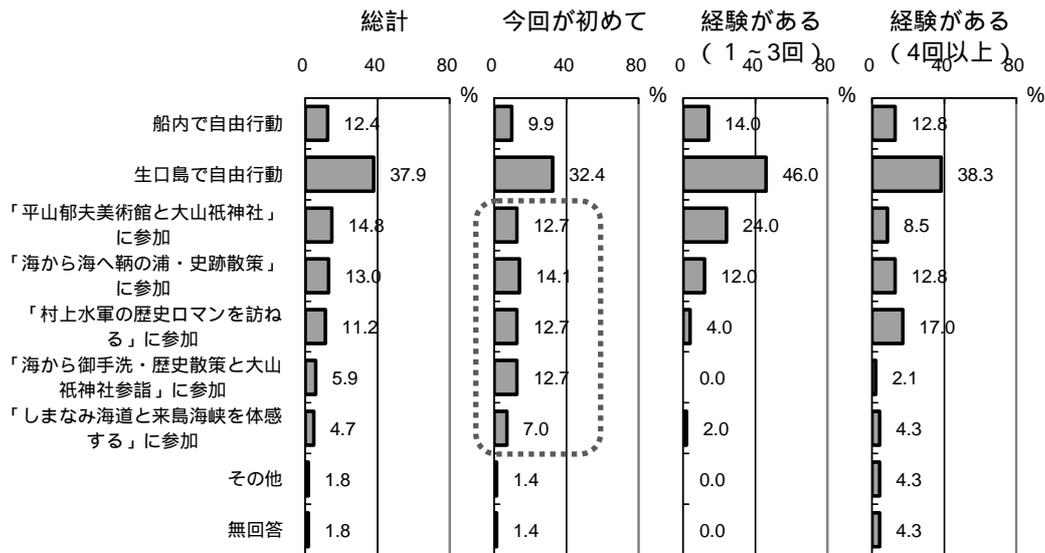
宿泊する場合、その都市で観光・ショッピングをすることが多い。

問13. 瀬戸田での過ごし方（複数回答）

<クルーズ旅行の利用経験別>

・今回が初めての層で、オプションツアーへの参加率が高い。

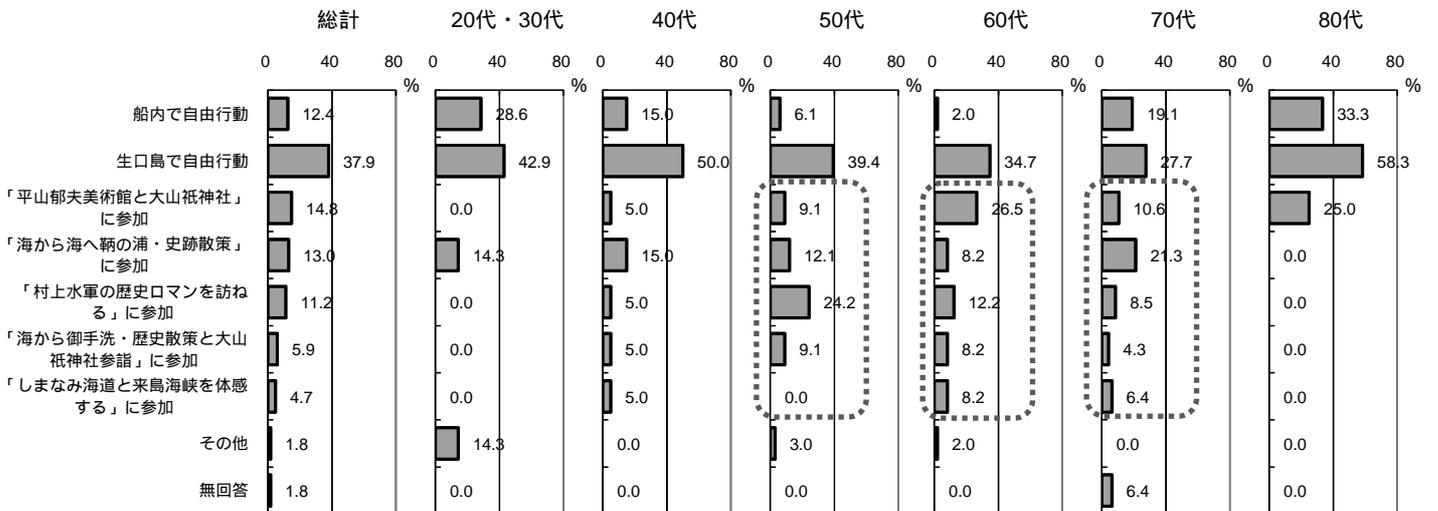
	船内で自由行動	生口島で自由行動	「平山郁夫美術館と大山祇神社」に参加	「海から海へ 鞆の浦・史跡散策」に参加	「村上水軍の歴史ロマンを訪ねる」に参加	「海から御手洗・歴史散策と大山祇神社参詣」に参加	「しまなみ海道と来島海峡を体感する」に参加	その他	無回答	合計
総計 N=169	21 12.4%	64 37.9%	25 14.8%	22 13.0%	19 11.2%	10 5.9%	8 4.7%	3 1.8%	3 1.8%	175
今回が初めて N=71	7 9.9%	23 32.4%	9 12.7%	10 14.1%	9 12.7%	9 12.7%	5 7.0%	1 1.4%	1 1.4%	74
経験がある (1~3回) N=50	7 14.0%	23 46.0%	12 24.0%	6 12.0%	2 4.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	51
経験がある (4回以上) N=47	6 12.8%	18 38.3%	4 8.5%	6 12.8%	8 17.0%	1 2.1%	2 4.3%	2 4.3%	2 4.3%	49
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1



< 年齢別 >

・ 50・60・70代でオプションツアーへの参加率が高い。

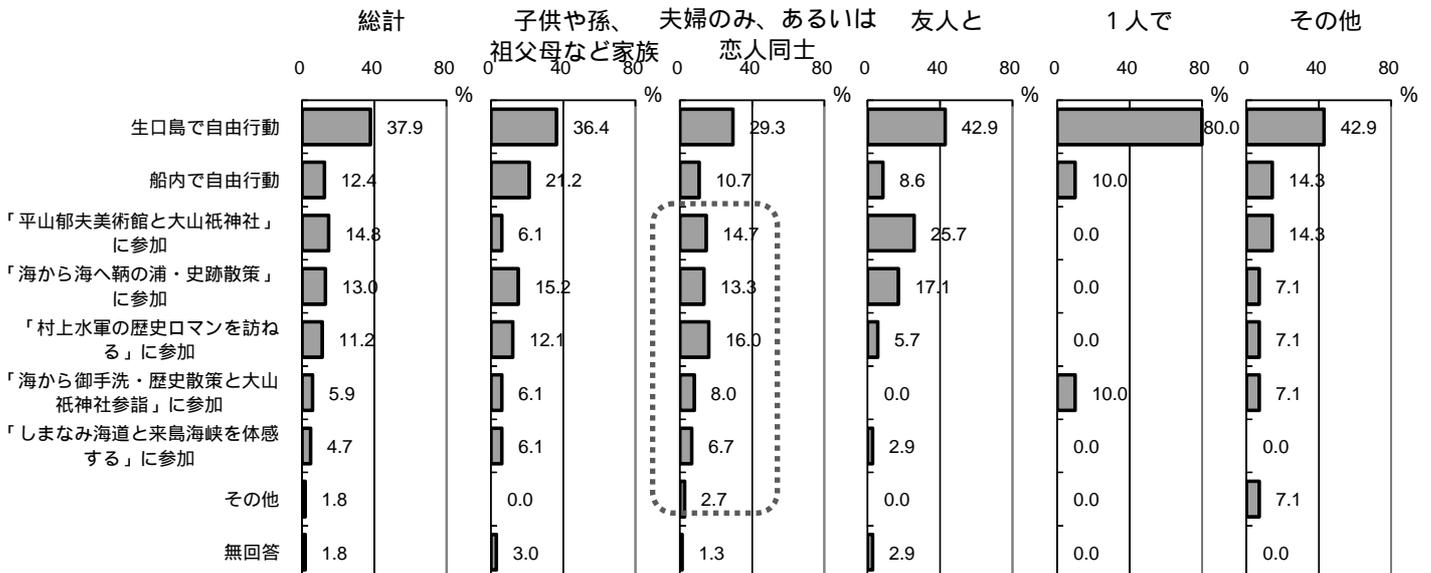
	船内で自由行動	生口島で自由行動	「平山郁夫美術館と大山祇神社」に参加	「海から海へ 鞆の浦・史跡散策」に参加	「村上水軍の歴史ロマンを訪ねる」に参加	「海から御手洗・歴史散策と大山祇神社参詣」に参加	「しまなみ海道と来島海峡を体感する」に参加	その他	無回答	合計
総計 N=169	21 12.4%	64 37.9%	25 14.8%	22 13.0%	19 11.2%	10 5.9%	8 4.7%	3 1.8%	3 1.8%	175
20代・30代 N=7	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7
40代 N=20	3 15.0%	10 50.0%	1 5.0%	3 15.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	20
50代 N=33	2 6.1%	13 39.4%	3 9.1%	4 12.1%	8 24.2%	3 9.1%	0 0.0%	1 3.0%	0 0.0%	34
60代 N=49	1 2.0%	17 34.7%	13 26.5%	4 8.2%	6 12.2%	4 8.2%	4 8.2%	1 2.0%	0 0.0%	50
70代 N=47	9 19.1%	13 27.7%	5 10.6%	10 21.3%	4 8.5%	2 4.3%	3 6.4%	0 0.0%	3 6.4%	49
80代 N=12	4 33.3%	7 58.3%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1



< 同行者別 >

・「夫婦あるいは恋人同士」で参加の場合、オプションツアーへの参加率が高い。

	船内で自由行動	生口島で自由行動	「平山郁夫美術館と大山祇神社」に参加	「海から海へ 鞆の浦・史跡散策」に参加	「村上水軍の歴史ロマンを訪ねる」に参加	「海から御手洗・歴史散策と大山祇神社参詣」に参加	「しまなみ海道と来島海峡を体感する」に参加	その他	無回答	合計
総計 N=169	21 12.4%	64 37.9%	25 14.8%	22 13.0%	19 11.2%	10 5.9%	8 4.7%	3 1.8%	3 1.8%	175
子供や孫、祖父母など家族で N=33	7 21.2%	12 36.4%	2 6.1%	5 15.2%	4 12.1%	2 6.1%	2 6.1%	0 0.0%	1 3.0%	35
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	8 10.7%	22 29.3%	11 14.7%	10 13.3%	12 16.0%	6 8.0%	5 6.7%	2 2.7%	1 1.3%	77
友人と N=35	3 8.6%	15 42.9%	9 25.7%	6 17.1%	2 5.7%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	1 2.9%	37
1人で N=10	1 10.0%	8 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10
その他 N=14	2 14.3%	6 42.9%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	14
無回答 N=2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2



瀬戸田・高松とも、オプションツアーへの参加率は、年齢別で見ると 50・60・70代で高い。比較的高い年齢層を対象としたクルーズの場合はオプションツアーの需要が高く、逆に低い年齢層の場合はオプションツアーよりも自由行動の需要が高いものと考えられる。

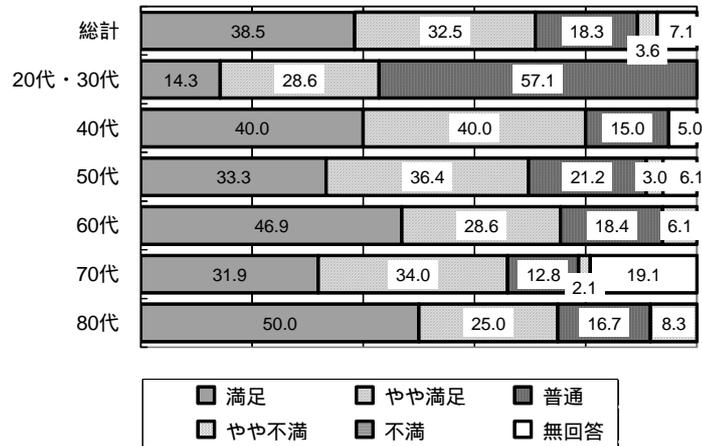
問14 瀬戸田で過ごした感想

<年齢別>

・「満足」「やや満足」と回答した割合は、20代・30代を除き70%前後でおおむね等しい。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	65 38.5%	55 32.5%	31 18.3%	6 3.6%	0 0.0%	12 7.1%	169 100.0%
20代・30代 N=7	1 14.3%	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	8 40.0%	8 40.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 100.0%
50代 N=33	11 33.3%	12 36.4%	7 21.2%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.1%	33 100.0%
60代 N=49	23 46.9%	14 28.6%	9 18.4%	3 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	49 100.0%
70代 N=47	15 31.9%	16 34.0%	6 12.8%	1 2.1%	0 0.0%	9 19.1%	47 100.0%
80代 N=12	6 50.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

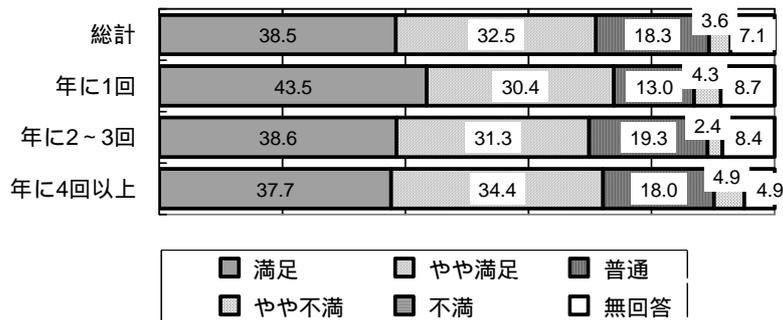


<宿泊旅行の頻度別>

・「満足」「やや満足」と回答した割合は、どの頻度とも70%前後とおおむね等しい。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	65 38.5%	55 32.5%	31 18.3%	6 3.6%	0 0.0%	12 7.1%	169 100.0%
年に1回 N=23	10 43.5%	7 30.4%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	23 100.0%
年に2～3回 N=83	32 38.6%	26 31.3%	16 19.3%	2 2.4%	0 0.0%	7 8.4%	83 100.0%
年に4回以上 N=61	23 37.7%	21 34.4%	11 18.0%	3 4.9%	0 0.0%	3 4.9%	61 100.0%
無回答 N=2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

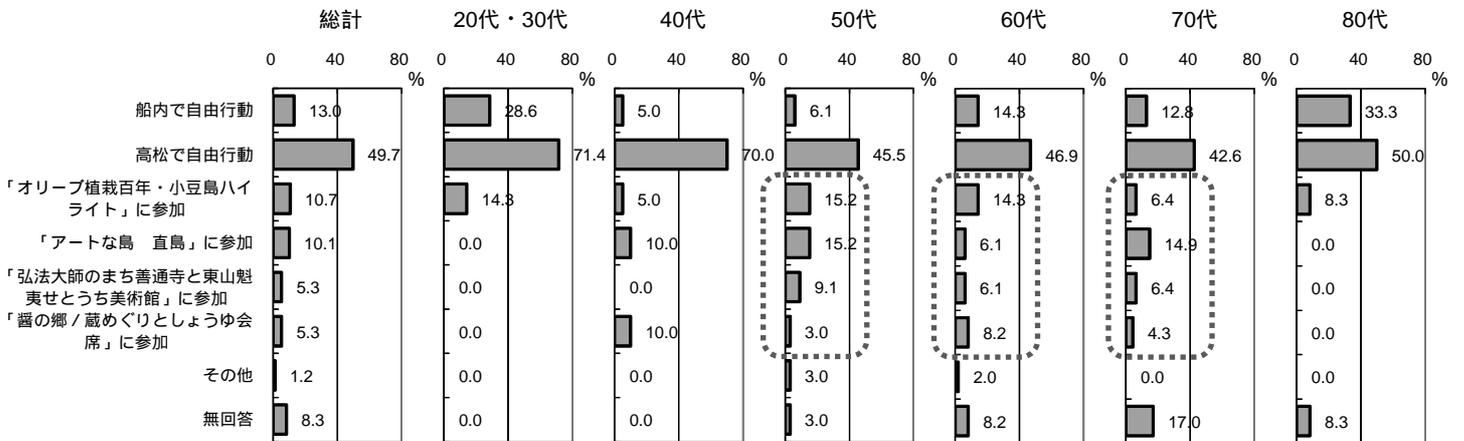


問15. 高松での過ごし方（複数回答）

< 年齢別 >

・50・60・70代でオプションツアーへの参加率が高い。

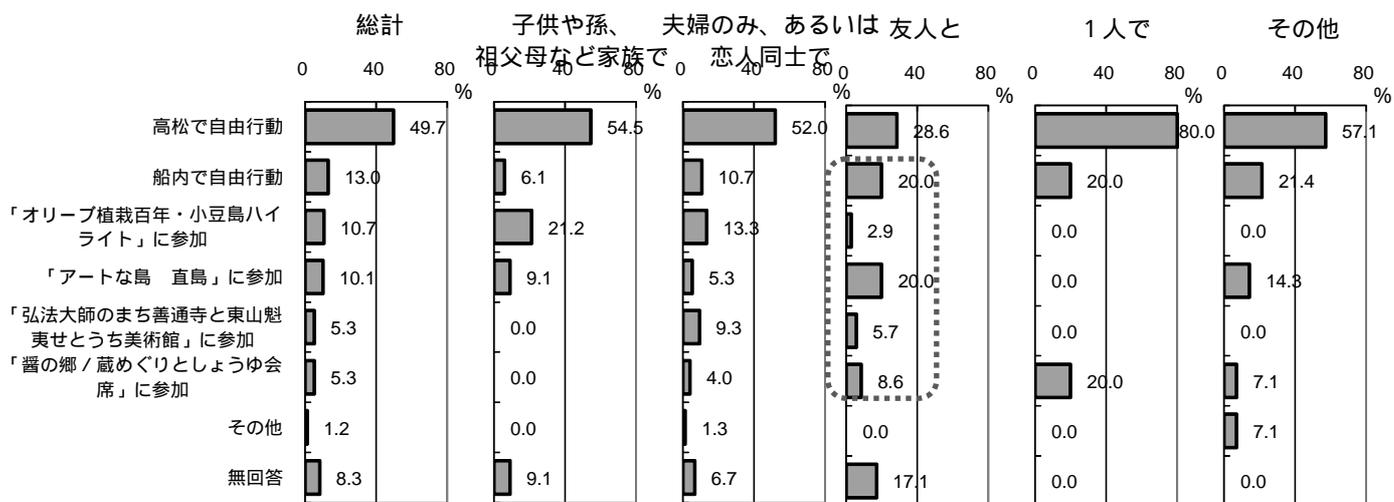
	船内で自由行動	高松で自由行動	「オリーブ植栽百年・小豆島ハイライト」に参加	「アートな島直島」に参加	「弘法大師のまち善通寺と東山魁夷せとうち美術館」に参加	「醤の郷/蔵めぐりとしょうゆ会席」に参加	その他	無回答	合計
総計 N=169	22 13.0%	84 49.7%	18 10.7%	17 10.1%	9 5.3%	9 5.3%	2 1.2%	14 8.3%	175
20代・30代 N=7	2 28.6%	5 71.4%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8
40代 N=20	1 5.0%	14 70.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	20
50代 N=33	2 6.1%	15 45.5%	5 15.2%	5 15.2%	3 9.1%	1 3.0%	1 3.0%	1 3.0%	33
60代 N=49	7 14.3%	23 46.9%	7 14.3%	3 6.1%	3 6.1%	4 8.2%	1 2.0%	4 8.2%	52
70代 N=47	6 12.8%	20 42.6%	3 6.4%	7 14.9%	3 6.4%	2 4.3%	0 0.0%	8 17.0%	49
80代 N=12	4 33.3%	6 50.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	12
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1



< 同行者別 >

・友人と参加の場合、オプションツアーへの参加率が高い。

	船内で自由行動	高松で自由行動	「オリーブ植栽百年・小豆島ハイライト」に参加	「アートな島直島」に参加	「弘法大師のまち善通寺と東山魁夷せとうち美術館」に参加	「醤の郷/蔵めぐりとしょうゆ会席」に参加	その他	無回答	合計
総計 N=169	22 13.0%	84 49.7%	18 10.7%	17 10.1%	9 5.3%	9 5.3%	2 1.2%	14 8.3%	175
子供や孫、祖父母など家族で N=33	2 6.1%	18 54.5%	7 21.2%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.1%	33
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	8 10.7%	39 52.0%	10 13.3%	4 5.3%	7 9.3%	3 4.0%	1 1.3%	5 6.7%	77
友人と N=35	7 20.0%	10 28.6%	1 2.9%	7 20.0%	2 5.7%	3 8.6%	0 0.0%	6 17.1%	36
1人で N=10	2 20.0%	8 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	12
その他 N=14	3 21.4%	8 57.1%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	15
無回答 N=2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2



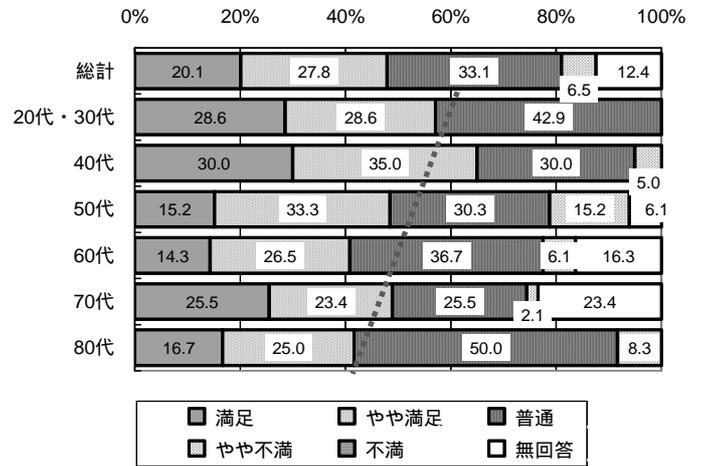
瀬戸田・高松とも、オプションツアーへの参加率は、年齢別で見ると50・60・70代で高い。比較的高い年齢層を対象としたクルーズの場合はオプションツアーの需要が高く、逆に低い年齢層の場合はオプションツアーよりも自由行動の需要が高いものと考えられる。

問16. 高松で過ごした感想

< 年齢別 >

・「満足」「やや満足」と回答した割合は、年齢が高いほどやや低くなっている。

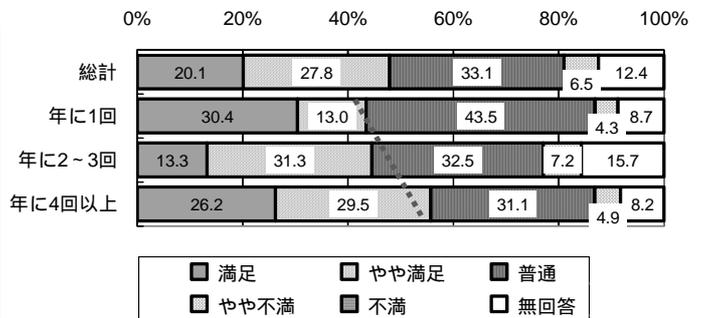
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	34 20.1%	47 27.8%	56 33.1%	11 6.5%	0 0.0%	21 12.4%	169 100.0%
20代・30代 N=7	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	6 30.0%	7 35.0%	6 30.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	5 15.2%	11 33.3%	10 30.3%	5 15.2%	0 0.0%	2 6.1%	33 100.0%
60代 N=49	7 14.3%	13 26.5%	18 36.7%	3 6.1%	0 0.0%	8 16.3%	49 100.0%
70代 N=47	12 25.5%	11 23.4%	12 25.5%	1 2.1%	0 0.0%	11 23.4%	47 100.0%
80代 N=12	2 16.7%	3 25.0%	6 50.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< 宿泊旅行の頻度別 >

・「満足」「やや満足」と回答した割合は、宿泊旅行の頻度が高いとやや多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	34 20.1%	47 27.8%	56 33.1%	11 6.5%	0 0.0%	21 12.4%	169 100.0%
年に1回 N=23	7 30.4%	3 13.0%	10 43.5%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	23 100.0%
年に2～3回 N=83	11 13.3%	26 31.3%	27 32.5%	6 7.2%	0 0.0%	13 15.7%	83 100.0%
年に4回以上 N=61	16 26.2%	18 29.5%	19 31.1%	3 4.9%	0 0.0%	5 8.2%	61 100.0%
無回答 N=2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%



「満足」「やや満足」と回答した割合は、瀬戸田に比べて少ない。年齢層が高いほど、旅行頻度が少ないほど「満足」「やや満足」と回答した割合は少ないことから、2泊3日のクルーズの後半で参加者の疲労が影響した面が大きいものと考えられる。

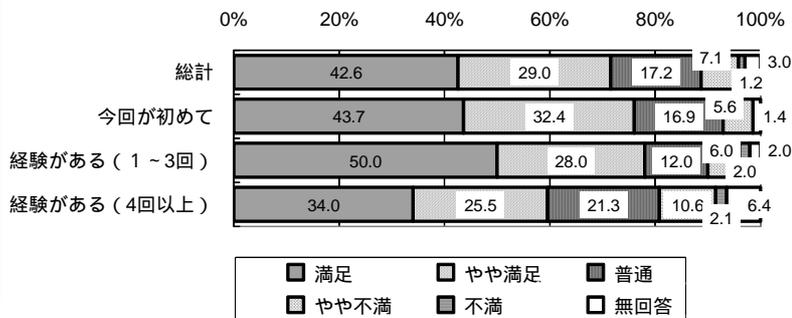
(5) 船内での“おもてなし”について

問17-1. 船内での食事の評価/料理の内容

<クルーズ旅行の利用経験別>

・「満足」という評価は4回以上経験がある場合、全体に比べて少ない。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	72 42.6%	49 29.0%	29 17.2%	12 7.1%	2 1.2%	5 3.0%	169 100.0%
今回が初めて N=71	31 43.7%	23 32.4%	12 16.9%	4 5.6%	0 0.0%	1 1.4%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	25 50.0%	14 28.0%	6 12.0%	3 6.0%	1 2.0%	1 2.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	16 34.0%	12 25.5%	10 21.3%	5 10.6%	1 2.1%	3 6.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%

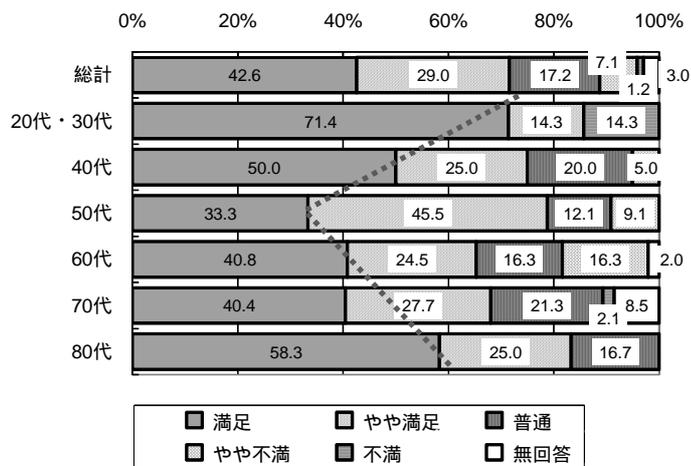


<年齢別>

・「満足」という評価は50代でもっとも少ない。

・「満足」という評価は50代を境にして年齢層が低い、あるいは高いと多い。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	72 42.6%	49 29.0%	29 17.2%	12 7.1%	2 1.2%	5 3.0%	169 100.0%
20代・30代 N=7	5 71.4%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	10 50.0%	5 25.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	11 33.3%	15 45.5%	4 12.1%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	33 100.0%
60代 N=49	20 40.8%	12 24.5%	8 16.3%	8 16.3%	0 0.0%	1 2.0%	49 100.0%
70代 N=47	19 40.4%	13 27.7%	10 21.3%	0 0.0%	1 2.1%	4 8.5%	47 100.0%
80代 N=12	7 58.3%	3 25.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



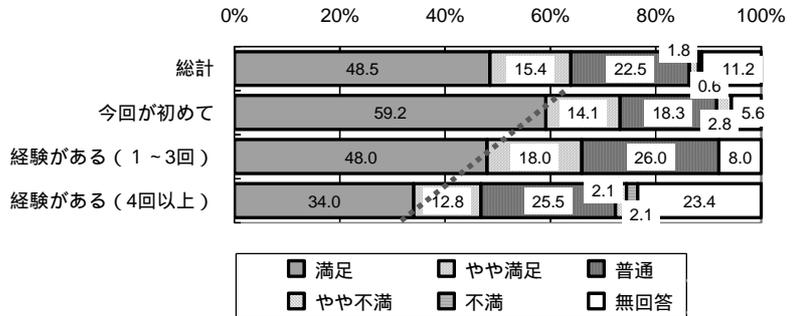
食事は朝・昼・夕・夜に加えてティータイムもあり、通常の生活に比べて回数・各回の量とも多かったが、総体的には高評価を得ている。ただし、クルーズの経験が豊富な層は、より高額なクルーズ商品なども経験しており食事への評価の目が厳しくなるものと考えられる。

問17-2. 船内での食事の評価 / 料理の量

<クルーズ旅行の利用経験別>

・「満足」という評価は利用経験が少ないほど多い。

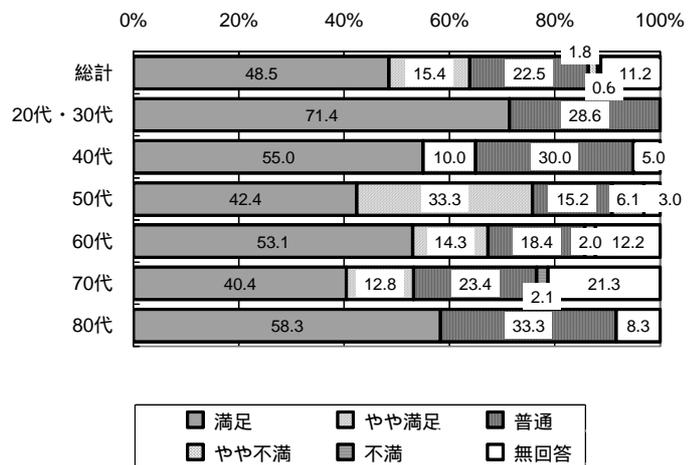
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	82 48.5%	26 15.4%	38 22.5%	3 1.8%	1 0.6%	19 11.2%	169 100.0%
今回が初めて N=71	42 59.2%	10 14.1%	13 18.3%	2 2.8%	0 0.0%	4 5.6%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	24 48.0%	9 18.0%	13 26.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	16 34.0%	6 12.8%	12 25.5%	1 2.1%	1 2.1%	11 23.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



<年齢別>

・「満足」という評価は50代、70代で比較的少ない。

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	合計
総計 N=169	82 48.5%	26 15.4%	38 22.5%	3 1.8%	1 0.6%	19 11.2%	169 100.0%
20代・30代 N=7	5 71.4%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	11 55.0%	2 10.0%	6 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	20 100.0%
50代 N=33	14 42.4%	11 33.3%	5 15.2%	2 6.1%	0 0.0%	1 3.0%	33 100.0%
60代 N=49	26 53.1%	7 14.3%	9 18.4%	1 2.0%	0 0.0%	6 12.2%	49 100.0%
70代 N=47	19 40.4%	6 12.8%	11 23.4%	0 0.0%	1 2.1%	10 21.3%	47 100.0%
80代 N=12	7 58.3%	0 0.0%	4 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



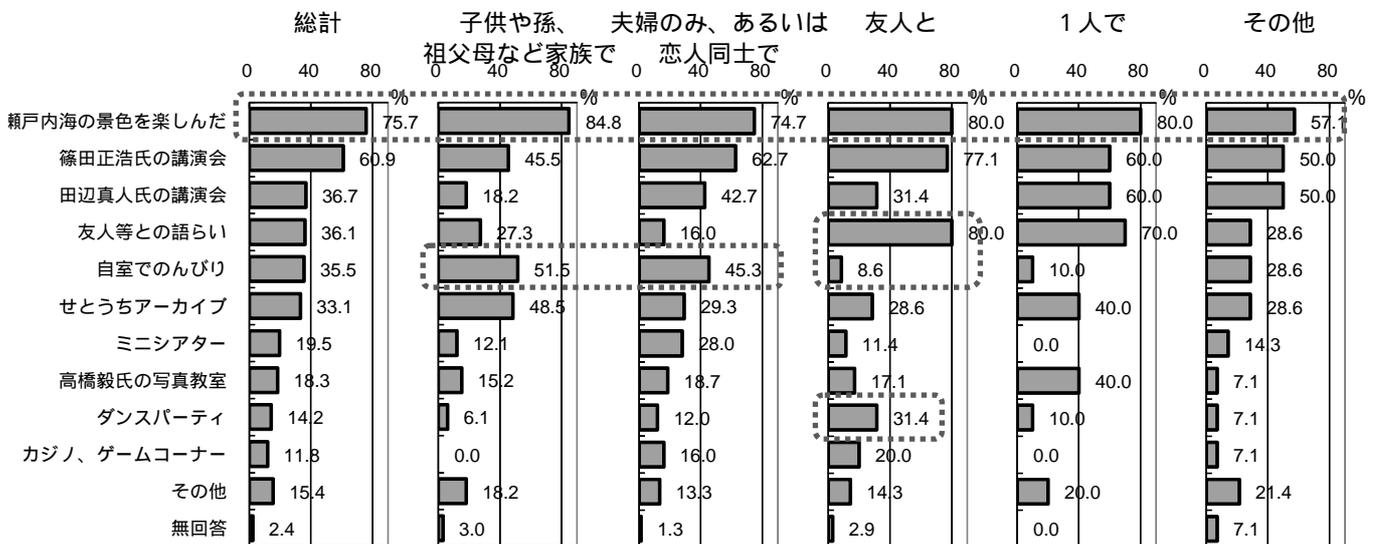
食事は朝・昼・夕・夜に加えてティータイムもあり、通常の生活に比べて回数・各回の量とも多かったが、総体的には高評価を得ている。ただし、クルーズの経験が豊富な層は、より高額なクルーズ商品なども経験しており食事への評価の目が厳しくなるものと考えられる。

問18．船内での過ごし方（複数回答）

< 同行者別 >

- ・「瀬戸内海の景色を楽しんだ」はいずれの同行者の場合も多い。
- ・家族および夫婦・恋人同士で参加の場合、「自室でのんびり」が他と比較して多い。
- ・友人と参加の場合、他と比較すると「友人等との語らい」「ダンスパーティ」が多く「自室でのんびり」が少ない。

	瀬戸内海の景色を楽しんだ	篠田正浩氏の講演会	田辺真人氏の講演会	友人等との語らい	自室でのんびり	せとうちアーカイブ	ミニシアター	高橋毅氏の写真教室	ダンスパーティ	カジノ、ゲームコーナー	その他
総計 N=169	128 75.7%	103 60.9%	62 36.7%	61 36.1%	60 35.5%	56 33.1%	33 19.5%	31 18.3%	24 14.2%	20 11.8%	26 15.4%
子供や孫、祖父母など家族で N=33	28 84.8%	15 45.5%	6 18.2%	9 27.3%	17 51.5%	16 48.5%	4 12.1%	5 15.2%	2 6.1%	0 0.0%	6 18.2%
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	56 74.7%	47 62.7%	32 42.7%	12 16.0%	34 45.3%	22 29.3%	21 28.0%	14 18.7%	9 12.0%	12 16.0%	10 13.3%
友人と N=35	28 80.0%	27 77.1%	11 31.4%	28 80.0%	3 8.6%	10 28.6%	4 11.4%	6 17.1%	11 31.4%	7 20.0%	5 14.3%
一人で N=10	8 80.0%	6 60.0%	6 60.0%	7 70.0%	1 10.0%	4 40.0%	0 0.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%
その他 N=14	8 57.1%	7 50.0%	7 50.0%	4 28.6%	4 28.6%	4 28.6%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	3 21.4%
無回答 N=2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%



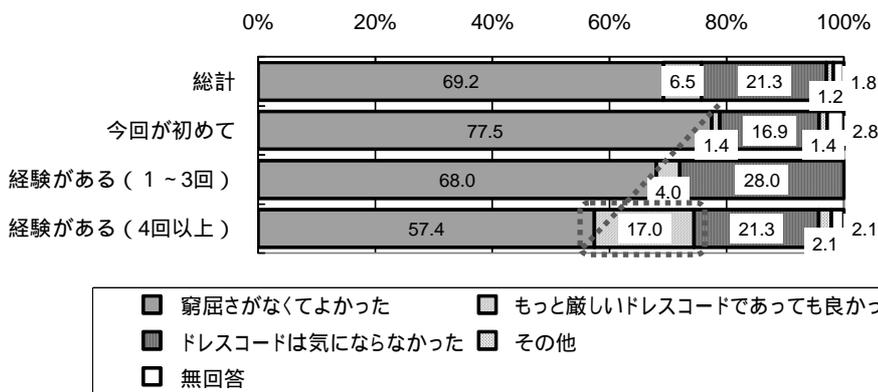
いずれの参加者も瀬戸内の景色を楽しんでいるが、家族および夫婦・恋人と参加の場合は自分たちだけでのんびりする傾向が強く、また逆に友人と参加の場合は友人同士の語らいやイベントなど他の人と交流する傾向が強い。

問19. 今回のドレスコードについて

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・全体的に「窮屈さがなくてよかった」という評価が多い。
- ・利用経験が少ないほど「窮屈さがなくてよかった」という評価が多い。
- ・利用経験が多いと「もっと厳しくてもよかった」という評価が比較的多い。

	窮屈さがなくてよかった	もっと厳しいドレスコードであっても良かった	ドレスコードは気にならなかった	その他	無回答	合計
総計 N=169	117 69.2%	11 6.5%	36 21.3%	2 1.2%	3 1.8%	169 100.0%
今回が初めて N=71	55 77.5%	1 1.4%	12 16.9%	1 1.4%	2 2.8%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	34 68.0%	2 4.0%	14 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	27 57.4%	8 17.0%	10 21.3%	1 2.1%	1 2.1%	47 100.0%
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



利用経験が少ない人にとっては、イメージした服装の窮屈さがなく高い評価であったものの、逆に利用経験が多い人にとっては、通常の旅行では味わうことのない非日常の時間を大切にしたいという感覚もあることに注意が必要といえる。

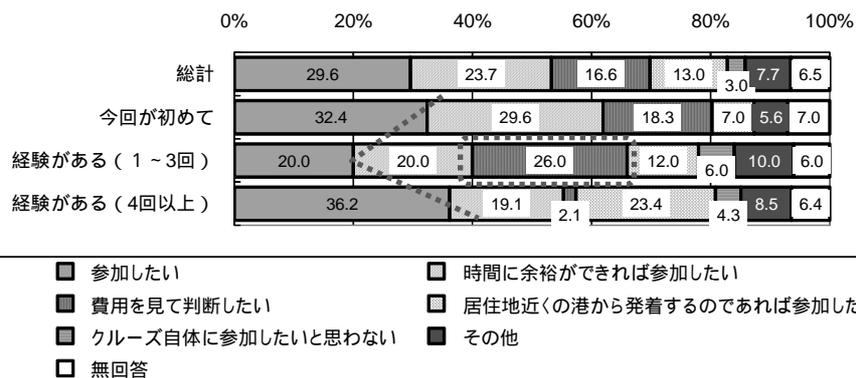
(6) 今後の“せとうちクルーズ”参加希望について

問20. 今後の“せとうちクルーズ”への参加希望

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・総計では、「参加したい」「時間に余裕ができれば参加したい」が多い。
- ・初めての場合、4回以上経験がある場合に「参加したい」が多い。
- ・1-3回の経験がある場合、「費用を見て判断したい」が比較的多い。

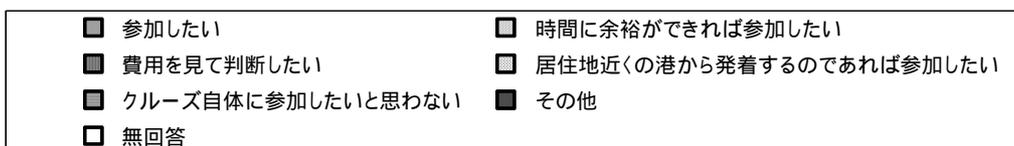
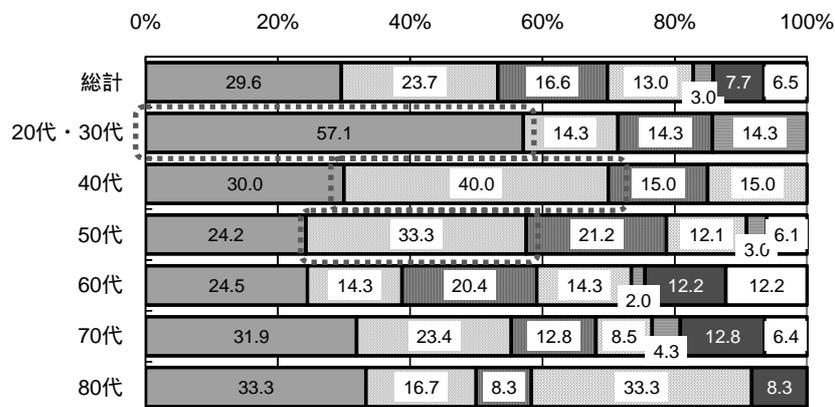
	参加したい	時間に余裕ができれば参加したい	費用を見て判断したい	居住地近くの港から発着するのであれば参加したい	クルーズ自体に参加したいと思わない	その他	無回答	合計
総計 N=169	50 29.6%	40 23.7%	28 16.6%	22 13.0%	5 3.0%	13 7.7%	11 6.5%	169 100.0%
今回が初めて N=71	23 32.4%	21 29.6%	13 18.3%	5 7.0%	0 0.0%	4 5.6%	5 7.0%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	10 20.0%	10 20.0%	13 26.0%	6 12.0%	3 6.0%	5 10.0%	3 6.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	17 36.2%	9 19.1%	1 2.1%	11 23.4%	2 4.3%	4 8.5%	3 6.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



<年齢別>

- ・20代・30代で「参加したい」という回答が多い。
- ・40代、50代では「時間に余裕ができれば参加したい」が多い。

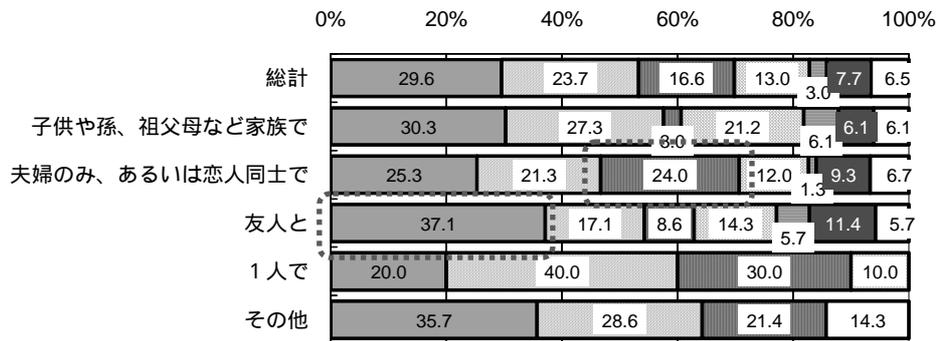
	参加したい	時間に余裕ができれば参加したい	費用を見て判断したい	居住地近くの港から発着するのであれば参加したい	クルーズ自体に参加したいと思わない	その他	無回答	合計
総計 N=169	50 29.6%	40 23.7%	28 16.6%	22 13.0%	5 3.0%	13 7.7%	11 6.5%	169 100.0%
20代・30代 N=7	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	6 30.0%	8 40.0%	3 15.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	8 24.2%	11 33.3%	7 21.2%	4 12.1%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.1%	33 100.0%
60代 N=49	12 24.5%	7 14.3%	10 20.4%	7 14.3%	1 2.0%	6 12.2%	6 12.2%	49 100.0%
70代 N=47	15 31.9%	11 23.4%	6 12.8%	4 8.5%	2 4.3%	6 12.8%	3 6.4%	47 100.0%
80代 N=12	4 33.3%	2 16.7%	1 8.3%	4 33.3%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< 同行者別 >

- ・ 夫婦・恋人同士の場合「費用を見て判断したい」という回答が比較的多い。
- ・ 友人と参加の場合「参加したい」という回答が比較的多い。

	参加したい	時間に余裕ができれば参加したい	費用を見て判断したい	居住地近くの港から発着するのであれば参加したい	クルーズ自体に参加したいと思わない	その他	無回答	合計
総計 N=169	50 29.6%	40 23.7%	28 16.6%	22 13.0%	5 3.0%	13 7.7%	11 6.5%	169 100.0%
子供や孫、祖父母など家族で N=33	10 30.3%	9 27.3%	1 3.0%	7 21.2%	2 6.1%	2 6.1%	2 6.1%	33 100.0%
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	19 25.3%	16 21.3%	18 24.0%	9 12.0%	1 1.3%	7 9.3%	5 6.7%	75 100.0%
友人と N=35	13 37.1%	6 17.1%	3 8.6%	5 14.3%	2 5.7%	4 11.4%	2 5.7%	35 100.0%
1人で N=10	2 20.0%	4 40.0%	3 30.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
その他 N=14	5 35.7%	4 28.6%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	14 100.0%
無回答 N=2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%

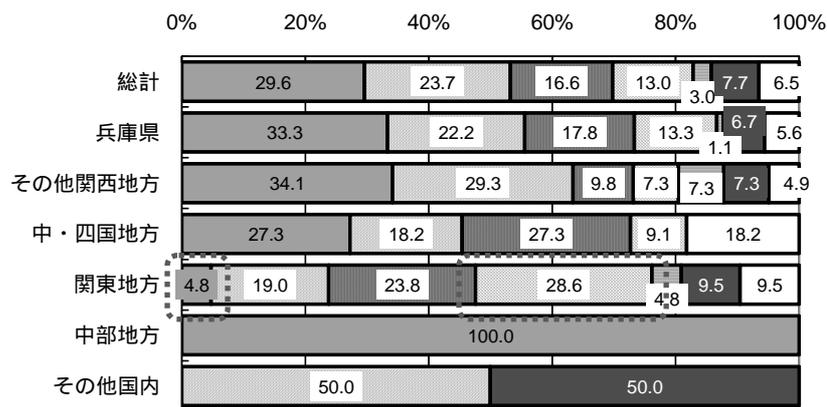


■ 参加したい	□ 時間に余裕ができれば参加したい
■ 費用を見て判断したい	□ 居住地近くの港から発着するのであれば参加したい
■ クルーズ自体に参加したいと思わない	■ その他
□ 無回答	

<居住地別>

・関東地方に在住の場合、「参加したい」が少なく「居住地近くの港からなら参加したい」が比較的多い。

	参加したい	時間に余裕があれば参加したい	費用を見て判断したい	居住地近くの港から発着するのであれば参加したい	クルーズ自体に参加したいと思わない	その他	無回答	合計
総計 N=169	50 29.6%	40 23.7%	28 16.6%	22 13.0%	5 3.0%	13 7.7%	11 6.5%	169 100.0%
兵庫県 N=90	30 33.3%	20 22.2%	16 17.8%	12 13.3%	1 1.1%	6 6.7%	5 5.6%	90 100.0%
その他関西地方 N=41	14 34.1%	12 29.3%	4 9.8%	3 7.3%	3 7.3%	3 7.3%	2 4.9%	41 100.0%
中・四国地方 N=11	3 27.3%	2 18.2%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	11 100.0%
関東地方 N=21	1 4.8%	4 19.0%	5 23.8%	6 28.6%	1 4.8%	2 9.5%	2 9.5%	21 100.0%
その他国内 N=6	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%



- 参加したい
- 費用を見て判断したい
- クルーズ自体に参加したいと思わない
- 無回答
- 時間に余裕があれば参加したい
- 居住地近くの港から発着するのであれば参加したい
- その他

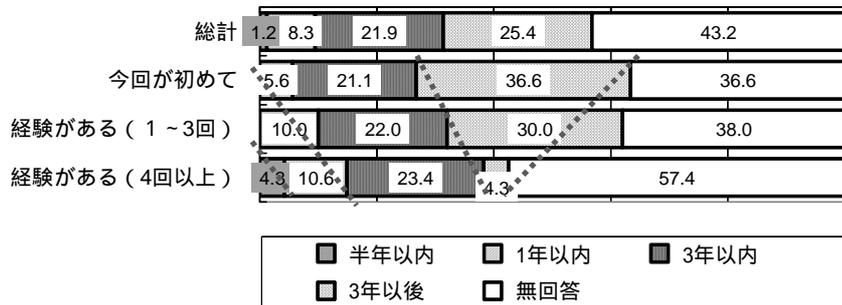
働き盛りの40, 50代では、時間的な余裕が参加への重要な条件であることが分かる。また、関東地方居住者の場合、発着港が近いことを参加の条件とすることが多いことから、関西地方・中四国地方といった近隣の居住者でかつシニア層のほうがせとうちクルーズのリピーターになりやすいと考えられる。

問 2 1 - 1 . 参加する場合の時期 / 今回と同じコースの場合

< クルーズ旅行の利用経験別 >

- ・利用経験が少ないほど「3年以後」という回答が比較的多い。
- ・利用経験が多いほど「半年以内」が多く「3年以後」が少ない。

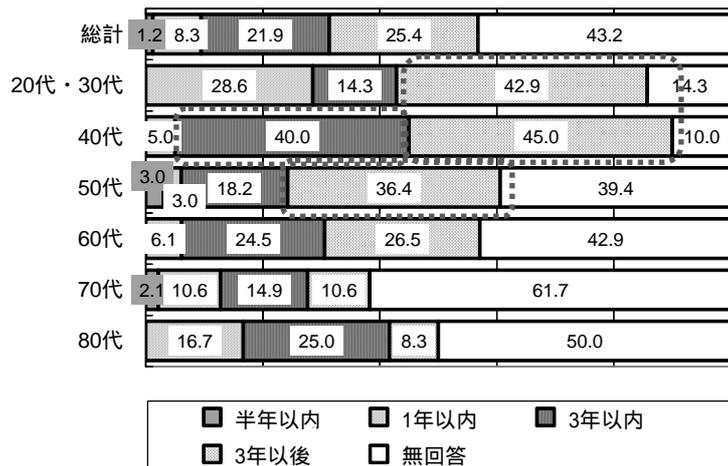
	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後	無回答	合計
総計 N=169	2 1.2%	14 8.3%	37 21.9%	43 25.4%	73 43.2%	169 100.0%
今回が初めて N=71	0 0.0%	4 5.6%	15 21.1%	26 36.6%	26 36.6%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	0 0.0%	5 10.0%	11 22.0%	15 30.0%	19 38.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	2 4.3%	5 10.6%	11 23.4%	2 4.3%	27 57.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%



< 年齢別 >

- ・「3年以後」という回答は20・30代、40代で比較的多い。
- ・「3年以内」という回答は40代で比較的多い。

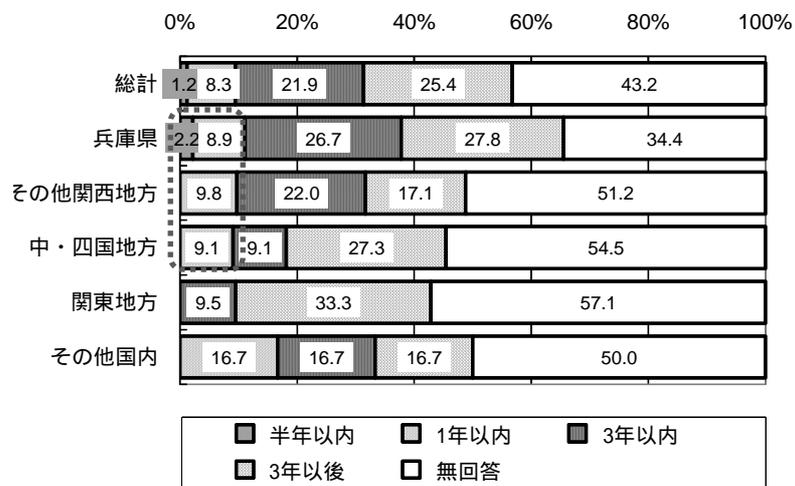
	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後	無回答	合計
総計 N=169	2 1.2%	14 8.3%	37 21.9%	43 25.4%	73 43.2%	169 100.0%
20代・30代 N=7	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	7 100.0%
40代 N=20	0 0.0%	1 5.0%	8 40.0%	9 45.0%	2 10.0%	20 100.0%
50代 N=33	1 3.0%	1 3.0%	6 18.2%	12 36.4%	13 39.4%	33 100.0%
60代 N=49	0 0.0%	3 6.1%	12 24.5%	13 26.5%	21 42.9%	49 100.0%
70代 N=47	1 2.1%	5 10.6%	7 14.9%	5 10.6%	29 61.7%	47 100.0%
80代 N=12	0 0.0%	2 16.7%	3 25.0%	3 8.3%	6 50.0%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%



< 居住地別 >

・「半年以内」「1年以内」といった早い時期での再参加意向は、近畿地方・中四国地方といった比較的近郊居住者に限られる。

	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後	無回答	合計
総計 N=169	2 1.2%	14 8.3%	37 21.9%	43 25.4%	73 43.2%	169 100.0%
兵庫県 N=90	2 2.2%	8 8.9%	24 26.7%	25 27.8%	31 34.4%	90 100.0%
その他関西地方 N=41	0 0.0%	4 9.8%	9 22.0%	7 17.1%	21 51.2%	41 100.0%
中・四国地方 N=11	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	3 27.3%	6 54.5%	11 100.0%
関東地方 N=21	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	7 33.3%	12 57.1%	21 100.0%
その他国内 N=6	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	6 100.0%



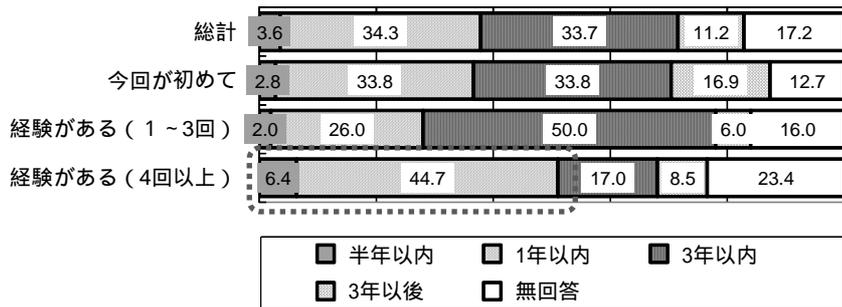
せとうちクルーズへの今後の参加時期は、「利用経験が多い」「40代」「瀬戸内海周辺に居住」といった層が比較的早い。リピーターを重視する場合、これらの層が重要になるものと考えられる。

問2 1 - 2 . 参加する場合の時期 / 今回と違うコースの場合

< クルーズ旅行の利用経験別 >

・「半年以内」「1年以内」といった早い時期での再参加意向は、4回以上の経験者に多い。

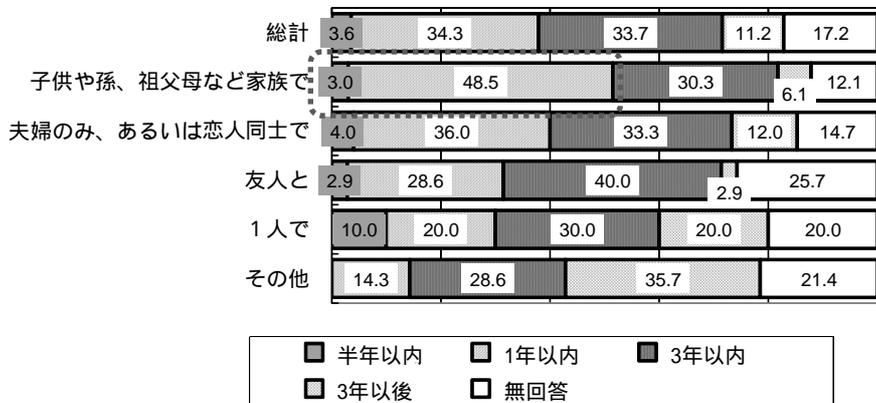
	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後	無回答	合計
総計 N=169	6 3.6%	58 34.3%	57 33.7%	19 11.2%	29 17.2%	169 100.0%
今回が初めて N=71	2 2.8%	24 33.8%	24 33.8%	12 16.9%	9 12.7%	71 100.0%
経験がある (1~3回) N=50	1 2.0%	13 26.0%	25 50.0%	3 6.0%	8 16.0%	50 100.0%
経験がある (4回以上) N=47	3 6.4%	21 44.7%	8 17.0%	4 8.5%	11 23.4%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%



< 同行者別 >

・「半年以内」「1年以内」といった早い時期での再参加意向は、家族での参加者に比較的多い。

	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後	無回答	合計
総計 N=169	6 3.6%	58 34.3%	57 33.7%	19 11.2%	29 17.2%	169 100.0%
子供や孫、祖父母など家族で N=33	1 3.0%	16 48.5%	10 30.3%	2 6.1%	4 12.1%	33 100.0%
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	3 4.0%	27 36.0%	25 33.3%	9 12.0%	11 14.7%	75 100.0%
友人と N=35	1 2.9%	10 28.6%	14 40.0%	1 2.9%	9 25.7%	35 100.0%
1人で N=10	1 10.0%	2 20.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%	10 100.0%
その他 N=14	0 0.0%	2 14.3%	4 28.6%	5 35.7%	3 21.4%	14 100.0%
無回答 N=2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%



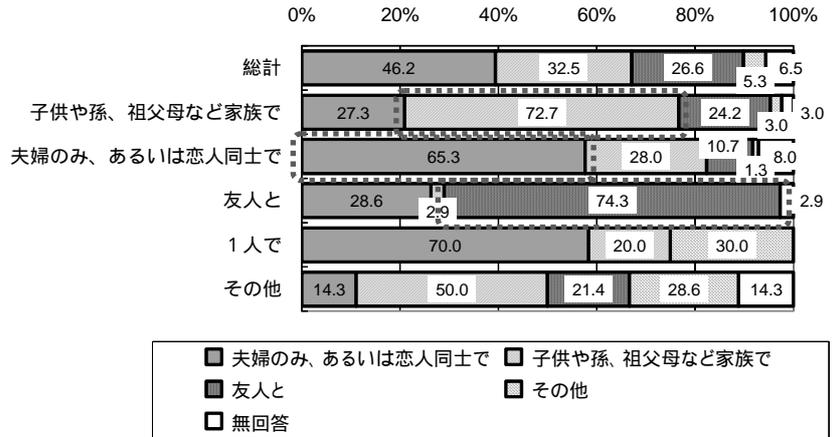
せとうちクルーズへの今後の参加時期は、「利用経験が多い」「家族で参加」といった層が比較的早い。リピーターを重視する場合、これらの層が重要になるものと考えられる。

問22. 参加する場合の同行者（複数回答）

< 同行者別 >

・多くの同行者層で、今回参加した形態と同じものが多く回答されている。

	夫婦のみ、あるいは恋人同士で	子供や孫、祖父母など家族で	友人と	その他	無回答	合計
総計 N=169	78 46.2%	55 32.5%	45 26.6%	9 5.3%	11 6.5%	198
子供や孫、祖父母など家族で N=33	9 27.3%	24 72.7%	8 24.2%	1 3.0%	1 3.0%	43
夫婦のみ、あるいは恋人同士で N=75	49 65.3%	21 28.0%	8 10.7%	1 1.3%	6 8.0%	85
友人と N=35	10 28.6%	1 2.9%	26 74.3%	0 0.0%	1 2.9%	38
1人で N=10	7 70.0%	2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	12
その他 N=14	2 14.3%	7 50.0%	3 21.4%	4 28.6%	2 14.3%	18
無回答 N=2	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2

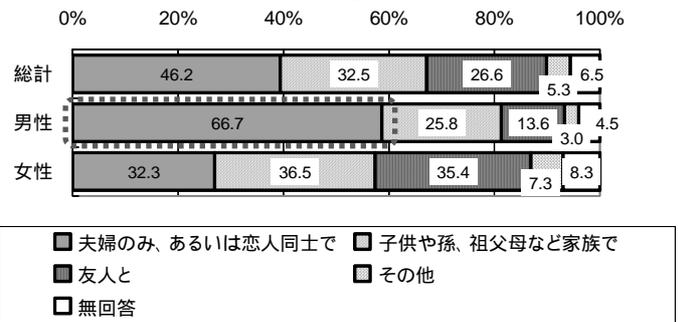


< 性別 >

・男性は「夫婦あるいは恋人と」という回答が比較的多い。

・女性は「夫婦あるいは恋人と」「家族と」「友人と」がほぼ同数回答されている。

	夫婦のみ、あるいは恋人同士で	子供や孫、祖父母など家族で	友人と	その他	無回答	合計
総計 N=169	78 46.2%	55 32.5%	45 26.6%	9 5.3%	11 6.5%	198
男性 N=66	44 66.7%	17 25.8%	9 13.6%	2 3.0%	3 4.5%	75
女性 N=96	31 32.3%	35 36.5%	34 35.4%	7 7.3%	8 8.3%	115
無回答 N=7	3 42.9%	3 42.9%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	8

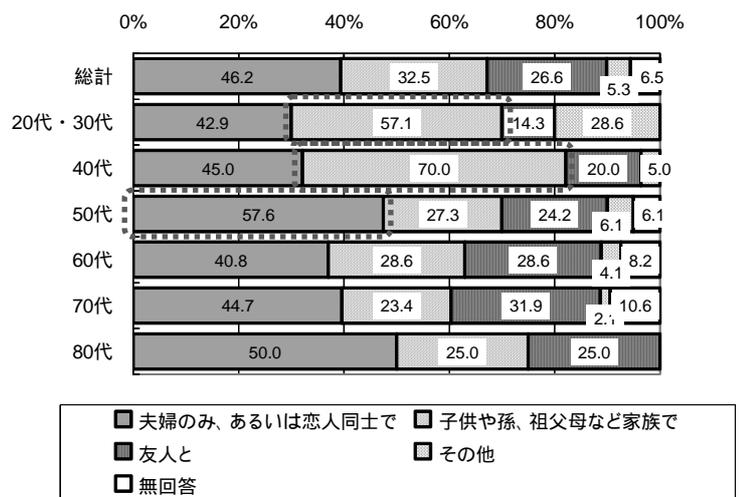


< 年齢別 >

・20・30代、40代では「家族で」が比較的多い。

・50代では「夫婦あるいは恋人と」が比較的多い。

	夫婦のみ、あるいは恋人同士で	子供や孫、祖父母など家族で	友人と	その他	無回答	合計
総計 N=169	78 46.2%	55 32.5%	45 26.6%	9 5.3%	11 6.5%	198
20代・30代 N=7	3 42.9%	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	10
40代 N=20	9 45.0%	14 70.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	28
50代 N=33	19 57.6%	9 27.3%	8 24.2%	2 6.1%	2 6.1%	40
60代 N=49	20 40.8%	14 28.6%	14 28.6%	2 4.1%	4 8.2%	54
70代 N=47	21 44.7%	11 23.4%	15 31.9%	1 2.1%	5 10.6%	53
80代 N=12	6 50.0%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	12
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1



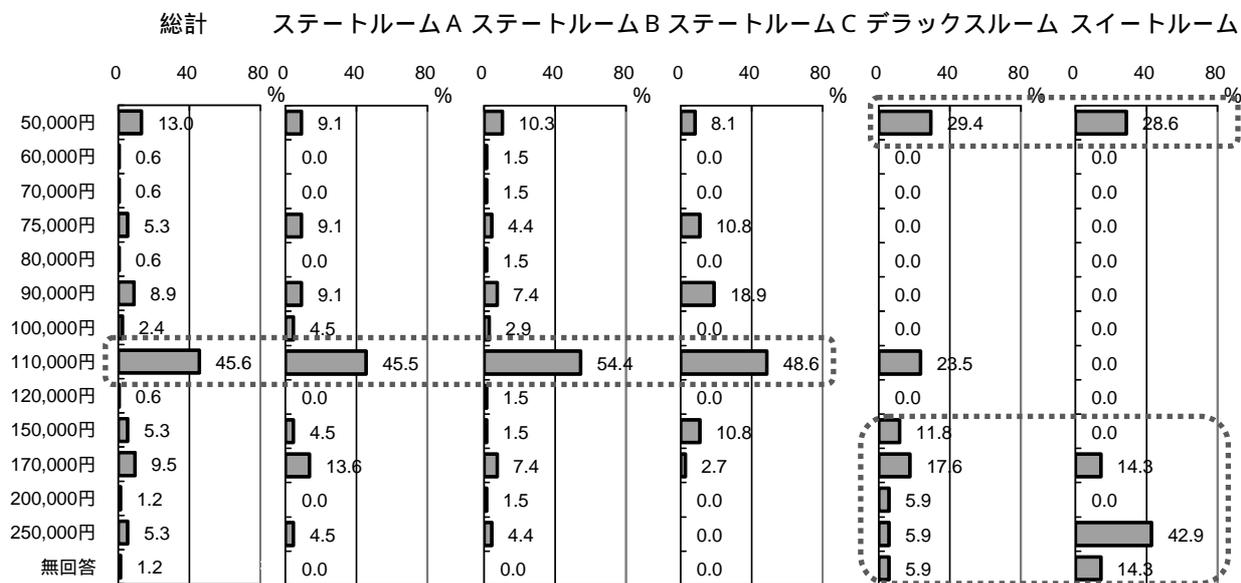
再び参加する場合、今回の同行者と同じ形態を希望する人が多いと考えられる。性別では男性が妻・恋人との参加を希望するのに対して女性のほうがさまざまな形態での参加を希望しており、選択肢が多くさまざまな機会をうまくとらえて旅行意欲を持つ女性層は、クルーズにとっても重要な顧客層と考えられる。

問 2 3 . 参加希望費

< 利用船室タイプ別 >

- ・全体に、「110,000 円」と答える割合がもっとも多い。
- ・ステートルーム A , B , C 利用者では「11,000 円」と答える割合が多い。
- ・デラックスルーム・スイートルーム利用者では「150,000 円」以上の回答が増える一方、「50,000 円」という回答の割合も比較的多い。

	50,000円	60,000円	70,000円	75,000円	80,000円	90,000円	100,000円	110,000円	120,000円	150,000円	170,000円	200,000円	250,000円	無回答	合計
総計 N=169	22 13.0%	1 0.6%	1 0.6%	9 5.3%	1 0.6%	15 8.9%	4 2.4%	77 45.6%	1 0.6%	9 5.3%	16 9.5%	2 1.2%	9 5.3%	2 1.2%	169
ステートルーム A N=22	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.1%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	10 45.5%	0 0.0%	1 4.5%	3 13.6%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	22
ステートルーム B N=68	7 10.3%	1 1.5%	1 1.5%	3 4.4%	1 1.5%	5 7.4%	2 2.9%	37 54.4%	1 1.5%	1 1.5%	5 7.4%	1 1.5%	3 4.4%	0 0.0%	68
ステートルーム C N=37	3 8.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 10.8%	0 0.0%	7 18.9%	0 0.0%	18 48.6%	0 0.0%	4 10.8%	1 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	37
デラックスルーム N=17	5 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 23.5%	0 0.0%	2 11.8%	3 17.6%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	17
スイートルーム N=7	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%	7
ロイヤルスイートルーム N=0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
無回答 N=18	3 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	8 44.4%	0 0.0%	1 5.6%	3 16.7%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	18



多くの参加者は参加費を妥当な金額と評価して、同額程度を参加希望費として答えることが多いと考えられる。一方で高額なデラックスルーム・スイートルームの参加者は費用面での評価が厳しくなることもあると考えられる。

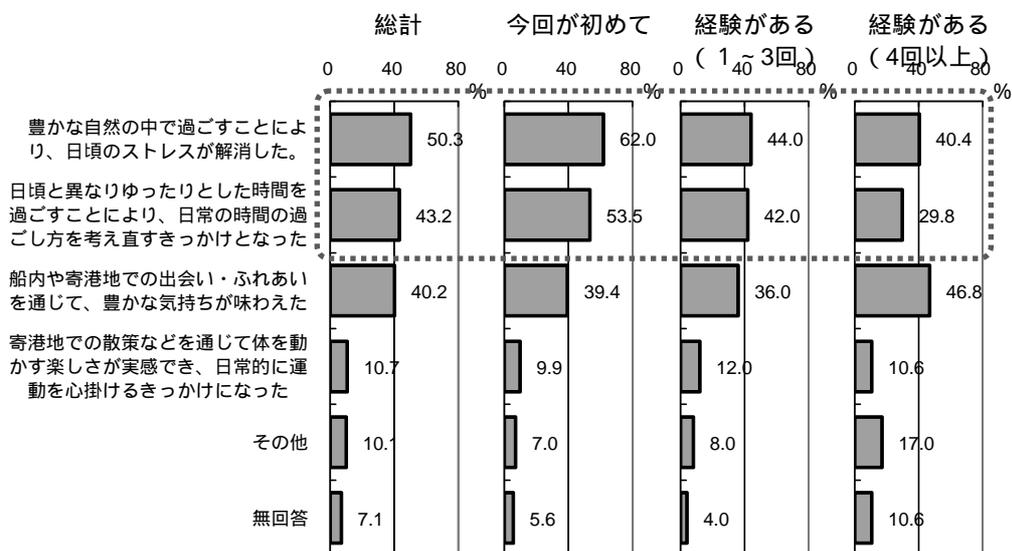
(7)「人にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”について

問24. 体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと(複数回答)

<クルーズ旅行の利用経験別>

- ・利用経験が少ないほど「日頃のストレスが解消した」「日常の時間の過ごし方を考え直すきっかけとなった」と回答する割合が多い。

	豊かな自然の中で過ごすことにより、日頃のストレスが解消した	日頃と異なりゆったりとした時間を過ごすことにより、日常の時間の過ごし方を考え直すきっかけとなった	船内や寄港地での出会い・ふれあいを通じて、豊かな気持ちが味わえた	寄港地での散策などを通じて体を動かす楽しさが実感でき、日常的に運動を心掛けるきっかけになった	その他	無回答	合計
総計 N=169	85 50.3%	73 43.2%	68 40.2%	18 10.7%	17 10.1%	12 7.1%	273
今回が初めて N=71	44 62.0%	38 53.5%	28 39.4%	7 9.9%	5 7.0%	4 5.6%	126
経験がある (1~3回) N=50	22 44.0%	21 42.0%	18 36.0%	6 12.0%	4 8.0%	2 4.0%	73
経験がある (4回以上) N=47	19 40.4%	14 29.8%	22 46.8%	5 10.6%	8 17.0%	5 10.6%	73
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1



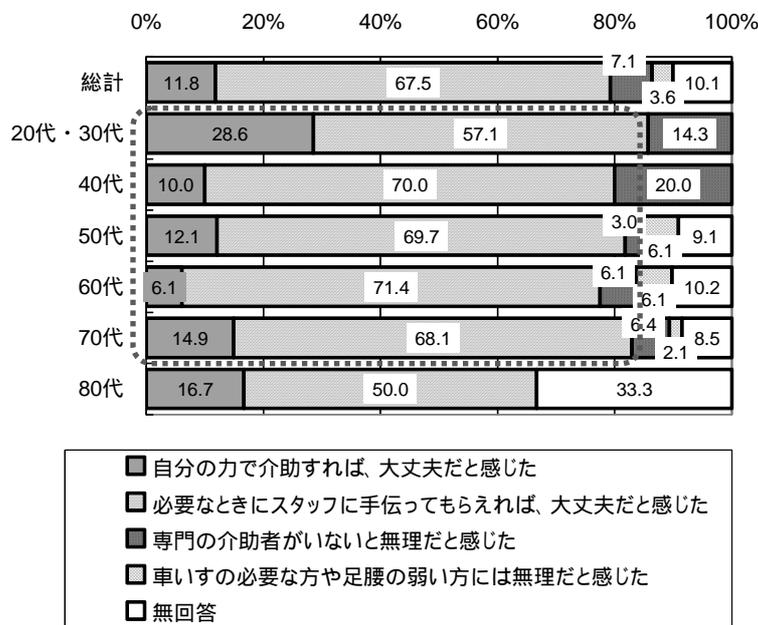
利用経験が多い人の場合、時間的・経済的余裕がある人が多く「ストレス解消」「時間の過ごし方を考え直す」ことにはつながりにくいものと考えられる。逆に利用経験が少ない人の場合は日常の多忙さから逃れることの快感につながりやすく、「健康」をテーマにしたクルーズ商品が受け入れられる可能性も高いと考えられる。

問 2 5 . 要介助者と一緒とした場合の、船内や港の過ごしやすさ

< 年齢別 >

- ・ 80 代を除いた年代で、「自分で介助すれば大丈夫」「必要な時に手伝ってもらえれば大丈夫」いずれかを選択した割合は大差なく 80%程度である。
- ・ 20・30 代では「自分で介助すれば大丈夫」という割合が他と比較して多い。

	自分の力で介助すれば、大丈夫だと感じた	必要なときにスタッフに手伝ってもらえれば、大丈夫だと感じた	専門の介助者がいないと無理だと感じた	車いすの必要な方や足腰の弱い方には無理だと感じた	無回答	合計
総計 N=169	20 11.8%	114 67.5%	12 7.1%	6 3.6%	17 10.1%	169 100.0%
20代・30代 N=7	2 28.6%	4 57.1%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	2 10.0%	14 70.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
50代 N=33	4 12.1%	23 69.7%	1 3.0%	2 6.1%	3 9.1%	33 100.0%
60代 N=49	3 6.1%	35 71.4%	3 6.1%	3 6.1%	5 10.2%	49 100.0%
70代 N=47	7 14.9%	32 68.1%	3 6.4%	1 2.1%	4 8.5%	47 100.0%
80代 N=12	2 16.7%	6 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	12 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%



クルーズ客船の旅行には、車椅子利用者と一緒に参加する場合でも楽しめるという安心感を持った参加者が多い。20・30 代では体力的な自信などから自分の力で大丈夫と答える割合が多いものと考えられる。

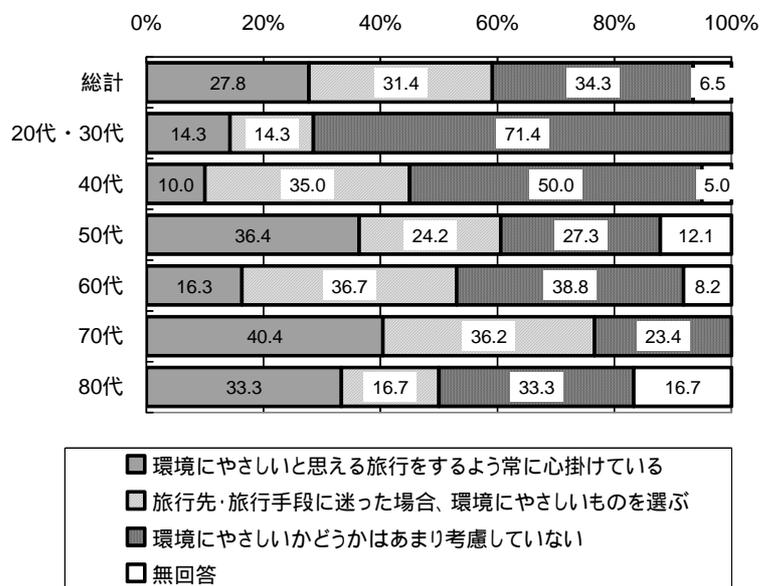
(8)「環境にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”について

問26. 旅行をするとき、「環境にやさしい」ことを考慮する度合い

<年齢別>

- ・「環境にやさしいかどうかはあまり考慮していない」という回答は、概ね年齢層が高いほど少ない。
- ・「環境にやさしい旅行を常に心がけている」は20・30代、60代で少ない。

	環境にやさしいと思える旅行をするよう常に心掛けている	旅行先・旅行手段に迷った場合、環境にやさしいものを選ぶ	環境にやさしいかどうかはあまり考慮していない	無回答	合計
総計 N=169	47 27.8%	53 31.4%	58 34.3%	11 6.5%	169 100.0%
20代・30代 N=7	1 14.3%	1 14.3%	5 71.4%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	2 10.0%	7 35.0%	10 50.0%	1 5.0%	20 100.0%
50代 N=33	12 36.4%	8 24.2%	9 27.3%	4 12.1%	33 100.0%
60代 N=49	8 16.3%	18 36.7%	19 38.8%	4 8.2%	49 100.0%
70代 N=47	19 40.4%	17 36.2%	11 23.4%	0 0.0%	47 100.0%
80代 N=12	4 33.3%	2 16.7%	4 33.3%	2 16.7%	12 100.0%
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



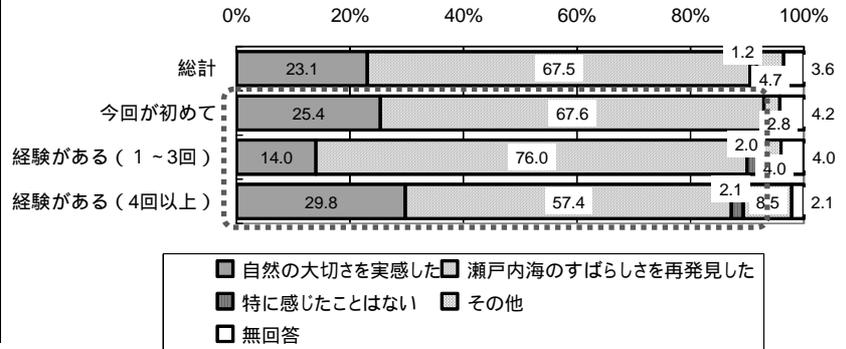
社会的関心が高いと思われる年齢層ほど、「環境にやさしい」ことを考慮するという傾向がうかがえる。

問27. 体験クルーズを通じて「自然」について感じたこと

< 利用経験別 >

- すべての利用経験層で「自然の大切さを実感した」あるいは「瀬戸内海の素晴らしさを実感した」と回答した人が多い。

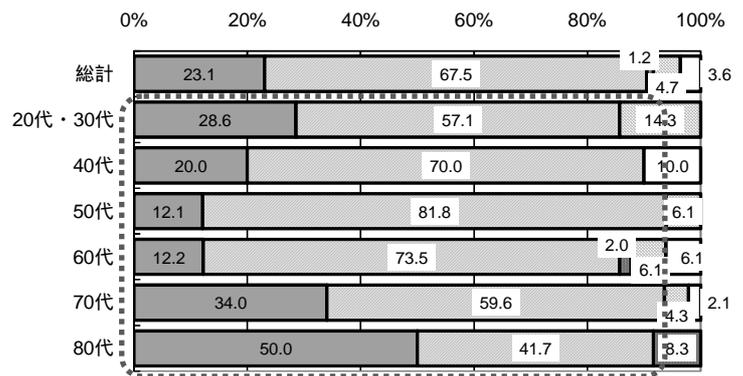
	自然の大切さを実感した	瀬戸内海のすばらしさを再発見した	特に感じたことはない	その他	無回答	合計
総計 N=169	39 23.1%	114 67.5%	2 1.2%	8 4.7%	6 3.6%	169 100.0%
今回が初めて N=71	18 25.4%	48 67.6%	0 0.0%	2 2.8%	3 4.2%	71 100.0%
経験がある(1~3回) N=50	7 14.0%	38 76.0%	1 2.0%	2 4.0%	2 4.0%	50 100.0%
経験がある(4回以上) N=47	14 29.8%	27 57.4%	1 2.1%	4 8.5%	1 2.1%	47 100.0%
無回答 N=1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< 年齢別 >

- すべての年齢層で「自然の大切さを実感した」あるいは「瀬戸内海の素晴らしさを実感した」と回答した人が多い。

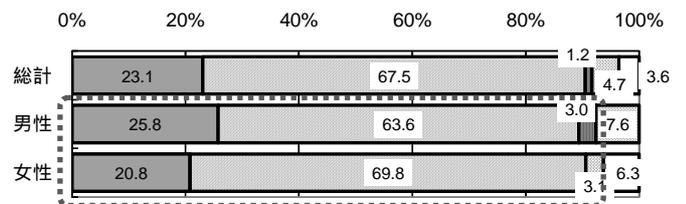
	自然の大切さを実感した	瀬戸内海のすばらしさを再発見した	特に感じたことはない	その他	無回答	合計
総計 N=169	39 23.1%	114 67.5%	2 1.2%	8 4.7%	6 3.6%	169 100.0%
20代・30代 N=7	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
40代 N=20	4 20.0%	14 70.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 10.0%	20 100.0%
50代 N=33	4 12.1%	27 81.8%	0 0.0%	2 6.1%	0 0.0%	33 100.0%
60代 N=49	6 12.2%	36 73.5%	1 2.0%	3 6.1%	3 6.1%	49 100.0%
70代 N=47	16 34.0%	28 59.6%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.1%	47 100.0%
80代 N=12	6 50.0%	5 41.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
無回答 N=1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%



< 性別 >

- 男女いずれも「自然の大切さを実感した」あるいは「瀬戸内海の素晴らしさを実感した」と回答した人が多い。

	自然の大切さを実感した	瀬戸内海のすばらしさを再発見した	特に感じたことはない	その他	無回答	合計
総計 N=169	39 23.1%	114 67.5%	2 1.2%	8 4.7%	6 3.6%	169 100.0%
男性 N=66	17 25.8%	42 63.6%	2 3.0%	5 7.6%	0 0.0%	66 100.0%
女性 N=96	20 20.8%	67 69.8%	0 0.0%	3 3.1%	6 6.3%	96 100.0%
無回答 N=7	2 28.6%	5 71.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%



年齢層や、性別・利用経験別などの区別なく、体験クルーズを通じて「自然」について肯定的なことを感じたといえる。

(9) 自由記述の記入内容 (一部抜粋)

質問区分	質問項目	記述内容
2その他	今回参加した動機 / その他	足が不自由でも参加できるから
2その他	今回参加した動機 / その他	幕末、明治に日本を訪れた外国人の瀬戸内海を絶賛する旅行記を読んで、味わってみたかった。
2その他	今回参加した動機 / その他	従来の航路以外の運行経由
2その他	今回参加した動機 / その他	瀬戸内海に惚れ込んでいるので。
3その他	今回のクルーズ全体の感想 / その他	瀬戸内の橋の美しさや寄港地での散策が特に良かった。
3その他	今回のクルーズ全体の感想 / その他	生口島での小学生の案内企画に関心
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	日本の瀬戸内海国立公園は世界に誇れる景勝地である。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	瀬戸田小学校の4年生のガイドさん、可愛くしっかりしていて感動した。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	夕日がきれいだった。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	瀬戸田の子供さんの案内で耕三寺、平山郁夫美術館に案内していただき、とても楽しい一時を過ごすことが出来た。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	瀬戸田小学生の案内がとても良かった。小学生からの絵入りの手紙をもらい感激した。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	瀬戸田小学生の町案内がとても良かった。子供たちとの交流ができて、いい企画だった。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	みかんの採れる時期に生口島を訪ねられたらもっと良かった。
4その他	「瀬戸内海」の感想 / その他	船内での一体感
10その他	神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスで改善すべき点 / その他	三宮への無料シャトルバスを出してほしい。
10その他	神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスで改善すべき点 / その他	神戸空港から直接の手段がない。
13その他	瀬戸田での過ごし方 / その他	生徒に平山郁夫美術館、耕三寺に連れて行ってもらった。とてもかわいく感心した。
13その他	瀬戸田での過ごし方 / その他	船で尾道に
13その他	瀬戸田での過ごし方 / その他	サイクリング
13その他	瀬戸田での過ごし方 / その他	釣り
13その他	瀬戸田での過ごし方 / その他	島の人々とお話
15その他	高松での過ごし方 / その他	朝一番にウォーキングで栗林公園へ行った。
15その他	高松での過ごし方 / その他	サイクリング
15その他	高松での過ごし方 / その他	香川県手配 / 栗林公園、中野うどん学校、金丸座
15その他	高松での過ごし方 / その他	フェリーで女不島へ行き、洞窟を見学。後はJR高松駅へ行き買い物、お茶をした。うどんを食べた。
15その他	高松での過ごし方 / その他	金比羅さん
18その他	船内での過ごし方 / その他	ショーを楽しんだ
18その他	船内での過ごし方 / その他	エステ
18その他	船内での過ごし方 / その他	図書室
18その他	船内での過ごし方 / その他	ダンス
18その他	船内での過ごし方 / その他	カラオケ、マーじゃん
18その他	船内での過ごし方 / その他	図書室
18その他	船内での過ごし方 / その他	プール
18その他	船内での過ごし方 / その他	ネイルケア、エステ

質問区分	質問項目	記述内容
18その他	船内での過ごし方 / その他	スポーツジム
18その他	船内での過ごし方 / その他	ショッピングやお茶など頂いてのんびり楽しんだ。
18その他	船内での過ごし方 / その他	アートクラフト教室、コサージュ作り
18その他	船内での過ごし方 / その他	朝に8Fプロムナードデッキのウォーク
18その他	船内での過ごし方 / その他	コサージュ作り、スポーツコーナー
19その他	今回のドレスコードについて / その他	短期クルーズなのでカジュアルがで無難だった。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	ゆったりと時を過ごすことが何よりクルーズのよいところ。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	瀬戸内海のよさの再発見
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	よく眠れて、体が休まった。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	日頃運動は心がけているが、お元気な高齢の方をみて自分も頑張らなくてはと思った。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	オプションツアーでめったに行けない所に行けた。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	瀬戸田の小学生とのふれあい、商店での交流がとても心に残り、一変に楽しいクルーズとなった。高松でのセレモニーに感動。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	大きな風呂が良かった。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	心が豊かになった。
24その他	今回の体験クルーズを通じて、自身の「健康」について感じたこと / その他	ひと時、日常生活を忘れることができた。
27その他	今回のクルーズで“自然”についての感じ方 / その他	自然の力の強さを感じた。
28	自由意見	いい企画をして頂いて感謝している。
28	自由意見	スタッフの皆さん、いつも笑顔で楽しい船旅を過ごさせて頂いた。また、すれ違いざまにも「今日は」「今晚は」の挨拶を頂き感激で、私達も見習いたいと思った。料理も美味しかった。満腹の上に、また美味しいケーキ、お菓子についつい手を出し、幸せ一杯。明日からは増えた体重を落とすのに苦しさ一杯。でも、船の上の旅は人の心を豊かにしてくれるのでまた来ます。
28	自由意見	現在足が不自由で心配していたが、おかげさまで楽しい日々を過ごすことが出来た。少し自信が持てた。まだまだ飛行機など乗り物は駄目だが、船なら大丈夫ということが解った。
28	自由意見	高齢者達にもっとアピールして利用されては如何でしょうか？
28	自由意見	先生方お二人のお話とっても良かった。1日目の先生、感激、感動した。また、田辺先生のお話は学生時代の合宿のようで、夜遅くまでダンスをせずに聞いた。こんなクルーズになるとは思いもよらなかった。
28	自由意見	ボランティアによる当地住民の方の説明が非常に高感度で良い。
28	自由意見	素敵な島々の風景を満喫、感激した。夕焼けの美しさ、一生忘れない。とてもいいクルーズ。スタッフの方々の親切なこと、本当にいいクルーズだった。 篠田先生の講演会は素晴らしかった。思わず涙ぐんだ。優しい気持ち伝わって、この船旅をして良かったとしみじみ思った。

質問区分	質問項目	記述内容
28	自由意見	少し身体を痛めている母のために参加した。スタッフの方やレストラン、クリーニング、フロント、チームワークも含めてとても努力が感じられ、笑顔の応対も素敵でいい思い出が出来た。それだけに、小さな連絡ミスが残念。今回は留守番組みの父や車椅子使用の妹の参加を考えると、何か約束事が変わったときは早めに教えていただきたいし、聴覚障害をもっていたりする方のためにも、目に、耳に誰にでもわかりやすく、ゆっくりと説明したり、字に大きく書いたり、マークを示したりする親切はこれから必要になるのではないか。ファッションブルなものも大切だが、やはりバリアフリーも必要だ。車椅子のスローブトイレがある様に、車椅子で一人の時は時間の約束もスタッフと協力して欲しい(普通のことがとても大変)。クルーズそのままでは「やさしい」からずいぶん離れているように感じる。すごい人手とエネルギーをすでに使っているような、申し訳ない気持ちも。ただ、年を重ねた方やなんらかの障害をお持ちの方にとって大切な旅行手段だと思う。
28	自由意見	コサージュ作りが面白く、さっそく食事のときに付けていった。田辺真人氏の講演がとても面白く、今後旅行するのに、「目的を持ち、知らないことを知り、学ぶ」きっかけになった。旅行の意味がわかった。
28	自由意見	「神戸を母港とする瀬戸内クルーズ」としては、ほかのパターンも数種類検討してはどうか。複数パターンが成立すると思う。ここ数年間、同友会・神戸市の協力を得て、試験実行を繰り返し、クルーズとして一人立ちできるようにして欲しい。
28	自由意見	和食の晚餐が大変美味しかった。スタッフの態度が良かった。
28	自由意見	生口島の小学生による歓迎がとても良かった。島での生活についての話も聞いて面白かった。
28	自由意見	参加できて大変嬉しいことだった。あっと言う間の2泊3日だった。好天気で、波静か、美しい夕日に出会い、命の洗濯ができた。
28	自由意見	寄港地での歓迎セレモニーは今後のクルーズに大事なこと。人と人とのつながりが大切だと思う。外人スタッフの応援も良かった。
28	自由意見	瀬戸田、高松の心温まる歓迎式典に感激した。
28	自由意見	瀬戸田、高松では町を挙げて歓迎して下さり、この事業にける思いが伝わってきた。桜の時期、みかんの時期、また訪れたい。
28	自由意見	私が16日夜中に38度以上発熱し、オプションツアー旅行を中止した。17日午前中フロントで熱さまし薬をお願いしたところ、さっそく看護師、船医の方に連絡して下さり、個室まで往診してもらった。適切なアドバイス、薬などを頂き感謝している。
28	自由意見	神戸を母港としてクルーズ客船が活動できることを期待する。瀬戸内海の景色、自然の宝庫、寄港地の方々の純朴さ、船内での交流、思い出深いものとなった。スタッフの皆様もホスピタリティの精神でつくろいだ。どんな方でも参加しやすい旅、口コミで広がると思う。

<アンケート調査票>

「せとうち・感動体験クルーズ」アンケート調査ご協力をお願い

この度は「せとうち・感動体験クルーズ」にご参加いただきありがとうございます。

今回のクルーズは、新しい“旅のカタチ”としての「神戸・瀬戸内クルーズ」の可能性を探るために企画されたものです。みなさまからの貴重なご意見を今後の参考にさせていただきたく、お手数ではございますがアンケートにご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートで頂戴した個人情報は、他の目的には一切使用いたしません。

「せとうち・感動体験クルーズ」実行委員会

「せとうち・感動体験クルーズ」に参加されるまでについてお聞きします。

1. 今回のクルーズを何でお知りになりましたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

旅行会社からのダイレクトメール	旅行会社の店頭パンフレット
新聞、雑誌等の記事	家族、知人等からの紹介
神戸経済同友会からの案内	その他()

2. 今回参加された動機は何ですか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

船から見る瀬戸内海の景色(島々、橋など)に関心があった	ゆったりとしたクルーズライフを味わってみたかった
寄港地での観光やグルメに興味があった	講演会など船内でのイベントに興味があった
船内や寄港地での出会い・ふれあいに興味があった	その他()

今回のクルーズの全体としての感想をお聞きします。

3. 今回参加されてみてトータルのいかがでしたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

期待以上に良かった	期待通り良かった	期待したほどではなかった
その他()		

4. 「瀬戸内海」はいかがでしたか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

海から見た景色が素晴しかった	グルメ、名所・旧跡などが素晴しかった
島々の港や街並み、人々の生活風景などが楽しかった	島ばかりが続く景色は単調で面白くなかった
グルメ、名所・旧跡には興味が向かなかった	港の街並みや生活風景は退屈だった
その他()	

5. 「船酔い」はいかがでしたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

波も穏やかで船酔いはなく快適だった	船酔いもあったが、問題ない程度だった
船酔いがひどかったので、今後船は乗りたくない	その他()

6. 次の項目の評価をお聞かせください。(当てはまる番号1つに をおつけください)

日程、コース	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
価格	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
神戸・寄港地での歓送迎	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
講演会などの船内イベント	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
船内の施設、スタッフの接客	満足	やや満足	普通	やや不満	不満

神戸港のアクセスについてお聞きします。

7. 今回のクルーズ参加にあたり、神戸までは主にどのような手段で来られましたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

飛行機を利用	鉄道(新幹線)を利用	鉄道(新幹線以外)を利用
旅客船を利用	長距離バスを利用	家族・知人等に車で送ってもらった
マイカーを利用	神戸に住んでいる	その他()

8. 神戸から神戸港中突堤旅客ターミナルまではどのような手段で来られましたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

最寄り駅から徒歩	最寄り駅からバスを利用	最寄り駅からタクシーを利用
家族・知人等に車で送ってもらった		マイカーで来て駐車場を利用
その他()		

9. 神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスの状況についてどう思われますか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

良い	普通	悪い
----	----	----

10. 神戸港中突堤旅客ターミナルへのアクセスで改善すべきと思われる点についてお聞かせください。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

バスの本数が少ない	バス停がわかりにくい	バス停が遠い
駐車場の遠い	駐車場がせまい	駐車場の場所が分かりづらい
バリアフリー化が不十分(高齢者・障害者が利用しにくい)	その他()	

発着地・寄港地での過ごし方についてお聞きします。

11. 今回のクルーズの前後に宿泊はなさいますか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

神戸で宿泊する	神戸以外の近隣都市で宿泊する	宿泊はしない
---------	----------------	--------

12. クルーズの前後に宿泊される場合の主な過ごし方についてお聞かせください。(当てはまる番号1つに をおつけください)

神戸での観光・ショッピング	神戸以外の近隣都市で観光・ショッピング	何もしない
宿泊はしない	その他()	

13. 瀬戸田ではどのように過ごされましたか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

「海から御手洗・歴史散策と大山祇神社参詣」に参加	「海から海へ鞆の浦・史跡散策」に参加	
「しまなみ海道と来島海峡を体感する」に参加	「村上水軍の歴史ロマンを訪ねる」に参加	
「平山郁夫美術館と大山祇神社」に参加	生口島で自由行動	船内で自由行動
その他()		

14. 瀬戸田で過ごされた感想をお聞かせください。(当てはまる番号1つに をおつけください)

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
----	------	----	------	----

15. 高松ではどのように過ごされましたか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

「アートな島 直島」に参加	「弘法大師のまち善通寺と東山魁夷せとうち美術館」に参加	
「醬の郷/蔵めぐりとしょうゆ会席」に参加	「オリーブ植栽百年・小豆島ハイライト」に参加	
高松で自由行動	船内で自由行動	その他()

16. 高松で過ごされた感想をお聞かせください。(当てはまる番号1つに をおつけください)

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
----	------	----	------	----

船内での“おもてなし”についてお聞きします。

17. 船内での食事について評価をお聞かせください。(当てはまる番号1つに をおつけください)

料理の内容	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
料理の量	満足	やや満足	普通	やや不満	不満

18. 船内ではどのように過ごされましたか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

篠田正浩氏の講演会	高橋毅氏の写真教室	田辺真人氏の講演会
ダンスパーティ	カジノ、ゲームコーナー	ミニシアター
せとうちアーカイブ	瀬戸内海の景色を楽しんだ	友人等との語らい
自室でのんびり	その他()	

19. 今回はすべてカジュアルに設定されていますが、ドレスコードについてはいかがでしたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

窮屈さがなくてよかった	もっと厳しいドレスコードであっても良かった
ドレスコードは気にならなかった	その他()

今後の“せとうちクルーズ”参加希望についてお聞きします。

20. また、“せとうちクルーズ”に参加したいと思いますか。(もっとも当てはまる番号1つに をおつけください)

参加したい	居住地近くの港から発着するのであれば参加したい
費用を見て判断したい	時間に余裕ができれば参加したい
クルーズ自体に参加したいと思わない	その他()

21. 参加される場合は、いつ頃になると思いますか。(もっとも当てはまる番号1つに をおつけください)

今回と同じコースの場合	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後
今回と違うコースの場合	半年以内	1年以内	3年以内	3年以後

22. 参加される場合は、どなたと参加してみたいですか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

子供や孫、祖父母など家族で	夫婦のみ、あるいは恋人同士で
友人と	その他()

23. 今回のようなツアーに参加されるとすれば、参加費はいくらまでならよいと思われませんか。(2泊3日で1人当りの金額をご記入ください)

<input type="text"/>	円くらいまでならよい。					
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------

「人にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”についてお聞きします。

24. 今回の体験クルーズを通じて、ご自身の「健康」という側面から見てどのようなことをお感じになりましたか。(当てはまる番号すべてに をおつけください)

豊かな自然の中で過ごすことにより、日頃のストレスが解消した。
日頃と異なりゆったりとした時間を過ごすことにより、日常の時間の過ごし方を考え直すきっかけとなった。
船内や寄港地での出会い・ふれあいを通じて、豊かな気持ちが味わえた。
寄港地での散策などを通じて体を動かす楽しさが実感でき、日常的に運動を心掛けるきっかけになった。
その他()

25. 今回の体験クルーズで、ご自身が車いすの必要な方や足腰の弱い方と一緒にであると考えた場合、船内や港での過ごしやすさについてどうお感じになりましたか。(当てはまる番号1つに をおつけください)

自分の力で介助すれば、大丈夫だと感じた
必要なときにスタッフに手伝ってもらえれば、大丈夫だと感じた
専門の介助者がいないと無理だと感じた
車いすの必要な方や足腰の弱い方には無理だと感じた

「環境にやさしい」視点からみた“せとうちクルーズ”についてお聞きします。

26. あなたは旅行をするときに「環境にやさしい」ということをどの程度考慮しますか。(もっとも当てはまる番号1つに をおつけください)

環境にやさしいと思える旅行をするよう常に心掛けている
旅行先・旅行手段に迷った場合、環境にやさしいものを選ぶ
環境にやさしいかどうかはあまり考慮していない

27. 今回のクルーズで“瀬戸内海”や瀬戸内の島々に触れられ、“自然”についてどのように感じられましたか。(もっとも当てはまる番号1つに をおつけください)

自然の大切さを実感した	瀬戸内海のすばらしさを再発見した
特に感じたことはない	その他()

その他

28. 今回の体験ツアーについてお気づきの点がありましたらお聞かせください。(瀬戸内海におけるクルーズについてお感じになった点や、寄港地や船内での“おもてなし”についてお気づきの点、高齢者・障害者など誰もがクルーズを楽しむために工夫できると思われる点など)

--

29. あなたのプロフィールをお聞かせください。(当てはまる箇所に をおつけください)

年齢(20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代)
性別(男性 ・ 女性)
居住地(大阪府 ・ 京都府 ・ 兵庫県 ・ 滋賀県 ・ 奈良県 ・ 和歌山県 中・四国地方 ・ 関東地方 ・ 中部地方 ・ その他国内 ・ 海外)
どなたと今回のクルーズに参加されましたか。
(子供や孫、祖父母など家族で ・ 夫婦のみ、あるいは恋人同士で ・ 友人と ・ 1人で ・ その他)
ご利用の船室タイプ
(ステートルームA ・ ステートルームB ・ ステートルームC デラックスルーム ・ スイートルーム ・ ロイヤルスイートルーム)
クルーズ旅行の利用経験
(今回が初めて ・ 経験がある(1~3回) ・ 経験がある(4回以上))
日頃の宿泊を伴う旅行の回数
(年に1回 ・ 年に2~3回 ・ 年に4回以上)

ご協力ありがとうございました。 ご記入いただいたアンケートは、お手数ですが5階のフロントもしくはツアーデスクまでお持ちくださいますようお願いいたします。

第 章 神戸・瀬戸内クルーズ関係者ヒアリング調査結果

1. 実施概要

寄港地ヒアリング

対象

- ・瀬戸田港（尾道市瀬戸田支所）
- ・高松港（香川県観光交流局）
- ・神戸港（神戸市みなと総局）

ヒアリング内容

- ・クルーズ客船寄港時の取組結果について
- ・クルーズの定点・定期就航による活性化への期待・課題について

有識者・事業者ヒアリング

対象

- ・阪南大学コミュニケーション学部 前田教授（ユニバーサルツーリズム）
- ・JTB ヘルスツーリズム研究所 高橋副所長（ヘルスツーリズム）
- ・株式会社コンチェルト 南部代表取締役（クルーズ事業者）
- ・日本クルーズ客船株式会社 上り坂専務取締役（クルーズ事業者）

ヒアリング内容

- ・神戸・瀬戸内クルーズの魅力について
- ・ユニバーサルツーリズム（ヘルスツーリズム）としてのクルーズについて
- ・定点・定期就航事業化について

2. 寄港地ヒアリング結果

神戸・瀬戸内クルーズ調査 寄港地ヒアリング（瀬戸田港）

日 時

平成 20 年 9 月 18 日（水） 14：00-15：10

場 所

尾道市役所瀬戸田支所

出席者

- ・尾道市瀬戸田支所 / 相原支所長
- ・同 地域対策課 / 杉野課長、久保氏
- ・関西交通経済研究センター / 坪倉常務
- ・ジェイコム / 福永

クルーズ客船寄港時の取組結果について

- ・瀬戸田港寄港の一連の行事の中では、瀬戸田支所で参加者へのおもてなしを担当した。通船や移動式の浮き桟橋（ポンツーン）の手配は、地元業者が担当した。
- ・港付近の商店街は、歓迎のチラシを各店が店先に掲示し、土産物を販売するなど組合をあげての対応を実施した。実施後も、多くの観光客が来てくれてありがたいとの声が聞かれた。
- ・地元の小学校からは、6年生が船内での歓迎セレモニーに出席し、4年生が瀬戸田の観光ガイドを務めた。総合学習の一環で瀬戸田のPRや観光案内の授業を実施しており、いい実践の機会だったと学校側からも好評であった。後日クルーズ参加者から学校にお礼の手紙が届き、生徒たちもとても喜んだようだ。
- ・地元ボランティアが10人ほどクルーズ参加者の観光ガイドを務めた。普段の観光ガイドはガイドから観光客への一方向の説明になりがちだが、今回のクルーズ参加者からは質問が出るなど双方向での会話をしながらの案内となり、ボランティアからも大変好評であった。
- ・通船の上陸と同じ時間帯に、鼓笛隊に扮した地元の幼稚園児が定期船の船長に花束を贈呈するイベントがあった。クルーズ側には事前にわざと伝えずに実施したため、クルーズ参加者にも喜んでもらったのではないかと。
- ・早い時間帯の通船はオプションツアーの参加者が多く、ガイドを必要とする参加者は少ないなどの情報は事前に得ていたが、小学生のガイドをどの時間帯に何人港に配置するか苦労した。船内の関係者と携帯電話で連絡を取り、通船に何人のっているか情報を得て対応した。

クルーズの定点・定期就航による活性化への期待・課題について

- ・クルーズの定期就航は、瀬戸田への訪問客の増加だけでなく、知名度の向上など様々なよい影響が期待できると考える。
- ・瀬戸田周辺の宿泊機能は、一人一泊15,000円程度の旅館レベルでは、港付近の二軒で80名程度である。他にも5,000円程度、定員10-20名程度の民宿が5軒ほどある。し

まなみ海道開通前と比較すると少なくなっており、宿泊機能のないクルーズ客船の定期化には現状での対応は難しいのではないかと。

- ・ イベントの場合は行政で対応できることが多いが、定期化すると行政のかかわりが少なくなってしまう。せとだ港房という NPO 法人を立ち上げて潮待ちイベントなどを実施しており、住民の積極的な参加を期待しているが、自ら行動を起こすまでは至っていない。
- ・ 小学校の生徒が参加してのおもてなしは、頻繁には実施しにくい。年一回くらいだとありがたい。

- ・ しまなみ海道が開通して以来、渡船業者は厳しい状況に置かれている。船に乗ること自体が少なくなり、現在はある船着き場近くにある病院への通院に活用するお年寄りが利用する割合が高い状況である。
- ・ 瀬戸田への観光客も、しまなみ海道が開通して瀬戸内海の島々に気軽に行くことができるようになって却って減少した。島にある海水浴場サンセットビーチも最盛期に比べると賑わいは小規模なものになっている。
- ・ 現在、瀬戸田への観光客は主にバスを利用してしまなみ海道を通過して来ているが、より多くの観光客を呼び込むためにはバスだけでは限界があると考えている。
- ・ 現在設備の充実を瀬戸田港全体で検討している。平成 21 年には、現在は最長 30m の棧橋を他の棧橋と連結して 50m 程度にする予定である。ほかにも、ターミナルビルの建て替えや港から耕三寺や向上寺への参道整備などを検討している。
- ・ 瀬戸田周辺の観光では、移動手段として自転車を利用することの認知度が高まっている。船で瀬戸田まで来て、四国まで行ったり島内のオブジェを見に行ったりしている。
- ・ 現在のクルーズ便としては、マルト汽船のバイキング号による瀬戸田 - 多々羅大橋コースがある。また瀬戸内海汽船のクルーズ客船「銀河」（総トン数 602 トン、長さ 58.85m、定員 400 人）がディナークルーズなどで年に 1・2 回は入港している。いずれも宿泊はなく遊覧のみ。宿泊機能を備えたクルーズ事業は、風の音舎が鞆の浦を起点とした比較的高額な商品を展開している。

神戸・瀬戸内クルーズ調査 寄港地ヒアリング（高松港）

日 時

平成 20 年 9 月 10 日（水） 14：00-15：30

場 所

香川県庁

出席者

- ・香川県観光交流局にぎわい創出課 / 佐藤課長補佐、笹岡副主幹
 - ・関西交通経済研究センター / 坪倉常務
 - ・ジェイコム / 福永
-
-

クルーズ客船寄港時の取組結果について

- ・取組みを通じて、関係者一同刺激を受けた。高松の魅力を発揮するには港を活用する必要があることを改めて感じた。また「やはり自分たちから働きかけなければ」と、具体的な事業の必要性を痛感し、歓迎の意を伝えることの意義を実感した。地元の参加者も、取組みに参加していれば出港時のテープセレモニーにも実感が沸くようだ。
- ・神戸・瀬戸内クルーズでの一連の取組みは、特別に予算を確保して実施した。また、県民ボランティアによるポートセールス（香川県サポート高松ポートセールス・サポーター制度）を実施している。
- ・高松港への客船の入港数は減少傾向にある。今後の高松港の PR 方法については、方向性・方法を現在検討しているところである。
- ・クルーズ参加者向けの県内観光商品は、既存の観光地だけではなく今までなかった魅力ある商品を提供する必要があると感じた。小豆島や直島のオプションツアーが満員だったのに対し、定番であるこんぴら詣でのツアーが定員に満たず不催行であったのは意外であった。
- ・寄港時に実施した物産展での売上は芳しくなかった。品揃えが高級なものに偏っていたようだ。定番の手頃な土産物にすればもう少し売れたのではないかと思われる。
- ・高松や香川の観光には、今回の滞在時間は短かった。クルーズとは呼べなくなってしまうかもしれないが、1日は必要である。

クルーズの定点・定期就航による活性化への期待・課題について

- ・定点・定期就航への期待は高い。平成 22 年には直島・小豆島などの島々を拠点とした瀬戸内国際芸術祭を開催するなど、官民をあげて瀬戸内海の魅力を発信する取り組みを進めている。瀬戸内海の特色である多島美をまとめて体験できる手段としてのクルーズには魅力があると思う。
- ・クルーズの参加者は一般の旅行者に比べて時間とお金に余裕がある人が多い印象があり、口コミなどアナウンス効果についても一般の旅行者に比べて期待できると考えている。
- ・高松港の周辺には宿泊施設が多くあるため、宿泊機能のない船舶による定点・定期就航にも不自由なく宿泊スペースを提供できる。ただしビジネスホテルが中心で手頃な

価格の施設が多いが、旅館はほとんどないことには留意する必要がある。また、小豆島にも観光ホテルが多く存在する。

- ・陸上交通による観光と比較したクルーズの魅力は優雅さ、自由さ、気楽さにあると考える。船で移動したとしても荷物を持って陸上で宿泊するのであれば、その魅力は半減してしまうのではないか。観光船とは趣を異にするものでなくてはクルーズらしくないと思われる。
- ・高松観光コンベンションビューローが定期的に小型船舶でディナー付サンセットクルーズを実施している。当日の天候に左右される商品のため、結果的に利用者は県内客がほとんどであり、今後、観光客へのPRを検討する必要がある。
- ・今回の来島海峡大橋ツアーのように、通常非公開のもの・場所を公開するツアーに参加できるなどしてプレミアム価値を高めたようなクルーズを実施してはどうか。

神戸・瀬戸内クルーズ調査 寄港地ヒアリング（神戸港）

日 時

平成 20 年 9 月 22 日（水） 16：00-17：00

場 所

神戸市役所

出席者

- ・神戸市みなと総局 / 花木参事（客船・ポートセールス担当部長）
 - ・関西交通経済研究センター / 貝野部長
 - ・ジェイコム / 福永
-
-

クルーズ客船寄港時の取組結果について

- ・出港式典には兵庫県知事・神戸市長も参加し、消防艇が就航を記念して出港時には放水を行い、ラジオ関西の協力により生中継や船内見学ツアーを実施するなどしたため、出港セレモニーは世界一周クルーズのときよりも盛り上がりを見せたのではないかと。
- ・寄港時は夜の 8 時頃で大きなイベントはなかったが、美しい夜景を見て参加者も感動していた。
- ・日本海事新聞の記事にこのクルーズに関して寄稿し、内容・成功要因・今後の展開について紹介した。成功要因として「穏やかな瀬戸内海」「素晴らしい景観」「工夫のこらされた船内イベント」「心温まる寄港地のもてなし」「瀬戸内海の食材を使ったおいしい料理」「寄港地観光の魅力」を挙げている。
- ・成功要因としては、その他に神戸経済同友会関係者の積極的な参加を挙げることができる。当事者自らが多く参加したことで大きく盛り上がり、集客も目途が立てやすかった。参加者の割合は同友会関係者・一般が半分ずつとなったが、バランスのよい組み合わせだったのではないかと。
- ・期間中は瀬戸内海の波が穏やかでほとんど揺れることがなかったのもよかった。
- ・船内イベントは、上映された映画が瀬戸内海を題材にしたものであるなど、趣向が凝らされた興味深いものが多かった。
- ・瀬戸田・高松の他寄港地における歓送迎も、瀬戸田では小学生、高松ではコーラス合唱団による合唱があり、ボランティアガイドによる案内があるなど心に残るものであった。

クルーズの定点・定期就航による活性化への期待・課題について

< 神戸港の活性化 >

- ・神戸港には年間 100 隻程度と多くの客船が入港しており、特定の客船の取り組みを優先して支援するという事は難しいが、せとうちクルーズは神戸港全体の活性化に寄与するものであり、今後も応分の協力をしていきたい。
- ・現在入港する客船 100 隻のうち、外国船が 20 隻で残りは日本船である。現在は外国船の寄港が増えるよう注力している。国内のクルーズ事業者には寄港を予めから勧誘しており、寄港数がこれ以上大きく増える状況にはない。

<せとうちクルーズの内容>

- ・瀬戸田・高松での歓送迎は、単発のイベントとして実施したからこそ受け入れ態勢が整っていたように感じる。継続的な事業として実施するには、一定以上のサービス水準の確保が課題となるだろう。
- ・寄港地や船内イベントの内容は同じものばかりを実施していたのではリピーターは期待できない。期間を長くする・寄港地を変えるなど工夫が必要となるだろう。寄港地を今回と異なる場所にしたモデルツアーを再度実施することはできないだろう。
- ・もっとゆっくりしたスケジュールの中で船内イベントに参加できればよかった。二泊三日のスケジュールに対して詰め込まれすぎている印象がある。たとえば田辺先生の講演はとても面白かったが時間を要したため、講演の参加者は他のイベントになかなか参加できなかった。
- ・今回のテストクルーズ参加者は全体に知的レベルが高く、好奇心旺盛であった。今回参加者層は特殊な事例と考えて、クルーズのすそ野が広がった時にどのような層が参加者となるかは考えておかないといけない。

<定点・定期化のあり方>

- ・宿泊機能のない数千トン級の既存船舶による航海と寄港先での宿泊による、クルーズ事業の展開はよいアイデアだと思う。「海・船に親しむ」というコンセプトで実施してはどうか。船舶も大型クルーズ客船ではなくフェリーでもよいのではないか。またクルーズでも船の中に泊まる必要は必ずしもないように思う。宿泊先が寄港地の民宿、というのも味があっていいのではないか。陸上だけ、海だけというのではなく、資源を複合的に活用すればよいと思われる。
- ・陸上交通とは異なるクルーズの最大の魅力は「寄港地・船内での出会い・触れ合い」だと思う。「動くリゾートホテル」と言われるように、参加者が一緒になって楽しめるところに、普通の旅プラスアルファの魅力があるのではないか。

<クルーズ振興の考え方>

- ・クルーズの振興は、瀬戸内海の魅力を味わう仕組みの一部としての船の使い方を考えるべきである。船ありき、レジャー・イベント・講師ありきで内容を考えてはいけない。大型クルーズ客船ほど高くなく、フェリーほど速くない、人のニーズに合わせてゆっくりと回遊するような内容と使い方がよい。
- ・宿泊場所への移動手段としてクルーズを利用し、「ヴィラ&クルーズ」というコンセプトで展開する風の音舎の取り組みは面白い。そのような利用が定点・定期で利用できる仕組みができればよいのではないか。

<クルーズ市場>

- ・レジャークルーズは高額路線が一般的だが、ポピュラーにしすぎると魅力が少なくなってしまう。業界全体が狭い範囲にとどまっている印象があり、異業種からの新しい参入者を期待したい。

- ・アメリカで一般的な一泊一万円程度と低価格のクルーズ商品を作るためには、2000人程度に収容人員を増やして一人当たりコストを下げられるよう船舶の大型化が必要になる。しかし瀬戸内海は200m以上の船舶は夜間規制があるなど大型船は航行しにくい場所である。航行しやすくするためには小型化が必要であるが、収容人員が少ないと低価格商品を作ることは難しいというジレンマがある。
- ・顧客のターゲットは、普段瀬戸内海を知る機会のない北海道・東北がよいのではないか。また外国からのフライ&クルーズも面白いのではないか。バハマ籍のクルーズ客船スピリット・オブ・オセアノス号による神戸港発・屋久島行きは、飛行機でやってくるアメリカ人など外国人に反響が高い。

3. 有識者・事業者ヒアリング結果

神戸・瀬戸内クルーズ調査 寄港地ヒアリング（クルーズ事業者）

日 時

平成 20 年 11 月 5 日（水） 14：00 - 15：30

場 所

コンチェルト本社

出席者

- ・株式会社コンチェルト / 南部代表取締役社長
- ・関西交通経済研究センター / 貝野部長
- ・ジェイコム / 福永

せとうち・感動体験クルーズの感想

- ・総体としてとてもよかったと思う。瀬戸田では普段は人通りの少ない商店街に多くのお金を落とすことができるなど、寄港地にとっても活性化につながったのではないかと。オプションツアーも素晴らしかった。
- ・地元神戸にも経済的な貢献は大きかったのではないかと。航海を終えて帰港した際、中突堤旅客ターミナルには多くの荷物を持った参加者がタクシーを待つ長い行列を作っていた。自分が乗ったタクシーの運転手の方からは喜びの声が聞かれた。
- ・同時に、細部に関しては、焦点を絞れていなかった印象を持っている。テーマが、船の外で瀬戸内海を楽しむのか船中のイベントを楽しむのか、どちらかはっきりしなかったために内容が盛りだくさんになってしまったのではないかと。
- ・たとえば、篠田先生の講演で淡路島や宇高連絡船の話題が出ていたが、ちょうど講演中に通過したため眺望を眺めることができなかった。講演の時間を前後に調整すれば眺望と講演を相乗的に楽しめたのではないかと。眺望については、食事の時間と日の入りの時間が重なってしまい十分に楽しめないこともあった。3日目の船上ディナーは神戸に近づいてから盛り上がりを見せたので、もう少し時間があればともったいない印象を受けた。
- ・せとうちアーカイブについては、各自治体が積極的なPR活動を行っていたが、3日間で瀬戸内海沿岸のより多くの自治体が入り替わってもよかったのではないかと。あまり代わり映えがしないという印象を受けた。
- ・クルーズ終了後、検討はしたが結局参加しなかった人に何人か会ったところ、不参加の理由は参加費用が高いとのことであった。

定点・定期事業化について

<事業形態>

- ・せとうちクルーズの定点・定期事業化には、顧客の裾野を広げ参加頻度を高める必要があるが、それには妥当な価格設定が必要だろう。2泊3日で5万円までではないかと。
- ・コンチェルトは乗船料が2,100円に加えて、1,000円程度でフリードリンクを付けば3,000円程度でクルーズを楽しむことができる。この価格帯だからこそ採算を確保して

運航できている。経済的な余裕に乏しい昨今の状況の中、絶対的に必要なものではないクルーズに対して、価格面で女性を中心とした消費者の目は厳しい。

- ・クルーズの魅力は、実際に乗って実感しなければ理解することは難しい。販促活動の一環として、そごうと提携して無料乗船券を配布している。無料券で魅力を実感して再び乗船することを狙った取り組みであるが、費用が数万円もする宿泊付きクルーズではそのような提携をすること自体が難しい。
- ・10月に神戸港に寄港した米国クルーズ・ウエスト社のスピリット・オブ・オセアヌスは総トン数 4,200 トン・旅客定員 114 名であった。せとうちクルーズにもこの程度の定員がちょうどよい印象である。

<人件費の抑制>

- ・クルーズ客船事業費全体の抑制において、重要な要素は人件費である。大阪 - 釜山航路に就航するパンスターサニーは、ロシア系のスタッフを雇い魅力づくりと同時に人件費を抑制しているが、海外の船員を雇うことはカボタージュ規制により国内航路では不可能である。
- ・瀬戸内海だけを 2 泊 3 日程度で航行する場合に限り、船員法ではなく労働基準法を適用できる特区的な制度などが実現できないものか。神戸リゾートラインのヴィラジオ・イタリア、神戸ベイクルーズのロイヤルプリンス、早駒運輸のファンタジーなどの遊覧船は、神戸港のみの航行であるために船員法ではなく労働基準法の適用を受ける。このため、神戸港外も航行するコンチェルトやルミナス 2、その他一般的なクルーズ客船の船員と比較すると、基本給に加えて乗船費・食事費などを支払う必要がなくその分人件費を抑制できている。

<既存船舶の活用>

- ・コンチェルトを活用した 2 泊 3 日のせとうちクルーズの実現には、宿泊施設と航行区域の課題がある。コンチェルトには宿泊機能がないため寄港地の宿泊施設を利用する必要がある。また、防火扉など船内設備が十分でなく現在の最高航行速度が 12 ノット程度のため、明石海峡より内側の平水区域しか航行できない。
- ・採算性の観点からは、現在の稼働状況による収益と同等もしくはそれ以上のものを実現する必要がある。現在、コンチェルト 1 回 1 時間半程度を 1 日 4-5 回運航しており、一回の乗客は 2-300 名程度である。ゆったりとした空間とするためには乗客を 100 名程度に抑える必要があり、一人あたりの参加費用は 15 万円程度になるのではないか。
- ・他の予約と重ならなければ 3 日程度スケジュールを確保することは可能である。修学旅行の予約は 1 年前には入るため、さらに半年前の 1 年半ほど前にはスケジュールを決めておく必要がある。1 年前程度であれば春・秋のハイシーズンは他の予約との調整が難しく、冬の寒い時期は参加者を集めることが難しいだろう。
- ・廃船となった旅客フェリーの活用についても、今後検討したい。

神戸・瀬戸内クルーズ調査 有識者ヒアリング（クルーズ事業者）

日 時

平成 20 年 12 月 26 日（金） 10：00 - 11：00

場 所

日本クルーズ客船本社

出席者

- ・日本クルーズ客船株式会社 / 上り坂専務、松田主任
 - ・関西交通経済研究センター / 坪倉常務
 - ・ジェイコム / 福永
-
-

1. 神戸・瀬戸内クルーズの定点・定期就航事業化について

- ・日本クルーズ客船は外航事業者なので、専門外の内航の定点・定期事業に対して具体的・専門的な見解を述べることは難しいが、収益性のある定点・定期事業の実現は非常にハードルの高い取り組みという印象を持っている。
- ・多島美をはじめとして瀬戸内海自体には確かに魅力がある。しかし、事業を行う場合に必要な投資を回収できるだけの採算性の確保と、消費者の望む価格・内容の実現は両立することは難しいのではないかと懸念している。小さい船であれば定点・定期事業も実現可能、という話ではない。
- ・採算性を確保できるだけの潜在的なニーズはあるのだろうか。今回の体験クルーズも結果的には満席となったが、当初は十分な集客ができないのではと懸念していた。それ以外にも、ぱしふいっくびいなす号で神戸発の瀬戸内海クルーズを年に 1, 2 回実施しているが、その程度の頻度でも集客は難しい。
- ・屋久島や石垣島へのクルーズの場合、瀬戸内海は基本的に寄港することもない通り道になっている。クルーズの主要な顧客である時間とお金に余裕がある人たちは、瀬戸内海は鉄道や車でも行ける場所でもあり、屋久島や沖縄に行く途中にわざわざ立ち寄りたいたいと思えるような魅力を感じていないということでもある。
- ・採算性を確保するならばぱしふいっくびいなすの想定と同程度の 1 泊 4 万円程度と思われる。1 泊 1 万円程度であれば消費者は割安感を感じると思われるが、少なくとも日本では実現が難しい。外国船では 1 泊 100 ドル程度でも販売しているのは、カジノでの収入が全体の 3 分の 1 程度を下支えしているために可能になるためであり、日本の現行制度でカジノにより収入を得ることはできないため実現できない。
- ・顧客は大阪・兵庫・京都など神戸港周辺だけでなく、首都圏を重視する必要があるだろう。神戸港発着で多島美などの魅力をいかした瀬戸内海 2 泊 3 日のクルーズは確かに手頃なものであるが、寄港地として石垣島・屋久島に伍するものは見当たらない。
- ・日本人はいわゆる社交の経験が少ない人が多く、土日祝日以外の休みも少ないのでなじみにくい部分がある。家族連れは金・土・日でないと多くの顧客を集められないだろう。定期事業であれば平日は 70 歳以上のシニア層が主要な顧客になるだろう。
- ・寄港地の魅力向上と同時に、クルーズ本来の楽しみ方を周知することも必要と感じている。クルーズとは本来は洋上でゆったりとした時間を過ごすものであるが、日本人

は「旅先でなにもしない」ことにはなじみにくい。「どこにも立ち寄らず、のんびり瀬戸内海を巡る」クルーズを実施してもある程度人が集まるのであれば、寄港地の魅力とも相まってせとうちクルーズ自体の可能性が開けるのではないかと考える。

- ・瀬戸内海が穏やかな内海とはいえ、波による揺れを少なくすることは重要である。
- ・四季という観点では、春・夏・秋はまだしも冬の集客が難しいだろう。ぱしふいっくびいなす号の場合、冬は毎年寒くない南半球に行っている。
- ・船を多く所有する事業者が運営したほうが、人件費の効率を上げることができる。予備船員を抱える必要があるため、1隻よりも2隻、2隻よりも3隻保有したほうが、1隻あたりの予備船員の人件費は抑えられる。
- ・定点事業化の大きな課題は、関東からの集客と、電車・車などの他手段との差別化ではないか。近畿地方の在住者にはわざわざ瀬戸内海を船で巡ることは魅力を感じにくいと考えられる。
- ・定点事業のメリットは、本部の人件費を抑えられることではないか。ぱしふいっくびいなす号のように航海ごとに内容が異なるわけではないので、企画・調達などにかかる人件費があまり必要ない。

2. その他、ぱしふいっくびいなす号によるクルーズ事業など

- ・クルーズは実際乗ればその楽しさを誰もが実感するが、実感していない人が多いことが課題。乗ったことがない人にいかにその魅力を伝えるかが難しい。
- ・クルーズの魅力は、食事・船内イベント・寄港地のオプションツアーの3つが多くを占めると考えている。
- ・クルーズの種類によって異なるが、概ね3割から5割程度がリピーターである。
- ・長期の航海では平均年齢は70歳弱である。団塊世代に期待しているが、まだ主要な位置を占めるに至っていない。
- ・日本は周囲を海に囲まれた国にも関わらず、船旅が流行らないことを不思議に感じている。鉄道や車などの陸上交通機関が発達していることも一因ではないか。
- ・日本には島や離島だけでも600程度もあると聞いたことがあるが、そのほとんどに港がなく大きな船が入ることはできない。また港があっても多くの来訪者を一度に受け入れ態勢が整っていないところも多く、たとえば直島はベネッセ美術館があり寄港を検討したものの、受け入れ態勢が整わないため実現できなかった。
- ・自治体によるポートセールスが積極的な港には寄港することが多い。寄港の誘いを受ける際はいつも、港の整備をお願いしている。屋久島・奄美大島・宿毛・土佐清水などから熱心な寄港の誘いを受けており、寄港時には盛大なセレモニーを実施してくれる。

神戸・瀬戸内クルーズ調査 有識者ヒアリング（ユニバーサルツーリズム）

日 時

平成 20 年 12 月 22 日（月） 13：30 - 14：30

場 所

阪南大学

出席者

- ・ 阪南大学国際コミュニケーション学部 / 前田教授
 - ・ 関西交通経済研究センター / 坪倉常務
 - ・ ジェイコム / 福永
-
-

1. せとうち・感動体験クルーズの印象・感想

- ・ 瀬戸内海は日本における近代観光の原点であり、船で巡ること自体が意義深いものとする。トーマスクックが実施した世界一周旅行の目玉の一つが瀬戸内海であり、美しい内海の景色は、日本の国際的価値を高めるきっかけとなった。またこの世界一周旅行は蒸気船で行ったものでもある。
- ・ 瀬戸内海の島々が有するさまざまな魅力を遺憾なく味わう手段として、クルーズ客船は最適である。鉄道や車の普及、橋の架設により、瀬戸内海周辺の移動に関する利便性は確かに向上したが、観光という視点そのものから瀬戸内海を味わう手段は長らく検討されてこなかった。
- ・ 現在、外国人に対して観光地としての瀬戸内海の知名度は必ずしも高くないが、このような経緯からも、瀬戸内海の魅力はむしろ外国人にこそ訴求力があるのではないかと。
- ・ 外国人向けの日本のガイドブックでは瀬戸内海そのものをアピールしていないのではないかと。世界遺産の宮島は有名だが、瀬戸内海というイメージとはつながっていないように思われる。

2. ユニバーサルツーリズムとしてのクルーズについて

- ・ だれでも旅行を楽しめるようにすることを目的としたユニバーサルツーリズムは、神戸や旭川・沖縄などの着地側で、障がい者の受け入れ態勢を構築する取り組みが進められている。受け入れ態勢の構築に伴って、障がい者の潜在的な旅行需要が喚起されるため、今後の発展に期待が持てる事業形態と考えている。
- ・ クルーズとユニバーサルツーリズムは相性が良い。クルーズ客船は移動・宿泊・食事が一つの施設で対応できるため、障がい者・介助者双方にとって快適な旅行を体験しやすい環境である。昨年度にはコンチェルトの協力を得て、車椅子の参加者による神戸港内のクルーズを実施し、障がい者・介助者にとって快適な旅行が楽しめることが実証された。
- ・ これまで旅行する機会自体があまり提供されていなかったが、基本的に障がい者は健常者と変わらず意欲的で行動的であり、旅行は諦めるもしくは行ける範囲で我慢してきた人が多いので、潜在的な市場は大きい。現在の取り組みでも、障がい者・介助者いずれからも感激されることが多い。バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方

が普及・常識化したこれからの社会においては、新しい観光の原動力になっていくことが考えられる。

- ・ユニバーサルツーリズムの今後の課題として、ホテル・観光・交通などさまざまな事業者のネットワーク化、専門の流通チャネルの確立などが挙げられる。さまざまな事業主体が連携した協議会などによる運営体制を作っていく必要があるが、この中にクルーズを結び付けていくことも可能ではないか。宿泊・旅行・食事をすべて対応できる、いわばオール・インクルーシブな施設であるクルーズ客船が事業者ネットワークの輪に入ることは非常に意義深いものとする。
- ・宿泊クルーズによるユニバーサルツーリズムはまだ実現されていないが、ユニバーサルツーリズムの事業者とクルーズ客船事業者の連携による事業運営も考えられるのではないか。
- ・障がい者・介助者には、普段の介護がどれだけ旅先でできるのか不安がある。このため、発地側主導で進められてきたこれまでの取り組みでは、物理的なバリアフリー化がしっかりとされた場所などに限定されてきた。着地側で受け入れ態勢を構築することで訪問先のバリアフリー対応などにもきめ細かく対応することが可能となり、より多くの障がい者が気軽に旅をすることが可能となる。
- ・せとうちクルーズにおいてユニバーサルツーリズムの受け入れ態勢を作るには、人工透析の設備をそろえるなどクルーズ客船の設備も重要となる。富裕層の高齢者を対象とした老人ホームと連携することも考えられるのではないか。
- ・ユニバーサルツーリズムの取り組みは、贅沢品をつくるというのではない。障がい者にも旅行を日常の一部として楽しめるようにすることである。旅行を通じて障がい者・介助者双方に夢のある日常を提供することは、これからの社会に不可欠な取り組みだと思われる。

神戸・瀬戸内クルーズ調査 寄港地ヒアリング（ヘルスツーリズム有識者）

日 時

平成 20 年 10 月 7 日（水） 19：30-20：30

場 所

ジェイコム本社

出席者

- ・JTB ヘルスツーリズム研究所 / 高橋副所長
 - ・ジェイコム / 加藤、福永
-
-

ヘルスツーリズムとしてのクルーズについて

- ・瀬戸内海クルーズの定期事業化にあたって、対象となる顧客の地域や年齢層、あるいは定期化の頻度はどのように考えるか明確にする必要があるのではないかと。これらを明確にすることができれば、ヘルスツーリズムとしてのクルーズの内容を具体的に検討する場合も可能となる。
- ・WHO の定義によれば健康とは、「身体的健康」「精神的健康」「社会的健康」の 3 つに分けることができる。それぞれの観点から考察することで、ヘルスツーリズムとしてのせとうちクルーズのあり方を検証することができる。
- ・「身体的健康」の観点からみた場合、せとうち感動体験クルーズの内容はあるべき姿から少し遠いものである。朝早くから夜遅くまで絶え間なくプログラムが設定されていて 1 日 5,000 歩程度しか歩かない参加者もいることが予想され、食事は高カロリーの食事が続いている。健康の 3 要素は「運動・栄養・休養」であり、望ましい生活習慣としては「早寝・早起き・朝御飯」が基本である。しかしながら、クルーズ体験中は「遅くまで遊んで疲れるし、食べ過ぎて体重も増える」といった具合では健康的とは言えないとも考えられる。
- ・朝に体操があることは評価できる。参加者が多く歩く必要があるオプションツアーなど、運動系のメニューの充実を図るべきではないか。普段の生活より多く歩くことがストレス低下にもつながり健康感向上につながる。
- ・「精神的健康」の観点からみた場合、健康に寄与することが大きいものと思われる。さまざまな趣味をもった人にも楽しめる内容が充実していることや、寄港地でのボランティアガイドとの相互コミュニケーションは精神的健康に寄与するものである。また、心理学的観点で言えば、似た属性の人が集まりコミュニケーションすることは一定の癒し効果が期待できる。この観点で言えば、一定以上の所得層が集まるクルーズには癒し効果があると推測される。特に今回の場合、参加者は神戸経済同友会関係者も多くその効果は高かったのではないかと。初日にアイスブレイクの時間を入れるなどして参加者同士の交流を促せば、さらに効果が高まるものと思われる。
- ・「社会的健康」の観点からみた場合も、健康に寄与することが大きい。社会的健康とは「よい友達ができる」など、コミュニケーションがある中で作り出せるものである。クルーズ実施前から、より楽しむための勉強や運動のプログラムを提供し、実施後に参加者同士が再び集まれるようコミュニティを形成するなどの刺激を加えることによ

り、より高い効果を期待することができる。

その他

- ・健康の 3 要素は「運動」「栄養」「休養」である。この要素を満たすことができれば、使用する船舶は今回ぱしふいっくびいなす号のように大型クルーズ客船であることは必ずしも必要ではない。また逆に、大型クルーズ客船でも「健康」をテーマにしたクルーズも考えられるのではないか。
- ・「健康」は、「楽しく過ごしていたら気付かないうちに痩せていた」というように、基本的には旅行におけるサブ要素であると思われる。「健康になりたい」など動機に基づいた具体的な目標の実現の手段の一環として、クルーズを位置づけることにより内容を考えることは可能である。
- ・高額商品であれば「アンチエイジングクルーズ」というようなものも考えることもできる。沖縄ではスパリゾートが数多く建設されており、国内外から数多くの旅行者が訪問している。国のプロジェクトの一環として「沖縄SPA産業研究会」も立ち上げられており、現在注目を集めている。
- ・「乗ったら不健康が治る船（健康船）」という位置づけは検討の余地がない訳ではないが、科学的根拠を伴った「健康船」という観点でいうと課題が残る。また、二次予防～三次予防（治療～リハビリ）で活用するとうのはリスクが高い。現実是一次予防（健康増進など疾病の発生を未然に防ぐ行為）としての船・海を体験するクルーズというのが現実的な位置づけではないか。海の風に当たること自体が「海洋療法」という自然療法の一環であり、医学的にも有効と考えられている。
- ・海・船で過ごすこと健康面への有効性は「座観」という手法によって検証できる。さまざまなポイントで周囲を眺めた場合の心理的变化などを計測・比較するものだが、市街地を眺める場合、陸上から海を眺める場合、船上から海を眺める場合などで比較検証することにより、船旅の有効性が実証できるのではないか。

第 章 神戸・瀬戸内クルーズ航路および運航コスト詳細

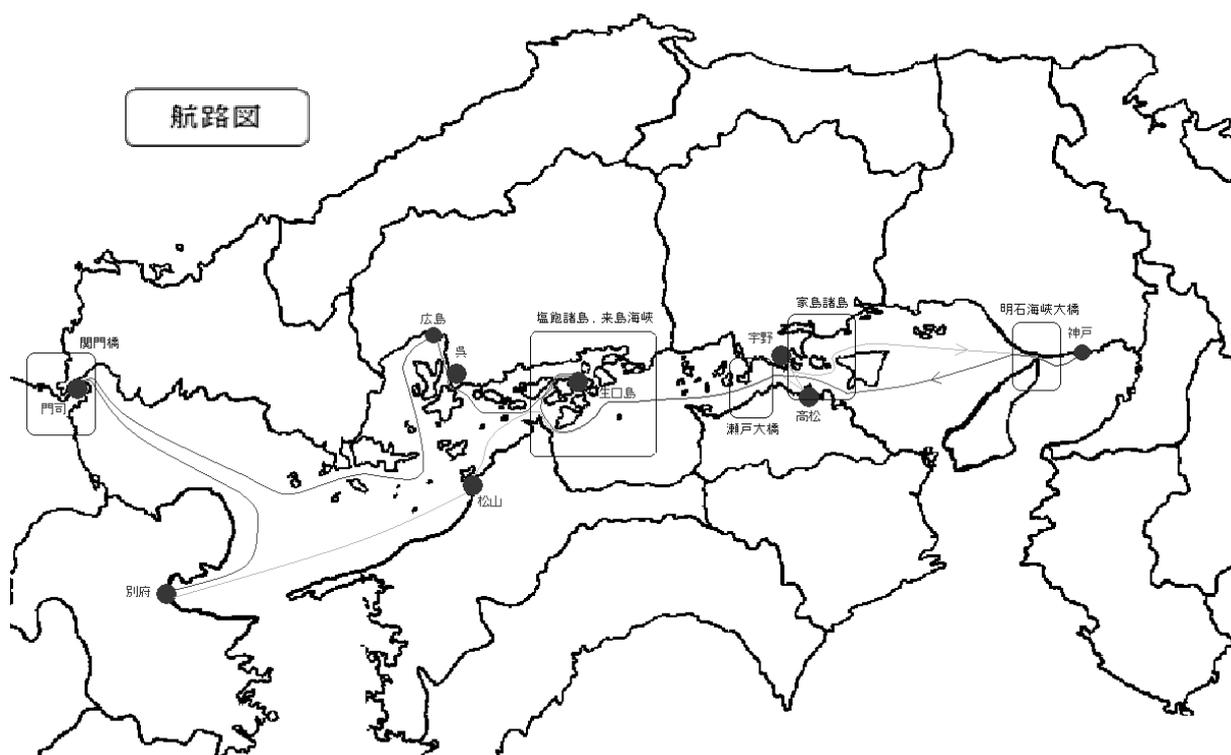
<神戸・瀬戸内クルーズ航路>

神戸港を発着港とし、瀬戸田港・高松港に寄港したせとうち・感動体験クルーズの航路以外にも、神戸・瀬戸内クルーズはさまざまな港に寄港する航路が検討できる。

なお将来的には、外洋航行可能な船舶による韓国など国外を寄港地として盛り込んだ航路による実施も考えられる。

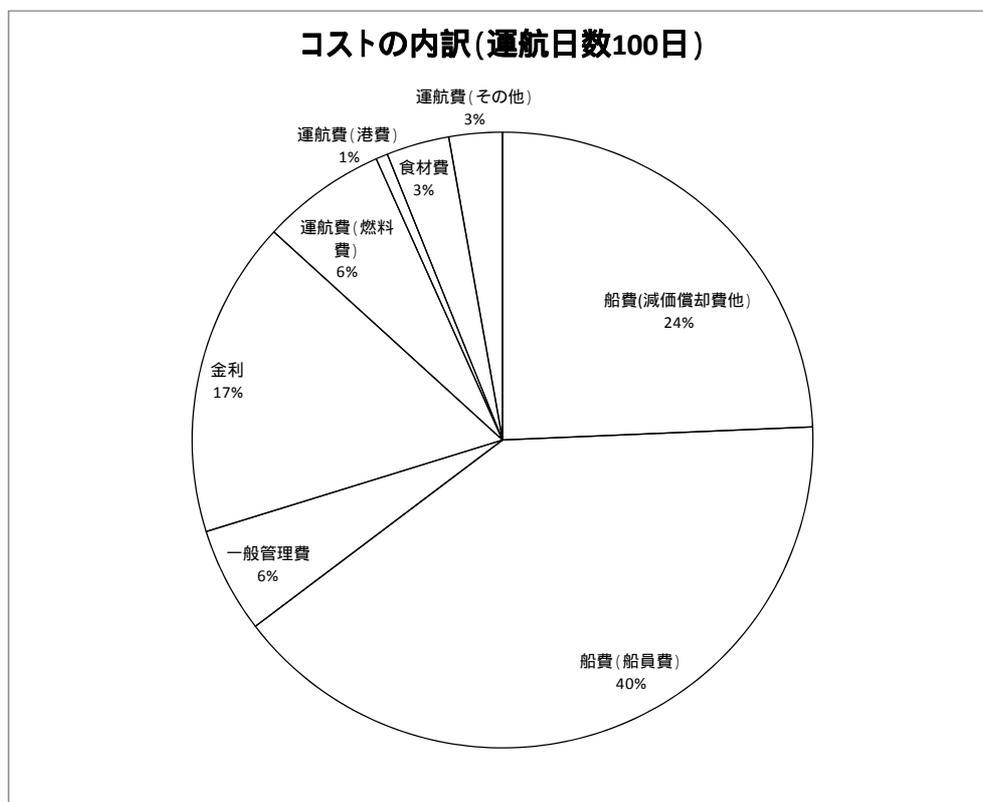
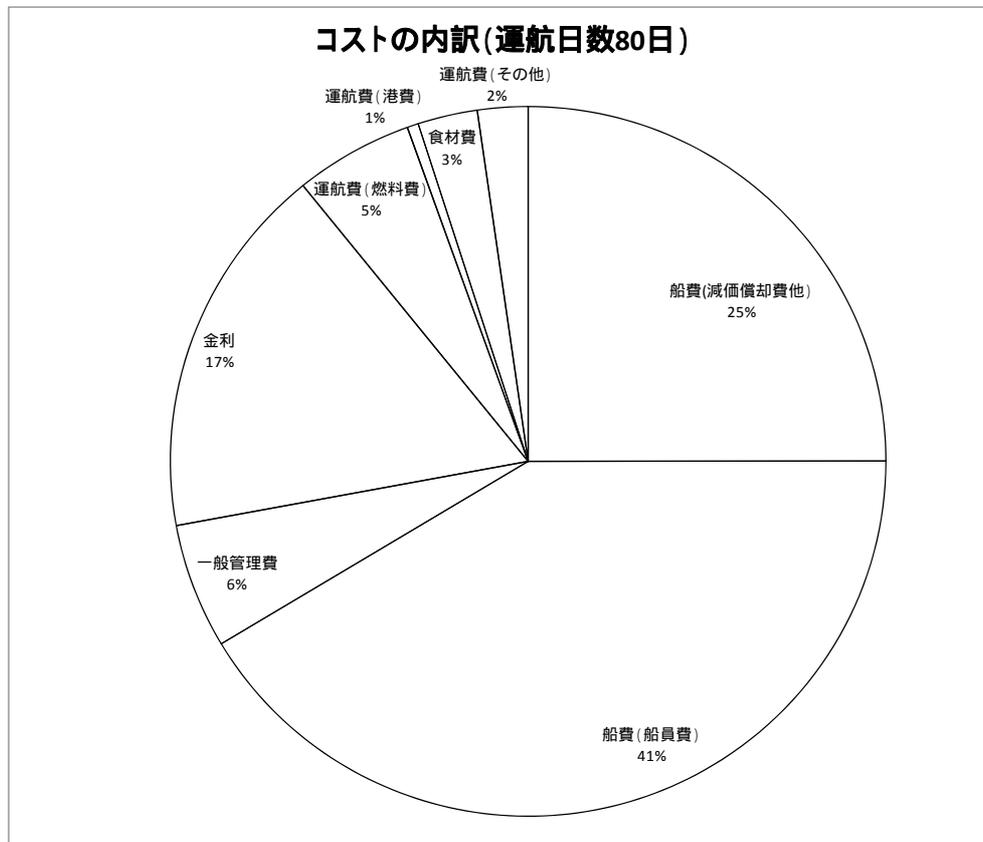
以下に、神戸・瀬戸内クルーズの具体的な航路の一例を紹介する。

港	経由	距離	所要時間	入港	出港	備考
神戸					18:00	
生口島(大三島・御手洗)		118		09:00	13:00	夜景、明石海峡大橋 瀬戸大橋、来島海峡
呉・広島		36		18:00	13:00	
門司		95		09:00	16:00	関門橋
別府		82		09:00	13:00	
松山		44		18:00	13:00	
高松		39		19:00	10:00	塩飽諸島、瀬戸大橋
宇野(牛窓/日生)		11		13:00	17:00	
神戸		58		10:00		家島諸島 明石海峡大橋
		483				

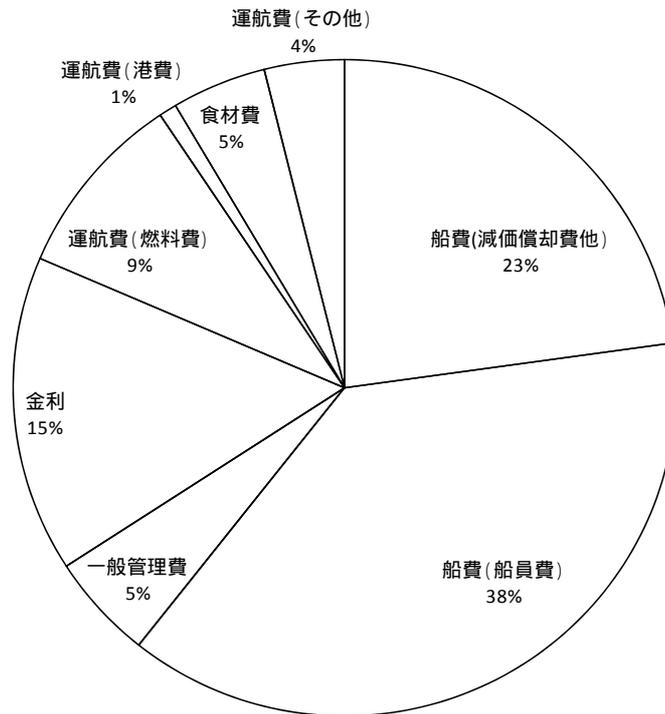


< 乗船率 66%とした時の運航コストの内訳 >

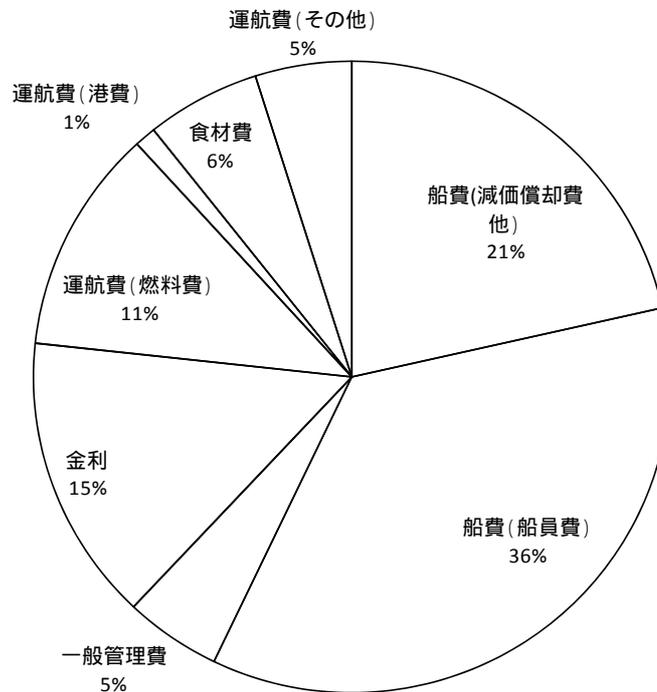
本編「第 章 人と環境にやさしいクルーズ客船のコンセプトデザイン」の「2. 経済性評価」における、クルーズ客船の乗船率を 66%とした場合の、運航日数ごとのコストの内訳を整理すると以下のとおり。



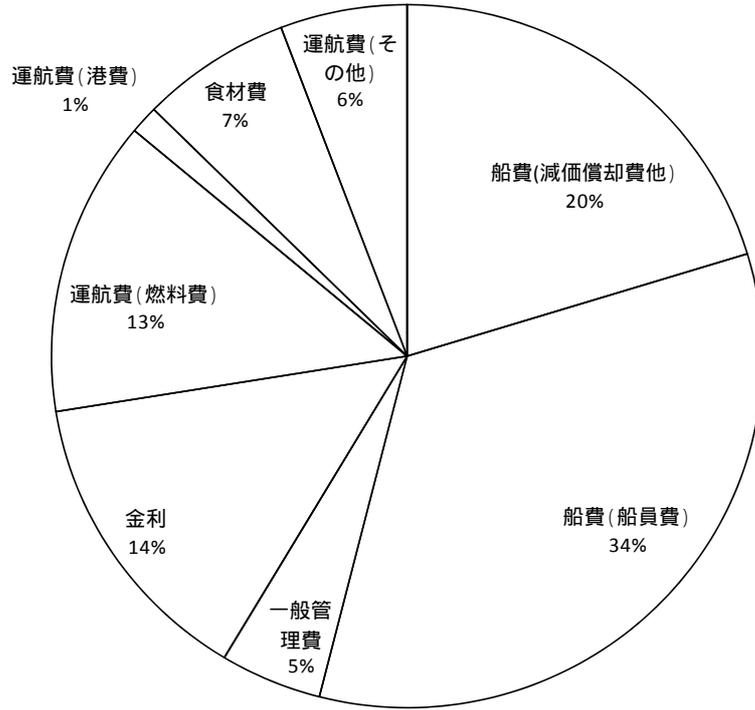
コストの内訳(運航日数150日)



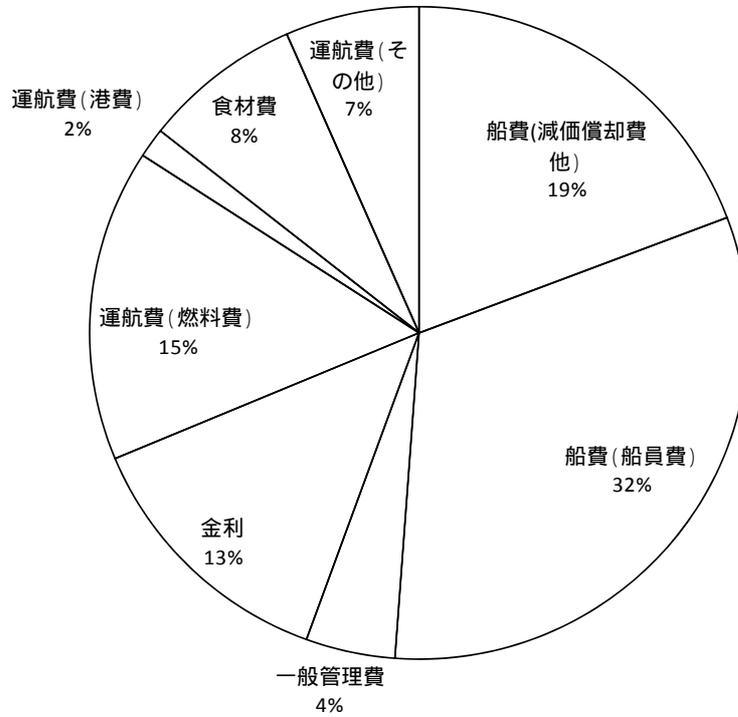
コストの内訳(運航日数200日)



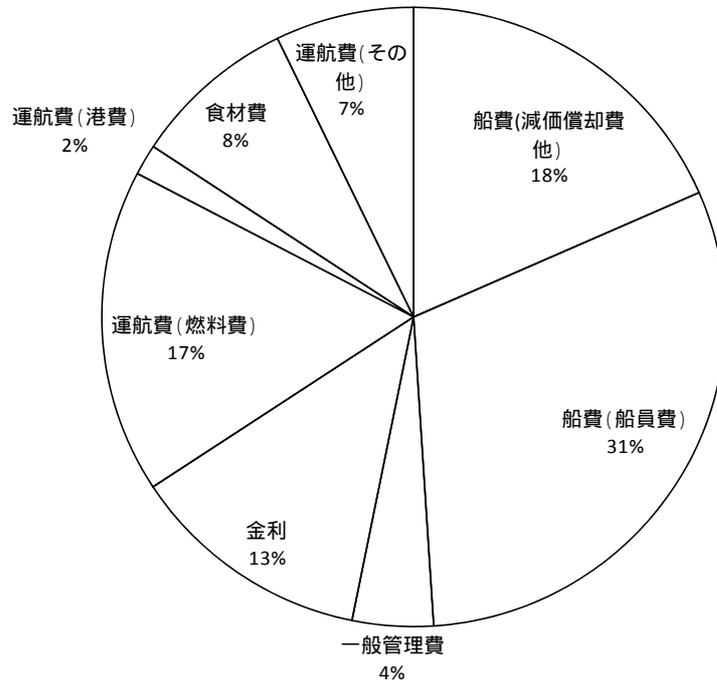
コストの内訳(運航日数250日)



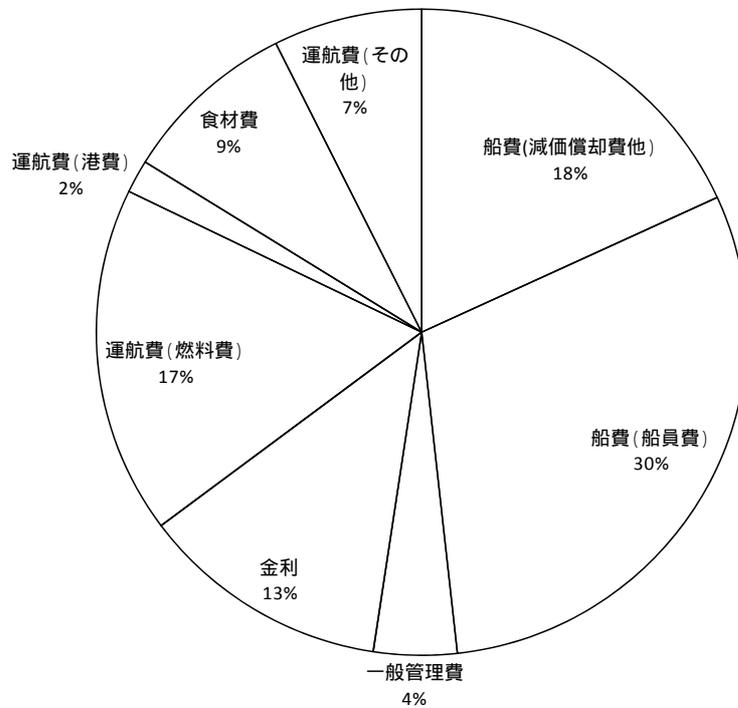
コストの内訳(運航日数300日)



コストの内訳(運航日数343日)



コストの内訳(運航日数358日)



人と環境にやさしい神戸・瀬戸内クルーズのあり方に関する調査研究報告書

平成21年3月

発行人 野村明雄

発行所 財団法人 関西交通経済研究センター

〒550-0005

大阪市西区西本町1丁目7番2号（ウエストスクエアビル9階）

TEL (06) 6543-6291 (代) FAX (06) 6543-6295

<http://www.kankouken.org/>



この報告書は競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。